

はじめに

この度は、弊社 GRANPOWER5000 シリーズをお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

ServerWizard V1.0 は、お求めいただいた GRANPOWER5000 に対して、Windows NT サーバの構築を支援するプログラムです。ServerWizard V1.0 は、次のようにサーバのセットアップを行います。

- ・ ServerWizard の CD-ROM に格納されている機種情報ファイルに従って、オプションカードの確認とハードディスクの初期化および区画設定を行う。
- ・ インストール可能なドライバをインストールする。
- ・ Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 4.0 システム、Microsoft® BackOffice® Small Business Server Version 4.0 または Microsoft® BackOffice® Small Business Server Version 4.5 と添付サーバアプリケーションプログラムをインストールする。

また、クライアントのセットアップを行う機能もあります。

本書では、ServerWizard V1.0 の機能や詳細な操作について説明しています。ServerWizard V1.0 を使いこなす際にお役立てください。

なお、ServerWizard V1.0 をお使いになる前に、サーバ本体のマニュアルをよくお読みになり、サーバ機を使用できる状態にしておいてください。

1999 年 11 月

Microsoft、Windows、WindowsNT、BackOffice、MS-DOS は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LTD. 1998-1999

マニュアルの読みかた

ServerWizard V1.0 には、2 冊のマニュアルが添付されています。
それぞれのマニュアルは、以下のようにお使いください。

ServerWizard でインストールしよう！
WindowsNT4.0 サーバのインストールタイプをお買い求めいただいた場合、最初にサーバを導入するときにお読みください。ServerWizard でのサーバ導入の流れが分かるようになっています。
ServerWizard V1.0 ソフトウェアガイド(本書)
ServerWizard V1.0 の機能を知りたいとき、詳しい操作方法や項目の設定のしかたを知りたいときにお読みください。サーバ情報の設定以外に、クライアントの情報を設定したり、導入後の運用などにも説明しています。

ServerWizard V1.0 をお使いになる前に、必ずサーバ本体に添付のマニュアルをお読みにになり、装置の準備と設置を正しく行ってください。オプションカードなどについては、それぞれマニュアルを参照してください。

表記の約束

本書では、以下の略称を使用しています。

名称	略称
Microsoft® Windows®95 Operating System または Microsoft® Windows®98 Operating System	Windows 95/98
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version4.0	Windows NT WS 4.0
Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version4.0	Windows NT、Windows NT SV4.0 または Windows NT Server
Microsoft® Windows NT® Server Enterprise Edition Version4.0	Windows NT Server /E4.0
Microsoft® BackOffice® Small Business Server Version4.0、 Microsoft® BackOffice® Small Business Server Version4.5	SBS
Windows NT Server および SBS が出荷時にインストールされているマシン	インストールタイプ
Intel LANDesk® ServerManager V6.0	LDSM
Servervisor V1.0	Servervisor

お使いの機種によって、LDSM または Servervisor のどちらかをご利用いただけます。
本書内の説明は、特記のない限り LDSM = Servervisor としてご覧ください。

本書の読みかた

本書は以下のように構成されています。

章・タイトル	内 容
第 1 章 ServerWizard V1.0 の概要	ServerWizard V1.0 ではどのようにサーバ導入をサポートしているのか、概要の説明と、ServerWizard V1.0 の各機能について紹介しています。また、運用上の留意事項も記載していますので、最初に必ずお読みください。
第 2 章 DesignMagic ～サーバのセットアップ情報を 事前に設定する～	サーバ導入前に、サーバの設定やクライアントの設定などを行う DesignMagic の操作について詳しく説明しています。DesignMagic をお使いになるときにお読みください。
第 3 章 ServerWizard ～サーバをセットアップする～	サーバの導入を行う ServerWizard の操作について詳しく説明しています。ServerWizard をお使いになり、サーバを導入するときにお読みください。また、バックアップディスクの作成についても説明しています。
第 4 章 WizardConsole ～クライアント情報を設定 / 変更する～	サーバ導入後の設定変更などを行う WizardConsole の操作について詳しく説明しています。 WizardConsole をお使いになるときにお読みください。また、WizardConsole では、クライアントをセットアップするためのクライアント導入フロッピーディスクを作成します。
第 5 章 ClientWizard ～クライアントをセットアップする～	クライアントのセットアップを行う ClientWizard の操作について詳しく説明しています。 ClientWizard をお使いになるときにお読みください。
付録	以下の機能、操作などの説明を記載しています。必要に応じてお読みください。 付録 A：こんなときは？(Q&A) 付録 B：クライアントセットアップ機能について 付録 C：サービスの詳細設定 付録 D：添付アプリケーションのインストール 付録 E：SystemWalker/LiveHelp® Client V4.0 付録 F：各種情報ファイル

ソフトウェア説明書について

本書で説明する事項以外で、参考となる情報や留意事項は、「ソフトウェア説明書」に記載されています。ServerWizard V1.0 をお使いになる前に、必ずお読みください。

「ソフトウェア説明書」は、「README.TXT」のファイル名で、ServerWizard V1.0 の CD-ROM のルートディレクトリに登録されています。テキストエディタなどで開いてお読みください。また、サーバで ServerWizard を起動し、[ソフトウェア説明書] ボタンを選択しても表示されます。

ServerWizard V1.0 に関する最新情報について

ServerWizard V1.0 に関する最新の情報は、インターネットの弊社ホームページ (GRANPOWER / OPEN WORLD) でご確認ください。

ServerWizard CD に関する注意事項について

ServerWizard V1.0 の CD-ROM は、レーベルに記述してあるサーバ機以外では動作しません。
絶対に他の機種では使用しないでください。

目 次

第 1 章 ServerWizard V1.0 の概要	1
1.1 ServerWizard V1.0 とは	1
1.2 ServerWizard V1.0 の各機能	4
1.2.1 DesignMagic - セットアップ前の設定 -	4
1.2.2 ServerWizard - サーバのセットアップ -	4
1.2.3 WizardConsole - セットアップ後の設定 -	5
1.2.4 ClientWizard - クライアントのセットアップ -	5
1.3 必要なシステム	6
1.4 ServerWizard を起動する前に	7
1.5 ServerWizard V1.0 でのセットアップ手順	8
1.6 クライアントセットアップ、デスクトップ設計を利用するには	10
1.6.1 クライアントセットアップの使用条件	10
1.6.2 デスクトップ設計の使用条件	10
第 2 章 DesignMagic	11
2.1 DesignMagic の流れ	11
2.2 DesignMagic を起動する	13
2.3 サーバ設計	15
2.4 クライアントシステム設計	22
2.5 クライアントセットアップ	29
2.5.1 セットアップ資源情報（アプリケーション）を登録する	31
2.5.2 セットアップ資源情報（ファイル）を登録する	34
2.5.3 セットアップ資源情報（実行コマンド）を登録する	36
2.6 デスクトップ環境設定	38
2.6.1 デスクトップ環境の設定	40
2.7 設定情報の確認、登録	44
第 3 章 ServerWizard	47
3.1 サーバ導入前の準備 / 注意	47
3.2 Service Pack について	48
3.3 ServerWizard を起動する	48
3.4 サーバのセットアップ（新規）	50
3.4.1 サーバ情報設定画面での操作について	50

3.4.2	サーバ情報の設定	52
3.5	サーバのセットアップ（読み込み）	64
3.6	サーバインストール後の処理	68
3.6.1	インストール後の状態	68
3.6.2	Windows NT セットアップ後の処理	68
3.6.3	SBS インストール後の注意事項	69
3.6.4	管理ソフトウェアのインストール（アレイタイプのみ）	69
3.6.5	Windows NT Server の再インストール（インストールタイプの場合）	69
3.6.6	大容量メモリ搭載時の留意事項	70
3.6.7	LDSM / Servervisor インストール後の処理	70
3.7	ユーティリティ	71
3.7.1	バックアップディスクの作成	71
第 4 章	WizardConsole	73
4.1	WizardConsole の手順、機能	73
4.2	クライアント情報の追加 / 変更	74
4.2.1	ユーザ情報の追加 / 変更	75
4.2.2	グループ情報の追加 / 変更	76
4.2.3	共有資源フォルダの追加 / 変更	78
4.2.4	クライアントシステム設計	80
4.3	クライアントコンピュータの追加 / 変更	82
4.4	クライアント導入フロッピーの作成	86
4.5	サーバ情報ファイルの作成	88
4.6	プリンタの追加	88
4.7	クライアントセットアップ	88
4.7.1	クライアントセットアップ情報の設定	89
4.7.2	セットアップ資源の編集操作	91
4.7.3	セットアップ指示の編集操作	92
4.7.4	セットアップ資源情報の設定	94
4.7.5	クライアントセットアップの終了	94
4.8	クライアントセットアップ動作環境	95
4.9	デスクトップ環境設定	96
4.10	WizardConsole のアンインストール	96

5.1 セットアップ前の準備	99
5.1.1 サーバ側の準備	99
5.1.2 クライアント側の準備	100
5.1.3 ネットワーク環境の準備	100
5.2 クライアントコンピュータのセットアップ	101
5.3 ClientWizard のアンインストール	106
付録	109
付録 A こんなときは (Q&A)	109
Q. モデムを追加するには?	109
Q. プリンタを追加するには?	110
Q. 区画(パーティション)はどのように作成されますか?	113
Q. RAID を構築するときの注意点は?	114
Q. スーパーフロッピー形式の光磁気ディスクは使用できますか?	115
付録 B クライアントセットアップ機能について	116
B-1 クライアントセットアップ機能とは	116
B-2 クライアントに資源をインストールするための設計	116
B-3 クライアントコンピュータの追加 / 変更時	117
B-4 留意事項	118
付録 C サービスの詳細設定	121
付録 D 添付アプリケーションのインストール	127
D-1 DSNAP	127
D-2 PROBEPRO	128
D-3 Power MANagement for Windows 電源制御エージェント	128
D-4 LiveHelp	129
D-5 FM Advisor	129
付録 E SystemWalker/LiveHelp® Client V4.0	130
E-1 操作概要	130
E-2 その他の機能	132
付録 F 各種情報ファイル	133
索引	134

第 1 章 ServerWizard V1.0 の概要

1.1 ServerWizard V1.0 とは

ServerWizard V1.0 を使うと、サーバやクライアントへのインストール作業の負担を軽減できます。これまでインストールしながら行っていた各種設定をウィザード形式でまとめて設定し、サーバおよびクライアントへのインストールを自動的行います。

ServerWizard でインストールした後の変更は・・・

インストール後のクライアントの追加、グループの追加など、サーバ運用に関する変更は、WizardConsole で行います。



ネットワークの構築ができます

ServerWizard では、サーバの導入時に Windows NT のワークグループ、ドメイン等のネットワークモデルでネットワークを構築できます。サーバをプライマリドメインコントローラとしてネットワークを構築する場合、クライアントのセットアップおよびアプリケーションのセットアップまで簡単に行うことができます。

設定したアカウント（ユーザ、グループ、共有資源）は一覧形式で表示されます。アカウントの関連付けも簡単にできます。

Windows NT で構築できるネットワークドメインの詳細については Windows NT のマニュアルを参照してください。

クライアントのデスクトップ環境を一括管理

クライアントのデスクトップに、業務に必要な機能のみを表示させることができます。Web 形式のメニュー(WizardMenu)を使って、クライアントから各アプリケーションを簡単に起動することもできます。WizardMenu は、デスクトップ環境設定の[初期メニュー]タブで「Web メニュー」を指定すると利用できます。

WizardMenu の起動ボタンは、WizardMenu 作成ツールを使用して作成します。大きさを変更したり、画像データをボタンに貼り付けるなど、自由な形式で作成することができます。WizardMenu 作成ツールを起動するには、サーバインストール終了後に「スタート」 - 「プログラム」 - 「ServerWizard」 - 「WizardMenu 作成ツール」を選択します。

WizardMenu の例



デスクトップの環境設定、WizardMenu、WizardMenu 作成ツールについては、「2.6 デスクトップ環境設定」および各機能のヘルプを参照してください。

WizardMenu と WizardMenu 作成ツールは、デスクトップ環境設定をインストールすると、同時にインストールされます。デスクトップ環境設定のインストールについては「1.6.2 デスクトップ設計の使用条件」を参照してください。

1.2 ServerWizard V1.0 の各機能

ServerWizard V1.0 には、以下の 4 つの機能が用意されています。

- ・ DesignMagic - セットアップ前の設定 -
- ・ ServerWizard - サーバのセットアップ -
- ・ WizardConsole - セットアップ後の設定 -
- ・ ClientWizard - クライアントのセットアップ -

ServerWizard V1.0 の便利な各機能について、ご紹介します。

1.2.1 DesignMagic - セットアップ前の設定 -

DesignMagic でセットアップ情報を設定する

DesignMagic では、サーバを導入する前に、以下の設定ができます。

- ・ サーバのセットアップ情報
- ・ サーバを使用するクライアントの情報
- ・ サーバに設定するグループや共有フォルダの設定
- ・ クライアントにインストールする資源の設計
- ・ クライアントのデスクトップ環境（表示内容）

Point

DesignMagic は、Windows 95/98 または、Windows NT WS 4.0 が動作する環境で操作を行うので、サーバを起動せずに、自分のマシンから操作できます。

設定した情報は、サーバ情報ファイルとしてフロッピーディスクに登録します。すでに登録済みのサーバ情報ファイルを読み込んで、設定情報を修正することもできます。

設定時には、ある程度の専門知識が必要ですが、一度設定し、サーバ情報ファイルを作成すると、専門知識がなくてもサーバのセットアップ、インストールを簡単に行うことができます。

1.2.2 ServerWizard - サーバのセットアップ -

ServerWizard でセットアップしよう

ServerWizard を使用してセットアップすることにより、メッセージに従って操作していただくだけで簡単にインストールできます。そのほかにも、次のメリットがあります。

- ・ オプションカード搭載位置の間違いによるインストールミスを防げます。
- ・ 自動的にハードウェアの最新ドライバや OS のサービスパックなどがインストールできます。
- ・ セットアップの途中で指定内容を確認する必要がなく、その場にいなくてもセットアップが進むので、長い作業時間を有効に活用できます。

1.2.3 WizardConsole - セットアップ後の設定 -

インストール後は WizardConsole で設定変更

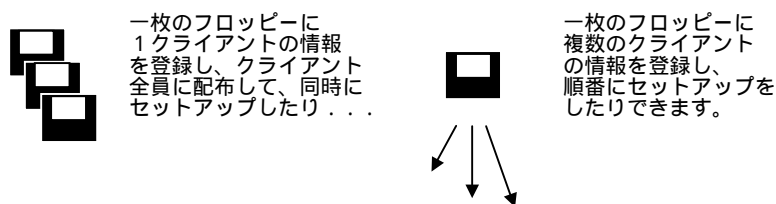
インストールが終了し、サーバを運用していくうちに、サーバを利用するユーザの増加、新しいグループの追加作成、設定してあった共有資源を使用しなくなる場合、などの変更が発生します。そんなときは、WizardConsole を使って各種設定情報を変更します。

また、クライアントを追加したり、追加したクライアントへ DesignMagic で定義した資源をインストールするよう設定することもできます。

WizardConsole では、修正した設定内容が即座に反映されます。

クライアント導入フロップリーの作成

WizardConsole で、設定した情報はクライアント導入フロップリーに保存します。



WizardConsole を利用するには

WizardConsole を利用するには、次の準備が必要です。

- 1) DesignMagic や ServerWizard でセットアップするサーバとしてプライマリドメインコントローラを指定する。
- 2) DesignMagic や ServerWizard で WizardConsole をインストールするよう指定する。
- 3) 1)、2)を指定した上で ServerWizard を使ってサーバをセットアップする。

WizardConsole の起動は、[スタート] メニューから [プログラム] - [ServerWizard] - [WizardConsole] を選択します。

1.2.4 ClientWizard - クライアントのセットアップ -

クライアントのセットアップも簡単に

WizardConsole でクライアント導入フロップリーを作成した後は、各クライアントにフロップリーディスクをセットして、ClientWizard からセットアップを行います。複数のクライアントに同一アプリケーションや同一ファイルのインストールが簡単にできます。

Point

クライアント導入フロップリーに複数のクライアントが登録されている場合は、自分が使用するコンピュータ名を選択して、あとは [OK] をクリックするだけで、登録されている情報が自動的にセットアップされます。
セットアップが終了すると、クライアント導入フロップリーからセットアップしたコンピュータの情報が削除されるので、間違えて同じコンピュータ名でセットアップされることもありません。

1.3 必要なシステム

操作を始める前に、あらかじめ以下の CD-ROM、またはフロッピーディスクをお手元にご用意ください。

サーバ側		
	ハードウェア	お買い上げいただいた GRANPOWER5000 シリーズ本体
	ソフトウェア	使用する OS (Windows NT または SBS) の CD-ROM ServerWizard の CD-ROM サーバ情報ファイル登録用のフロッピーディスク (本製品に添付の「サーバ情報ファイル登録用」フロッピーディスクを用意し、a.b.のどちらかを行ってください。) a. DesignMagic でサーバ情報を登録しておく 読み込みでセットアップ b. そのまま使う 新規でセットアップ クライアント情報ファイル登録用のフロッピーディスク (未使用のフロッピーディスク ... 必要枚数) ⇒「クライアント導入フロッピー」と呼びます。 修復ディスクを作成するためのフロッピーディスク (未使用のフロッピーディスク ... 1 枚) サービスパックの CD-ROM (ServerWizard の CD-ROM に入っている Service Pack を使用する場合は不要です。) Servervisor の CD-ROM オプションカードに添付されているドライバのフロッピーディスク など
クライアント側		
	ハードウェア	当社 FMV シリーズなど Windows 95/98、Windows NT WS 4.0 が動作するパーソナルコンピュータ本体 (CD-ROM ドライブ必須) LAN カード
	ソフトウェア	使用する OS の CD-ROM (Windows 95/98、Windows NT WS 4.0) ServerWizard の CD-ROM サーバ情報ファイル登録用フロッピーディスク WizardConsole で作成したクライアント導入フロッピー Microsoft®InternetExplorer 3.02 以上 (デスクトップ設計で Web メニューを使用する場合) ▶デスクトップ設計について 「2.6 デスクトップ環境設定」
ネットワーク環境		
	ハードウェア	ハブユニット、ルータ LAN ケーブル (必要本数分) サーバのインストール後は、LAN などのご使用になる接続形態に合わせてクライアントコンピュータを接続してください。

1.4 ServerWizard を起動する前に

ServerWizard をお使いになる前に、必ず本体の取扱説明書などをよくお読みになり、以下の事項に留意してサーバの準備を行ってください。

サーバ導入前の準備

- ・ パッケージの内容を確認する
- ・ 設置場所を確認する
- ・ 本体マニュアルを読む

内蔵オプション取り付け時の注意

インストールタイプをご使用のとき、または ServerWizard を使用して OS をインストールするとき、内蔵オプションや周辺機器を使用する場合は、以下の点に注意してください。これらの注意を守っていただかない場合は、正常にインストールが行われません。

Note

- ・ 本体マニュアルを参照し、正しいスロットにオプションカードを取り付けてください。
- ・ OS がインストールされるハードディスクは、自動的に選択されます。OS のインストール
- ・ オプションの SCSI カードを搭載して、外部 SCSI オプション装置（ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクなど）を増設する場合は、OS のインストールおよびセットアップが終了してから電源を切断して接続を行ってください。

BIOS セットアップユーティリティ

本体マニュアルを参照し、BIOS セットアップユーティリティにより以下の設定を行ってください。

- ・ PCI カードの設定（PCI カードを使用する場合）
- ・ パスワードの設定（パスワードを設定する場合）
- ・ サーバモニタモジュールの設定（サーバモニタモジュールを使用できる機種で、ご使用になる場合）

SCSI コンフィグレーションユーティリティ

ご使用の機種によっては、SCSI コンフィグレーションユーティリティの設定、および確認を行う必要があります。

詳しくは本体マニュアルを参照してください。

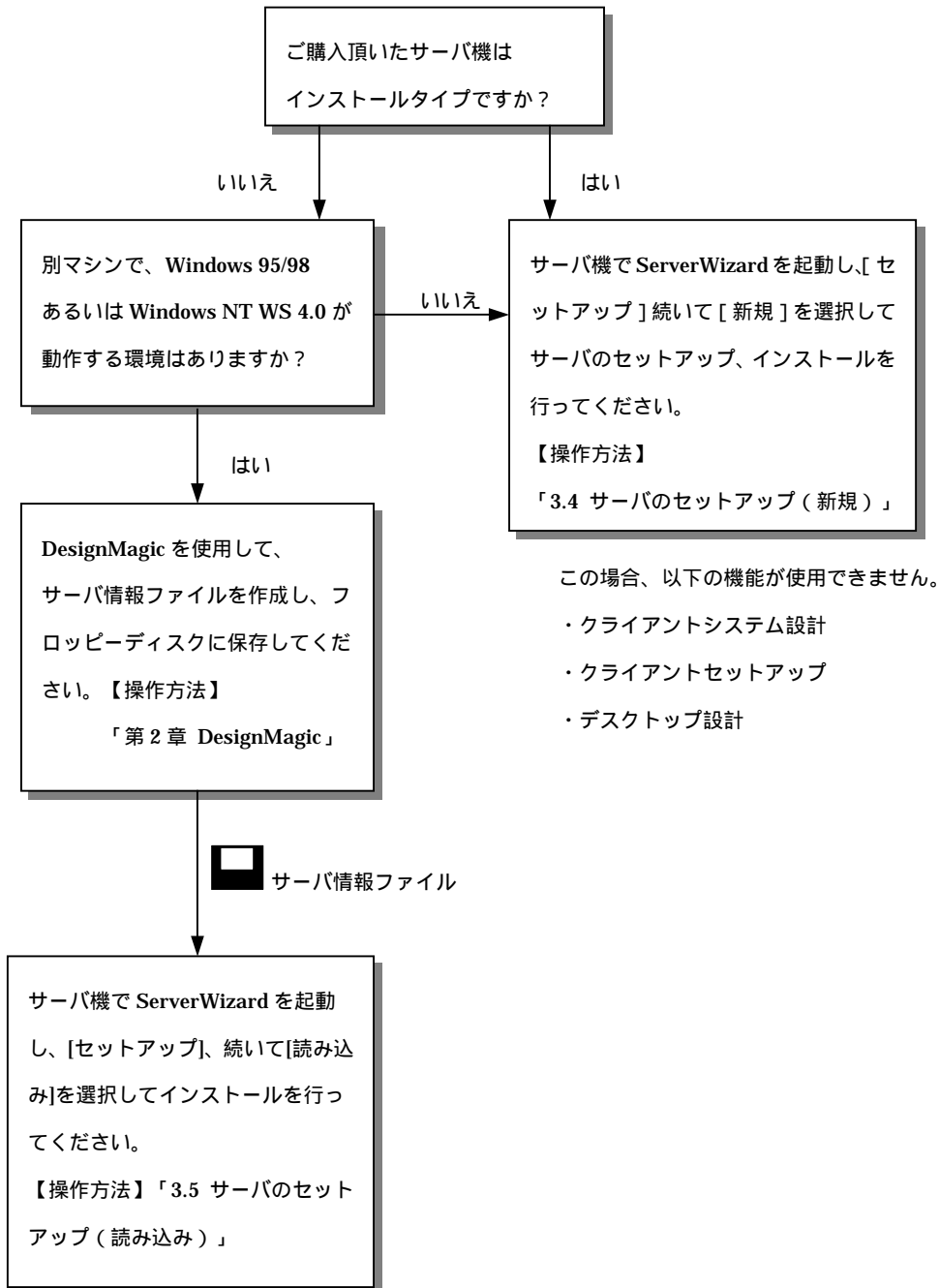
コンフィグレーションユーティリティ

ご使用の機種によっては、コンフィグレーションユーティリティ（ICU（ISA コンフィグレーションユーティリティ）または SSU（システムセットアップユーティリティ））を実行しておく必要があります。詳しくは本体に添付のマニュアルを参照してください。

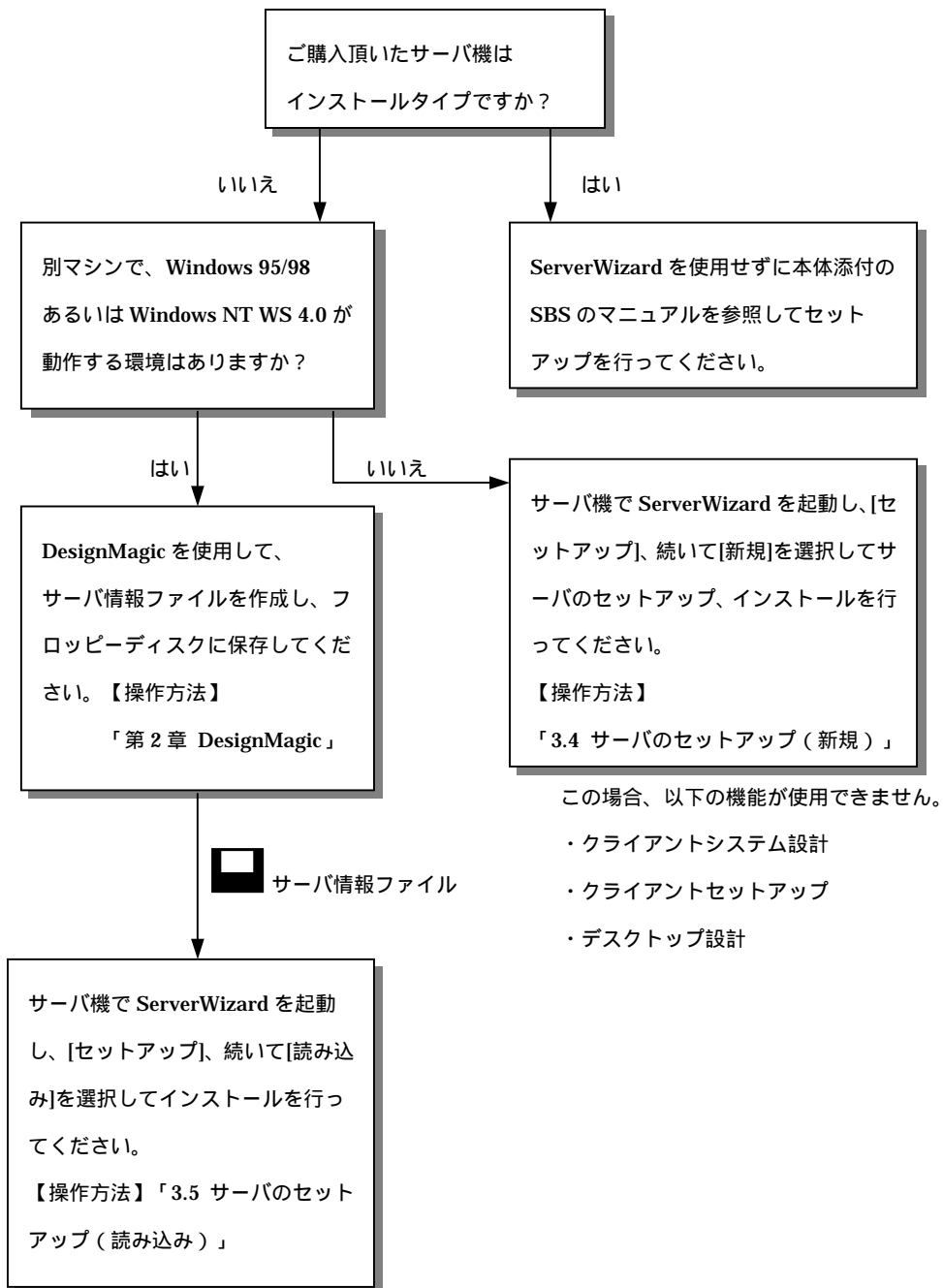
1.5 ServerWizard V1.0 でのセットアップ手順

ServerWizard V1.0 でサーバをセットアップする場合、次の条件に従って適切な方法を選択してください。

Windows NT の場合



SBS の場合



SBS の場合には、添付アプリケーションや WizardConsole はインストールされません。

1.6 クライアントセットアップ、デスクトップ設計を利用するには

Note

WizardConsole、クライアントセットアップ、デスクトップ設計を使用する場合は、必ず「サーバ設計」時に、これらの機能をインストールするように指定してください。OS のセットアップ終了後に手動でインストールすることはできません。

1.6.1 クライアントセットアップの使用条件

「クライアントセットアップ」は、次の条件を満たすとき、使用できます。

- 条件 1) 「サーバ設計」のユーザ情報の設定画面で「サーバ種別」に「プライマリドメインコントローラ」を指定している。
- 条件 2) 「サーバ設計」のアプリケーションの設定画面で「WizardConsole をインストールする」を指定し、「クライアントセットアップを使用する」を選択している。
- 条件 3) 「クライアントシステム設計」でクライアントコンピュータを登録している。

1.6.2 デスクトップ設計の使用条件

「デスクトップ設計」は、次の条件を満たすとき、使用できます。

- 条件 1) 「サーバ設計」のユーザ情報の設定画面で「サーバ種別」に「プライマリドメインコントローラ」を指定している。
- 条件 2) 「サーバ設計」のアプリケーションの設定画面で「WizardConsole をインストールする」を指定し、「デスクトップ設計を使用する」を選択している。
- 条件 3) 「クライアントシステム設計」を完了している。

第 2 章 DesignMagic

～ サーバのセットアップ情報を事前に設定する ～

サーバ、クライアントのセットアップ情報を事前に設定し、サーバ情報ファイルを作成します。

DesignMagic を使うために必要な環境

- ・ Windows 95/98 または、Windows NT WS 4.0 が動作するマシン（CD-ROM ドライブ必須）
- ・ ServerWizard V1.0 の CD-ROM
- ・ 新しいフロッピーディスク 1 枚（サーバ情報ファイル登録用）

2.1 DesignMagic の流れ



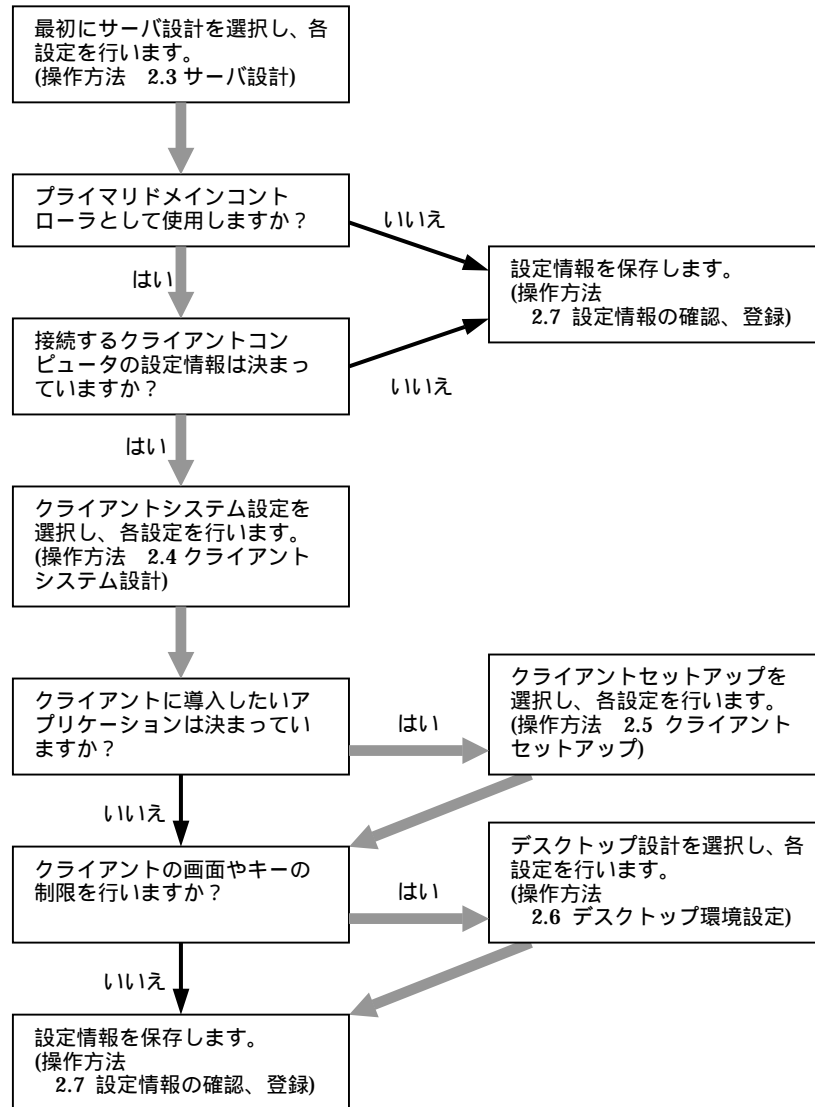
▶クライアントセットアップを使用するには 「1.6.1 クライアントセットアップの使用条件」を参照

▶デスクトップ設計を使用するには 「1.6.2 デスクトップ設計の使用条件」を参照

操作フローチャート

サーバ設計のみ行った場合でも、サーバ情報ファイルは作成できます。

クライアントシステム設計、クライアントセットアップ、デスクトップ設計などを行う際には、以下の条件に従って適切な方法を選択してください。



Note

【サーバ設計】でサーバ種別を「プライマリドメインコントローラ」にした場合のみ、WizardConsole およびクライアントセットアップ機能、デスクトップ設計機能をインストールするように指定できます。また、WizardConsole およびクライアントセットアップ機能、デスクトップ設計機能を【サーバ設計】でインストールするように指定していない場合は、機能に対しての設定は行うことができません。

2.2 DesignMagic を起動する

DesignMagic は、Windows 95/98 または Windows NT WS 4.0 以上がインストールされているマシンで操作を行います。

他のアプリケーションなどが起動している場合は、終了してください。

1) ServerWizard の CD-ROM をセットします。

DesignMagic が起動します。



Note

- ・ロック機能がある CD-ROM ドライブの場合、手順 1) の段階で、CD-ROM がロックされて取り出せなくなります。ロックは DesignMagic 終了時に解除されて、CD-ROM が取り出せるようになります。

- ・CD-ROM をセットしても DesignMagic が起動しない場合は、以下の操作を行ってください。CD-ROM ドライブを E: として説明しています。

1) [スタート] の [ファイル名を指定して実行] をクリックします。

ファイル名を指定して実行画面が表示されます。

2) 「名前」に、次のように入力し、[OK] をクリックします。

E:\SVWIZARD\DMAGIC\DMAGIC.EXE

Point

DesignMagic での設定をすべて終了する前に DesignMagic を終了してしまった場合は、CD-ROM をセットし直すか、エクスプローラなどで CD-ROM ドライブを右クリックし、[自動再生] をクリックしてください。

サーバ設計で選択したインストール OS の種別によっては、「クライアントシステム設計」、「クライアントセットアップ」、「デスクトップ設計」の操作が行えない場合があります。

OS 種別	サーバ設計	クライアントシステム設計	クライアントセットアップ	デスクトップ設計
Windows NT 新規インストール				
Windows NT インストールタイプ				
SBS 新規インストール	(一部)	×	×	×
SBS インストールタイプ	×	×	×	×

DesignMagic 画面のメニュー

項目	説明
[ファイル] メニュー	
新規作成	新規にサーバ設計、クライアントシステム設計、クライアントセットアップ、デスクトップ設計を行います。新規作成を行うと、設定中の情報を初期状態に戻すことができます。
開く	既存のサーバ情報ファイルを選択し、設定の確認、設定を行います。変更したファイルを上書き保存するか、別名で保存することで、新規にサーバ情報ファイルを作成できます。
別名で保存	現在設定中のサーバ情報ファイルを、別名で保存します。
プリンタの設定	使用するプリンタを設定をします。
印刷	サーバ設計、クライアントシステム設計、クライアントセットアップ、デスクトップ設計の設定内容を印刷します。印刷して設定内容を確認できます。
アプリケーションの終了	DesignMagic を終了します。現在設定中の内容が保存されていない場合は、フロッピーディスクへサーバ情報ファイルの保存を確認する画面が表示されます。保存せずに終了する場合は [いいえ] をクリックしてください。
[ヘルプ] メニュー	
トピックの検索	DesignMagic のヘルプが表示されます。ヘルプには、各設定画面の説明が書かれています。
バージョン情報	DesignMagic のバージョン情報が表示されます。

14 2.2 DesignMagic を起動する

2.3 サーバ設計

- 1) [サーバ設計] をクリックします。
サーバ設計画面が表示されます。



- 2) ご使用になる「機種名」が正しく表示されていることを確認し、サーバにインストールする OS と、導入種別を指定します。

▶各項目の詳細説明 [ヘルプ] をクリック

Point

最新の機種情報ファイルは、弊社のインターネットサービス(GRANPOWER/OPEN WORLD)で提供しています。フロッピーディスクなどにダウンロードしてご利用ください。
インストールタイプでも、OS を再インストールする場合は、「新規導入」を選択してください。
ハードディスクの初期化からインストールが行われます。

Note

ご使用になる機種を指定しなかった場合は、正常にインストールが行われません。

- 3) [OK] をクリックします。
ハードディスクの設定画面が表示されます。



Point サーバ設計画面で導入種別を「インストールタイプ」に指定した場合は、ハードディスクの設定画面は表示されません。手順 6)へ進んでください。

- 4) OS が起動する装置と、区画のサイズを指定します。

	サイズ [MB]	デフォルト値	ファイルシステム	ボリュームラベル
システム 区画	2048 ~ 4096	(4096)	NTFS / FAT 選択	なし
アプリケー ション区画	1 ~ 6144 (システム区画との合計 が 8192 まで)	(4096)	NTFS 固定	Swapldrv

▶各項目の詳細説明 [ヘルプ] をクリック

▶ハードディスクの台数について 「付録 A」の「Q.RAID を構築するときの注意点は?」参照

Point 区画を管理する領域があるサーバでは、実際の区画は指定した容量より小さくなる場合があります。
指定した容量より小さなハードディスクが装着されていた場合、区画 (D:ドライブ) が作成されなかったり、自動的にサイズが変更される場合があります。
アプリケーション区画は、“NTFS”で初期化します。システム区画に関しては、「NTFS に変換する」が指定されなかった場合は“FAT”で初期化します。
使用する SCSI アレイコントローラカードによっては、RAID 6 はサポートされていない場合があります。

- 5) [次へ]をクリックします。
 ユーザ情報の設定画面が表示されます。

- 6) ユーザ情報を設定します。 ▶各項目の詳細説明 [ヘルプ]をクリック

Point

「プロダクト ID」は、『ファーストステップガイド』を参照してください。

「CD キー」は、CD-ROM のケースを参照してください。

手順 1)のサーバ設計画面で、導入 OS に SBS を指定した場合は、手順 5)で次の画面が表示されます。各項目を設定し、[完了] ボタンをクリックすると設定が終了します。手順 12)へ進んでください。

Note

サーバ種別を「バックアップドメインコントローラ」に設定した場合は、あらかじめプライマリドメインコントローラのサーバ側に、コンピュータアカウントを作成しておく必要があります。サーバ種別に「スタンドアロンサーバ」、メンバーに「ドメイン」を設定した場合も、同様にコンピュータアカウントの作成が必要です。

作成していない場合には、プライマリドメインコントローラ側にアカウントを作成するため、管理者のユーザ名とパスワードを入力する必要があります。

- 7) [次へ]をクリックします。
ネットワークの設定画面が表示されます。

- 8) TCP/IP プロトコルを設定します。

▶各項目の詳細説明 [ヘルプ]をクリック

Note

- ・ オプションの LAN カードを使用する場合には、カードごとの IP アドレスを指定することはできません。その場合は TCP/IP の設定で、「DHCP を使用する / 複数の LAN カードを使用する」を選択し、一度 OS のセットアップを行います。インストール完了後に手動で IP アドレスを設定してください。
- ・ Point to Point Tunneling プロトコルをインストールする場合は、RAS のインストールも必要になります。

[詳細] をクリックすると、ネットワークの詳細画面が表示されますので、必要な項目を設定します。

▶各項目の詳細説明 [ヘルプ] をクリック



[OK] をクリックすると、設定が有効になり、ネットワークの設定画面に戻ります。

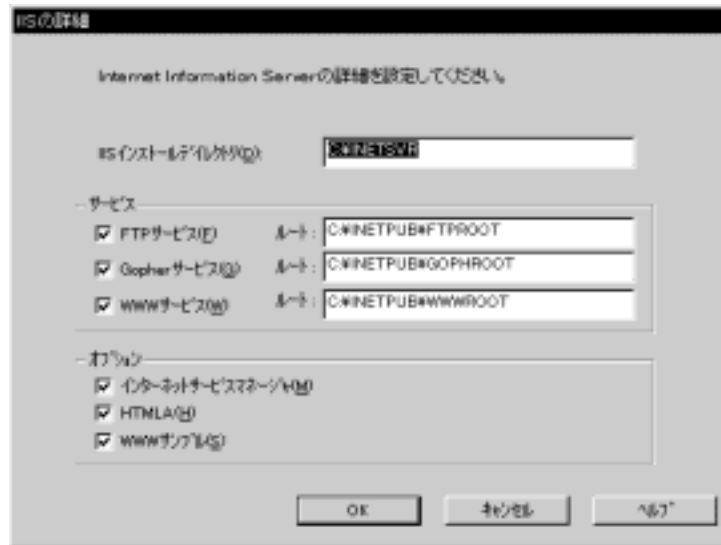
- 9) [次へ] をクリックします。
サーバ機能の設定画面が表示されます。



- 10) 使用するサービス、アプリケーションを設定します。
[詳細] ボタンがあるサービスを使用する場合は、[詳細] ボタンをクリックして、各項目を設定してください。

▶各サービスの詳細設定について 「付録 C サービスの詳細設定」参照

Internet Information Server の [詳細] ボタンをクリックすると IIS の詳細画面が表示されます。必要な項目を設定してください。 ▶各項目の詳細説明 [ヘルプ] をクリック



サービス、オプションの詳細については、IIS のマニュアルを参照してください。
[OK] をクリックすると、設定が有効になり、サーバ機能の設定画面に戻ります。

- 11) [次へ] をクリックします。
アプリケーションの設定画面が表示されます。



- 12) インストールするアプリケーションを選択します。
▶添付アプリケーションについて 「付録 D 添付アプリケーションのインストール」参照
▶各項目の詳細説明 [ヘルプ] をクリック

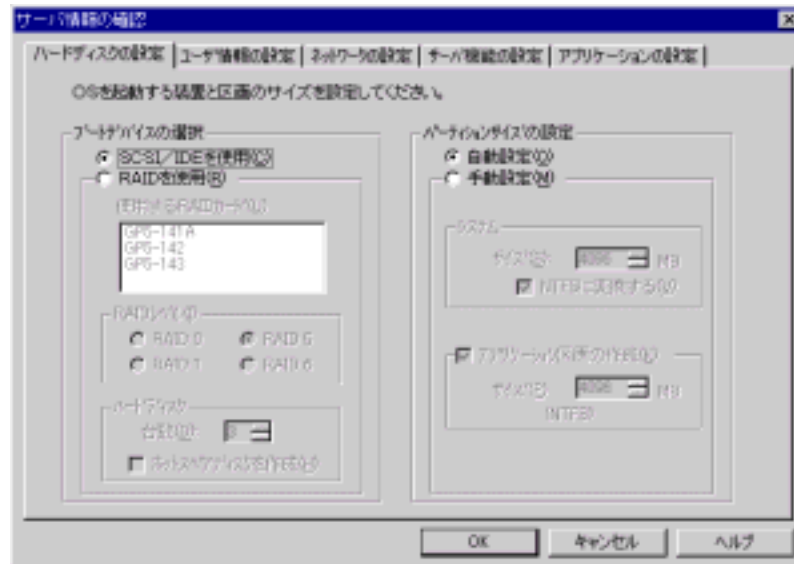
Note

添付アプリケーションに LDSM または Servvivor を選択する場合は、必ず「Service Pack を適用する」をチェックしてください。

- 13) [完了]をクリックします。
サーバ情報の確認画面が表示されます。

Note

添付アプリケーションで LDSM または Servervisor を選択している場合、SNMP サービスの設定（または設定内容の変更）が必要になります。その場合は確認のメッセージが表示されますので、[はい]をクリックして作業を続けてください。



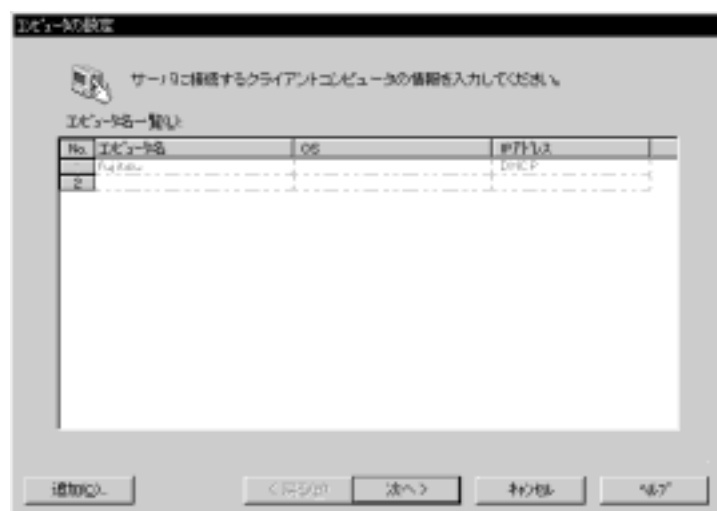
今まで設定してきた内容が確認できます。

- 14) 確認したいタブをクリックし、内容を確認、修正します。
- 15) [OK]をクリックします。
DesignMagic の画面に戻ります。

2.4 クライアントシステム設計

サーバを使用するクライアントの情報や、サーバに設定するグループ、共有フォルダの設定および関連付けを行います。

- 1) 「クライアントシステム設計」をクリックします。
コンピュータの設定画面が表示されます。
あらかじめサーバのコンピュータ名が表示されています。



Point

クライアントシステム設計の各画面では、変更、削除、複写の操作が行えます。

変更する：変更する項目欄をクリックし、入力または選択し直します。

削除する：削除する No. を右クリックし、「削除」を選択します。【Delete】キーを押しても削除できます。

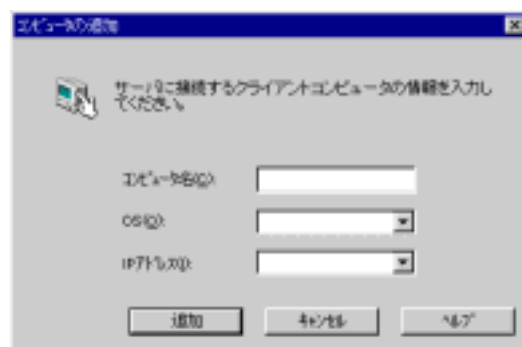
複写する：複写する No. を右クリックし、「コピー」を選択します。「切り取り」を選択すると移動になります。「貼り付け」を行うと、一番最後に追加されます。

- 2) サーバに接続するクライアントコンピュータの情報を設定します。

接続するすべてのクライアントコンピュータを登録してください。

[追加]または[変更]をクリックすると、コンピュータの追加画面が表示されますので、必要な項目を設定します。

▶各項目の詳細説明 [ヘルプ]をクリック

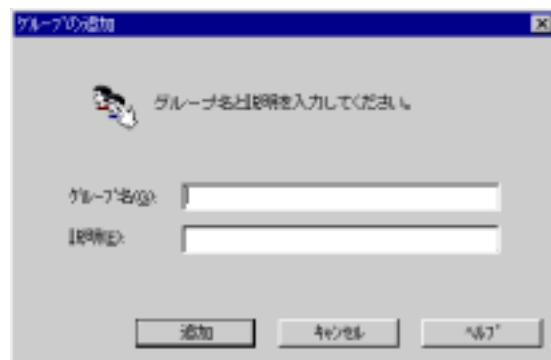


各項目を設定し、[追加]をクリックすると、続けて追加するコンピュータを設定できます。すべてのコンピュータを設定後、[閉じる]をクリックすると、コンピュータ情報が登録され、コンピュータの設定画面に戻ります。

- 3) [次へ]をクリックします。
グループの設定画面が表示されます。
あらかじめ Windows NT で予約されているグループ名が表示されます。



- 4) サーバを利用するグループを登録します。
[追加]または[変更]をクリックすると、グループの追加画面が表示されますので、必要な項目を設定します。 ▶▶各項目の詳細説明 [ヘルプ]をクリック



各項目を設定し、[追加]をクリックすると、続けて追加するグループを設定できます。
すべてのグループを設定後、[閉じる]をクリックするとグループ情報が登録され、グループの設定画面に戻ります。

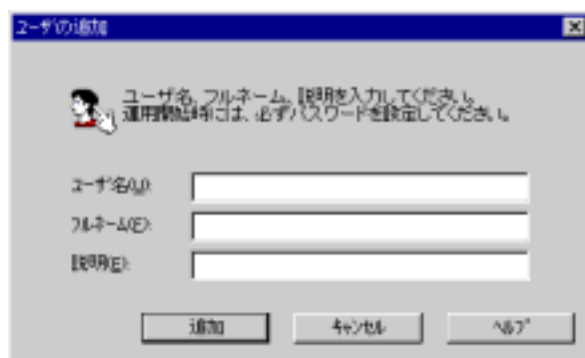
Note

Windows NT で予約されている以下の3つの名称を使って作成することはできません。
Domain Admins / Domain Guests / Domain Users

- 5) [次へ]をクリックします。
 ユーザの設定画面が表示されます。
 Windows NT および ServerWizard で予約されているユーザ名が表示されています。



- 6) サーバを利用するユーザの情報を登録します。
 [追加]または[変更]をクリックすると、ユーザの追加画面が表示されますので、必要な項目を設定します。
 ▶各項目の詳細説明 [ヘルプ]をクリック



各項目を設定し、[追加]をクリックすると、続けて追加するユーザを設定できます。すべてのユーザを設定後、[閉じる]をクリックするとユーザ情報が登録され、ユーザの設定画面に戻ります。

Note

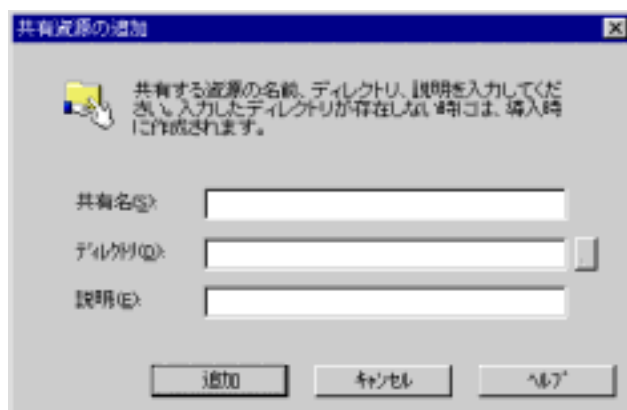
- ・ここでは、ユーザのパスワードは設定できません。セキュリティのためにも運用開始時に必ずパスワードを設定してください。
- ・Windows NT および ServerWizard で予約されている以下の3つの名称を使って作成することはできません。
 Administrator / Guest / SwClientSetupUser

- 7) [次へ]をクリックします。
共有資源の設定画面が表示されます。
ServerWizard で予約されている共有名が表示されます。



- 8) ユーザ、グループなどで共有して利用するフォルダ名を登録します。
[追加]または[変更]をクリックすると、共有資源の追加画面が表示されますので、必要な項目を設定します。

▶各項目の詳細説明 [ヘルプ]をクリック



各項目を設定し、[追加]をクリックすると、続けて追加する共有資源を設定できます。
すべての共有資源を設定後、[閉じる]をクリックすると、共有資源情報が登録され、共有資源の設定画面に戻ります。

Note

- 8.3 形式 (xxxxxxxx.xxx) より大きい長さで入力した場合は、MS-DOS のワークステーションから共有できない可能性があります。
- ServerWizard で予約されている以下の名称を使用して作成することはできません。
SVWIZARD

- 9) [完了]をクリックします。
 クライアントシステム設計画面が表示されます。
 ここで、ユーザがどのグループに所属するか、利用する共有資源はどれかなどの関連付けを行います。



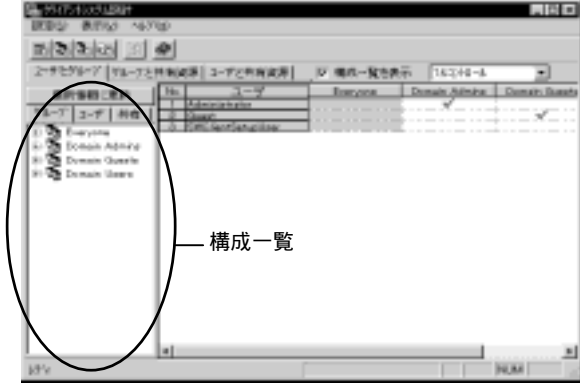



「表示」メニューの「ツールバー」表示が有効の場合、次のアイコンが表示されます。



クライアントシステム設計画面の説明

項目	説明
[ユーザとグループ] タブ	ユーザごとに所属するグループを設定します。
	グループ
	ユーザ

(続く)

項目	説明
[グループと共有資源] タブ	グループで利用できる共有資源を設定します。
	共有資源 横項目に共有資源の作成画面で作成した共有資源名が表示されます。
	グループ グループ名が表示されます。グループごとに、使用する共有資源を設定します。欄をクリックすると選択されているアクセス権が設定されます。各欄をクリックして右下隅をドラッグすると、ドラッグした範囲内を一度に設定できます。
[ユーザと共有資源] タブ	ユーザが利用できる共有資源を設定します。
	共有資源 横項目に共有資源の作成画面で作成した共有資源名が表示されます。
	ユーザ ユーザ名が表示されます。ユーザごとに、使用する共有資源を設定します。欄をクリックすると選択されているアクセス権が設定されます。各欄をクリックして右下隅をドラッグすると、ドラッグした範囲内を一度に設定できます。
構成一覧を表示	<p>グループ、ユーザ、共有資源を構成する一覧を表示する場合にチェックします。</p>  <p>構成一覧は、[グループ] タブ、[ユーザ] タブ、[共有] タブを切り替えることで、一覧の内容が切り替わります。</p> <p>構成一覧表に表示されているアイコンは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">  作成したグループを表しています。  作成したユーザを表しています。  作成した共有資源を表しています。
最新情報に更新	構成一覧の表示内容を設定されている最新の情報に更新します。このボタンをクリックすると設定を追加、変更した内容が構成一覧に反映されます。
アクセス権	<p>共有資源に対して設定するアクセス権の種類が表示されます。[] をクリックして設定するアクセス権を変更できます。</p> <p>フルコントロール：すべての操作が行えます。</p> <p>変更のみ：変更のみ行えます。</p> <p>読込みのみ：読込みのみ行えます。書き込みはできません。</p> <p>アクセス権なし：アクセスすることはできません。</p>

クライアントシステム設計画面のメニュー

項目	説明
[設定] メニュー	
追加 / 変更	追加 / 変更には、次のサブメニューがあります。 コンピュータ：コンピュータ情報を追加または変更します。 グループ：グループ情報を追加または変更します。 ユーザ：ユーザ情報を追加または変更します。 共有資源：共有資源情報を追加または変更します。
アクセス権選択	表示されたサブメニューからアクセス権を選択します。 フルコントロール：すべての操作が行えます。 変更のみ：変更のみ行えます。 読み込みのみ：読み込みのみ行えます。書き込みはできません。 アクセス権なし：アクセスすることはできません。
保存せずに終了	クライアントシステム設計で設定した内容を保存せずに終了します。
終了	クライアントシステム設計で設定した内容を保存して、クライアントシステム設計を終了します。
[表示] メニュー	
ツールバー	ツールバーの表示、非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示、非表示を切り替えます。
構成一覧	構成一覧の表示、非表示を切り替えます。
構成一覧のキー	構成一覧を表示にした場合に有効になります。次のサブメニューが表示されます。 グループ：構成一覧に登録されているグループで表示します。 ユーザ：構成一覧に登録されているユーザで表示します。 共有資源：構成一覧に登録されている共有資源で表示します。
構成一覧の更新	構成一覧の表示内容を設定されている最新の情報に更新します。
設定	関連付けを行う項目を切り替えます。次のサブメニューが表示されます。 ユーザとグループ：ユーザが所属するグループを設定します。 グループと共有資源：グループが使用する共有資源を設定します。 ユーザと共有資源：ユーザが使用する共有資源を設定します。

10) クライアントの各関連付けを設定します。

Note

"Everyone"グループのアクセス権は、十分注意してください。「アクセス権なし」に設定した場合は、すべてのユーザがアクセスできない状態になります。デフォルトの「フルコントロール」では、すべてのユーザのアクセスを許可しています。

アクセス権を設定しない場合（空欄）は、他のアクセス権の状態に依存します。依存の関係については Windows NT のマニュアルを参照してください。

11) 「設定」メニューから [終了] を選択します。

DesignMagic の画面に戻ります。

Note

[保存せずに終了] を選択した場合は、クライアントシステム設計での設定は登録されません。

クライアントシステム設計での設定を登録する場合は、[終了] を選択してください。

2.5 クライアントセットアップ

クライアントセットアップでは、クライアントセットアップ機能を利用する場合の設定を行います。

クライアントにセットアップできる資源には、次の3種類があります。

アプリケーション

複数のファイルで構成された資源で、Setup コマンドなどによりインストールするアプリケーションソフトウェアです。なお、インストールが自動化されておらずインストール時に操作が必要なアプリケーションについては、Rational Visual Test などで作成したスクリプトが必要になります。

ファイル

単純にコピーしてセットアップする資源です。ディレクトリを指定することで複数のファイルを一度にセットアップできます。

実行コマンド

クライアント側で実行するコマンドです。実際にクライアントへのコピーは行わず、コマンドの実行のみを行います。

- 1) [クライアントセットアップ] をクリックします。
クライアントセットアップ - 導入定義画面が表示されます。



- 2) 各項目を設定します。
[変更] をクリックすると、サーバ情報の変更画面が表示されますので、必要な項目を設定します。
▶ 各項目の詳細説明 [ヘルプ] をクリック



[OK] をクリックすると設定が有効になり、クライアントセットアップ - 導入定義画面に戻ります。

- 3) [OK] をクリックします。
クライアントセットアップ - セットアップ資源情報の設定画面が表示されます。



- ▶ セットアップ資源情報にアプリケーションを登録する場合
「2.5.1 セットアップ資源情報（アプリケーション）を登録する」参照
- ▶ セットアップ資源情報にファイルを登録する場合
「2.5.2 セットアップ資源情報（ファイル）を登録する」参照
- ▶ セットアップ資源情報に実行コマンドを登録する場合
「2.5.3 セットアップ資源情報（実行コマンド）を登録する」参照


「セットアップ資源情報の設定」で設定した資源は、「クライアントシステム設計」の「コンピュータの設定」で設定したクライアントコンピュータに対してインストールが行われます。追加できるセットアップ資源情報は 64 個までです。

- 4) すべての資源情報を設定したら [閉じる] をクリックします。
DesignMagic の画面に戻ります。

2.5.1 セットアップ資源情報（アプリケーション）を登録する

- 1) クライアントセットアップ - セットアップ資源情報の設定画面で、[追加] をクリックします。

クライアントセットアップ - セットアップ情報登録画面が表示されます。



クライアントセットアップ - セットアップ情報登録

セットアップする資源を「アプリケーション」、「ファイル」、「実行コマンド」から選択してください。

資源情報

☒ アプリケーション
☐ ファイル
☐ 実行コマンド

< 戻る(B) 次へ(F) > キャンセル ヘルプ

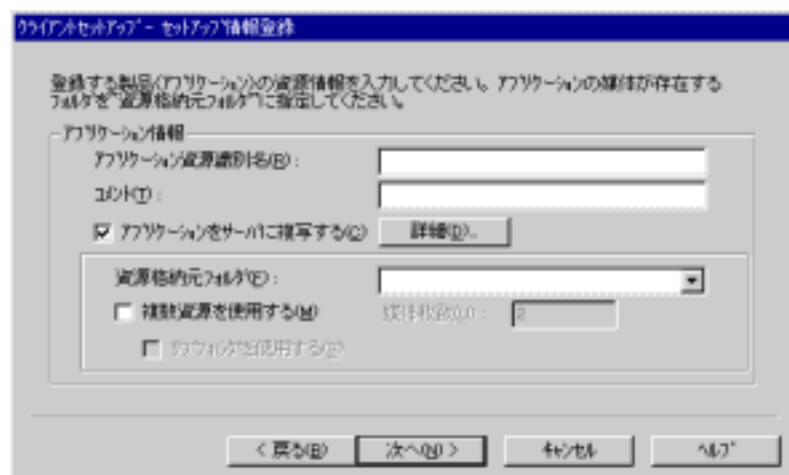
Point

すでに登録されているセットアップ情報の設定を変更する場合は、変更するセットアップ情報を選択し、[変更] をクリックします。

以降の操作は同じです。あらかじめ登録されている設定が表示されますので、必要に応じて修正してください。

- 2) 「アプリケーション」をクリックし、[次へ] をクリックします。

次の設定画面が表示されます。



クライアントセットアップ - セットアップ情報登録

登録する製品(アプリケーション)の資源情報を入力してください。アプリケーションの媒体が存在するフォルダを「資源格納元フォルダ」に指定してください。

アプリケーション情報

アプリケーション資源識別名(N):

ユニット(U):

☒ アプリケーションをサーバに格写する(C) 詳細(D) >

資源格納元フォルダ(F):

☐ 複製資源を使用する(M) 実行権限(000):

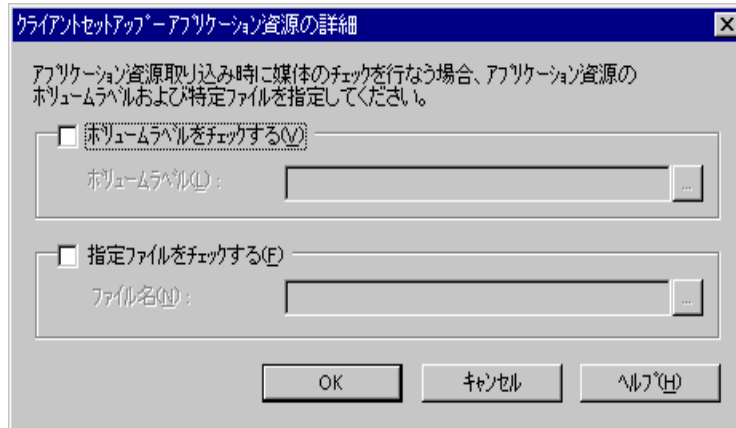
☐ ネットワークを使用する(N)

< 戻る(B) 次へ(F) > キャンセル ヘルプ

3) 登録するアプリケーションの情報を入力します。

[詳細] をクリックすると、アプリケーション資源の詳細画面が表示されますので、必要な項目を設定します。

▶各項目の詳細説明 [ヘルプ] をクリック



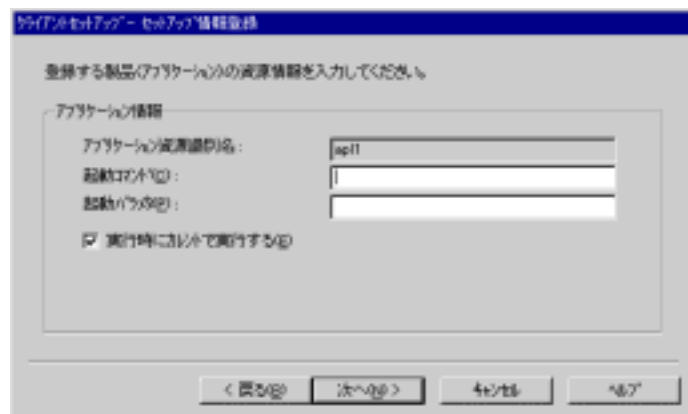
[OK] をクリックすると、設定が有効になり、セットアップ情報登録画面に戻ります。

Note

アプリケーションをサーバに複写しない場合、格納元 UNC パス名で指定したフォルダから直接クライアントへセットアップを行います。そのため、一つの格納元 UNC パスからインストールできるアプリケーションは一つになります。

4) [次へ] をクリックします。

次の設定画面が表示されます。



5) 起動コマンド、起動パラメタを設定します。

▶各項目の詳細説明 [ヘルプ] をクリック

Point

起動コマンドは、資源格納元フォルダまたは UNC パスからの相対パスで指定してください。

例 1) 資源格納元フォルダまたは UNC パスの直下に起動コマンドがある場合。

"コマンド名"を指定してください。

例 2) 資源格納元フォルダまたは UNC パスの下のサブディレクトリ配下に起動コマンドがある場合。

"ディレクトリ名¥コマンド名"を指定してください。

- 6) [次へ]をクリックします。
次の設定画面が表示されます。



- 7) スクリプトを使用するかしないかを指定します。
アプリケーションのインストールが自動化されていない(対話型インストール)場合、インストールの自動化を行うための手続きとしてスクリプトを使用する場合にチェックします。スクリプトは事前に作成しておく必要があります。

▶各項目の詳細説明 [ヘルプ]をクリック

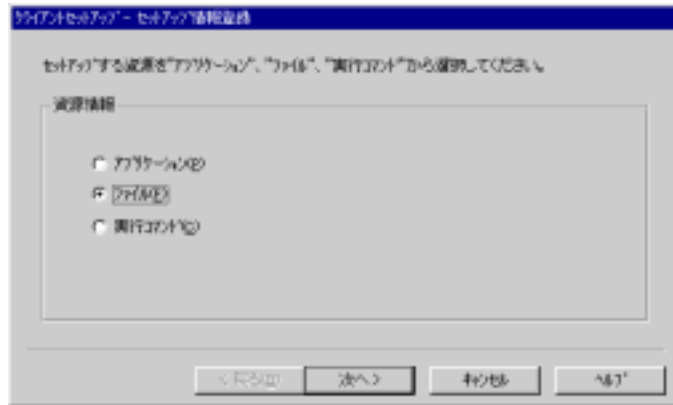
- 8) [次へ]をクリックします。
クライアントにセットアップする資源の取り込み画面が表示されます。



- 9) 設定内容を確認し、[登録]をクリックします。
クライアントセットアップ - セットアップ資源情報の設定画面に戻ります。
続けてセットアップする資源情報を設定できます。

2.5.2 セットアップ資源情報（ファイル）を登録する

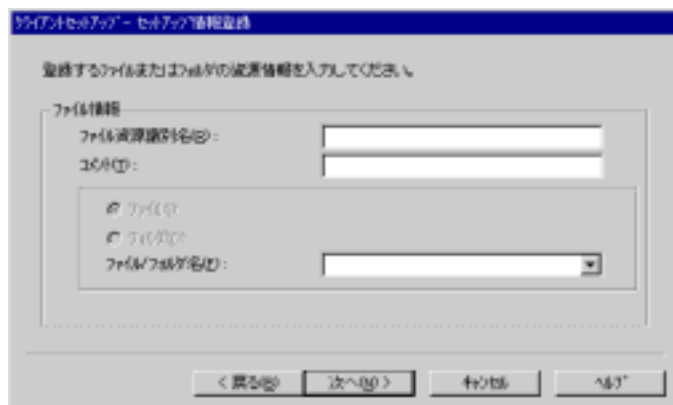
- 1) クライアントセットアップ - セットアップ資源情報の設定画面で、[追加] をクリックします。
クライアントセットアップ - セットアップ情報登録画面が表示されます。



Point

すでに登録されているセットアップ情報の設定を変更する場合は、変更するセットアップ情報を選択し、[変更] をクリックします。
以降の操作は同じです。あらかじめ登録されている設定が表示されるので、必要に応じて修正してください。

- 2) 「ファイル」をクリックし、[次へ] をクリックします。
次の設定画面が表示されます。



- 3) 登録する資源の情報を入力します。

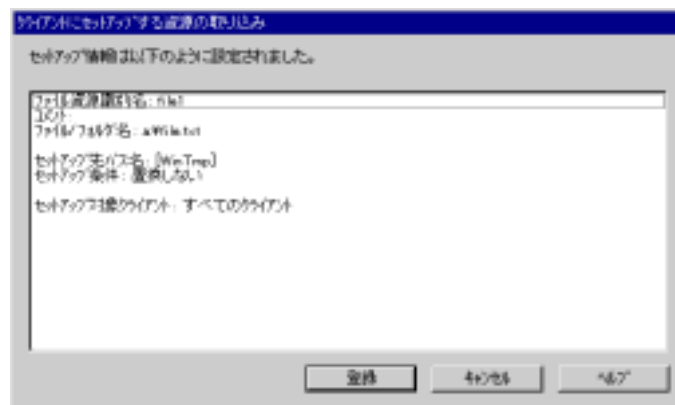
▶各項目の詳細説明 [ヘルプ] をクリック

- 4) [次へ]をクリックします。
次の設定画面が表示されます。



- 5) ファイルまたはフォルダの手続き情報を設定します。
▶各項目の詳細説明 [ヘルプ]をクリック

- 6) [次へ]をクリックします。
クライアントにセットアップする資源の取り込み画面が表示されます。



- 7) 設定内容を確認し、[登録]をクリックします。
クライアントセットアップ - セットアップ資源情報の設定画面に戻ります。
続けてセットアップする資源情報を設定できます。

2.5.3 セットアップ資源情報（実行コマンド）を登録する

- 1) クライアントセットアップ - セットアップ資源情報の設定画面で、[追加] をクリックします。

クライアントセットアップ - セットアップ情報登録画面が表示されます。



Point

すでに登録されているセットアップ情報の設定を変更する場合は、変更するセットアップ情報を選択し、[変更] をクリックします。

以降の操作は同じです。あらかじめ登録されている設定が表示されるので、必要に応じて修正してください。

- 2) 「実行コマンド」をクリックし、[次へ] をクリックします。

次の設定画面が表示されます。

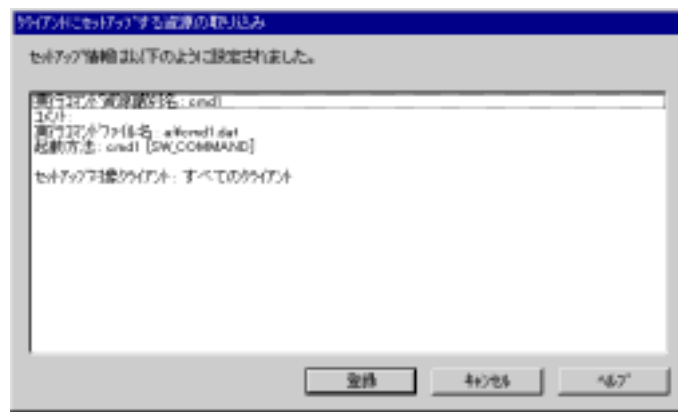


- 3) 登録する実行コマンドの情報を入力します。

▶各項目の詳細説明 [ヘルプ] をクリック

- 4) [次へ] をクリックします。

クライアントにセットアップする資源の取り込み画面が表示されます。

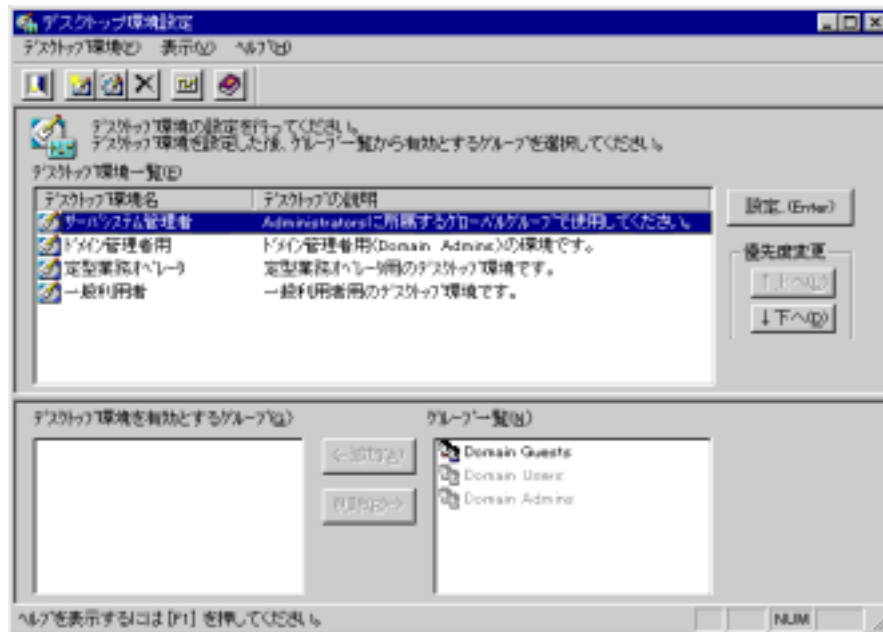


- 5) 設定内容を確認し、[登録]をクリックします。
クライアントセットアップ - セットアップ資源情報の設定画面に戻ります。
続けて登録する資源をセットアップできます。

2.6 デスクトップ環境設定

サーバ側で、クライアントのデスクトップ環境を一括管理します。業務に必要な機能のみをデスクトップ環境に設定することで、ユーザが業務に集中しやすい環境を作ります。また、システムに習熟していないユーザによる偶発的な事故を防ぐこともできます。

- 1) 「デスクトップ設計」をクリックします。
デスクトップ環境設定画面が表示されます。

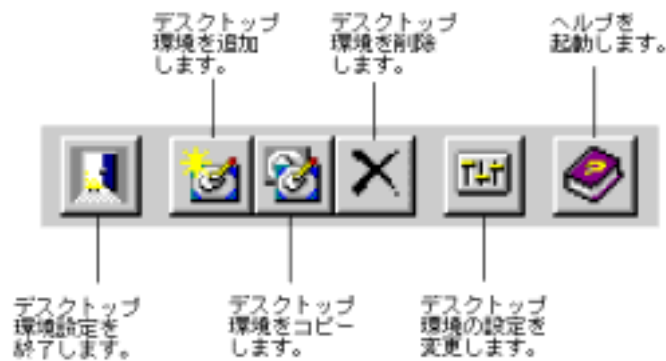


デスクトップ環境設定画面では、デスクトップ環境の追加、複写、削除を行うことができます。

Point

- 追加する：[デスクトップ環境] メニューから [追加] を選択するか、[デスクトップ環境の追加] アイコンをクリックします。デスクトップ環境の設定画面が表示されますので、設定を行ってください。
- 複写する：複写するデスクトップ環境名をクリックし、[デスクトップ環境] メニューから [コピー] を選択するか、[デスクトップ環境のコピー] アイコンをクリックします。
- 削除する：削除するデスクトップ環境名をクリックし、[デスクトップ環境] メニューから [削除] を選択するか、[デスクトップ環境の削除] アイコンをクリックします。

「表示」メニューの「ツールバー」表示が有効の場合、以下のアイコンが表示されます。



デスクトップ環境設定画面の説明

項目	説明
デスクトップ環境一覧	設定されているデスクトップ環境の一覧が表示されます。一覧の上にあるほど優先度が高くなります。デスクトップ環境は 15 個まで作成できます。
設定..(Enter)	選択しているデスクトップ環境の設定を変更します。クリックまたは、【Enter】キーを押すとデスクトップ環境の設定画面が表示されます。
優先度変更	選択しているデスクトップ環境の優先度を【 】【 】で変更します。
デスクトップ環境を有効とするグループ	デスクトップ環境一覧で選択されているデスクトップ環境を使用するグループを指定します。
グループ一覧	存在しているグループの一覧が表示されます。この一覧から「デスクトップ環境を有効とする」へ追加することができます。グレー表示になっているグループは他のデスクトップ環境に割り当てられているので、追加することはできません。

デスクトップ環境設定画面のメニュー

項目	説明
[デスクトップ環境] メニュー	
追加	デスクトップ環境を追加します。クリックするとデスクトップ環境の設定画面が表示されます。
コピー	デスクトップ環境をコピーします。
削除	デスクトップ環境を削除します。
設定	デスクトップ環境の設定を変更します。クリックするとデスクトップ環境の設定画面が表示されます。
優先度上へ	デスクトップ環境の優先度を 1 つ上げます。
優先度下へ	デスクトップ環境の優先度を 1 つ下げます。
終了	デスクトップ環境設定画面を閉じます。
[表示] メニュー	
ツールバー	ツールバーの表示、非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示、非表示を切り替えます。

2.6.1 デスクトップ環境の設定

各デスクトップ環境の詳細設定を行います。初期メニュー、各種設定、操作性、キー抑止に関する設定ができます。各項目の詳細説明は、[ヘルプ]をクリックすると表示されます。

- 1) デスクトップ環境設定画面で、次のいずれかの操作をします。

設定を変更する場合

- ・デスクトップ環境名を選択し、[設定]ボタンをクリックする。
- ・デスクトップ環境名をダブルクリックする。

追加する場合

- ・[デスクトップ環境の追加]アイコンをクリックする。
- ・[デスクトップ環境]メニューから[追加]を選択する。

デスクトップ環境の設定画面が表示されます。

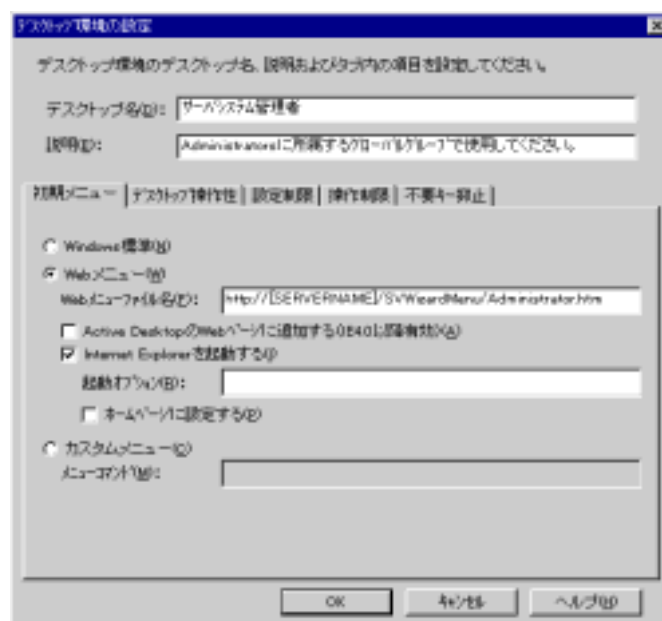
共通部分

項目	説明
デスクトップ名	変更、追加するデスクトップ環境名を入力します。
説明	デスクトップ環境の使用基準などの説明を入力します。

初期メニュータブ

クライアントのログオン直後に表示される初期メニューの設定を行います。

▶各項目の詳細説明 [ヘルプ]をクリック



Point

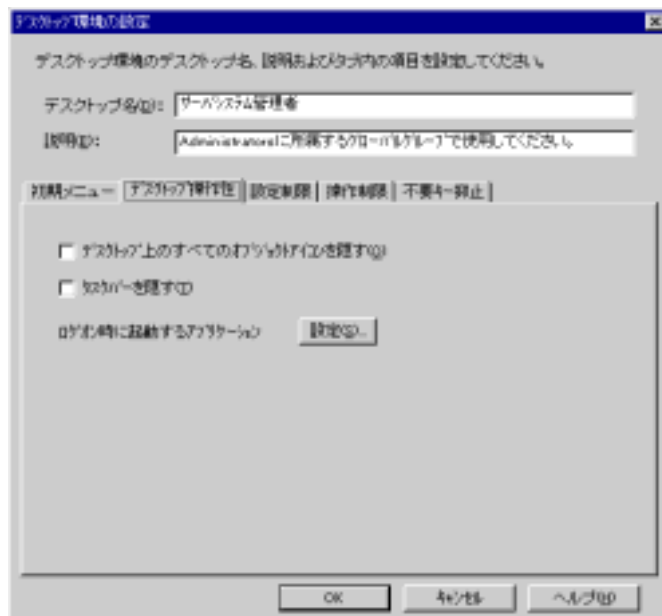
Webメニューは、インターネットエクスプローラ上で、ボタンを選択してアプリケーションを起動する機能です。Webメニュー上のボタンは、WizardMenu作成ツールを使用して、大きさを変更したり、画像データをボタンに貼り付けるなど、自由な形式で作成することができます。WizardMenu作成ツールを起動するには、サーバインストール終了後に「スタート」-「プログラム」-「ServerWizard」-「WizardMenu作成ツール」を選択します。

Webメニュー、WizardMenu作成ツールについての詳細は、それぞれのヘルプを参照してください。

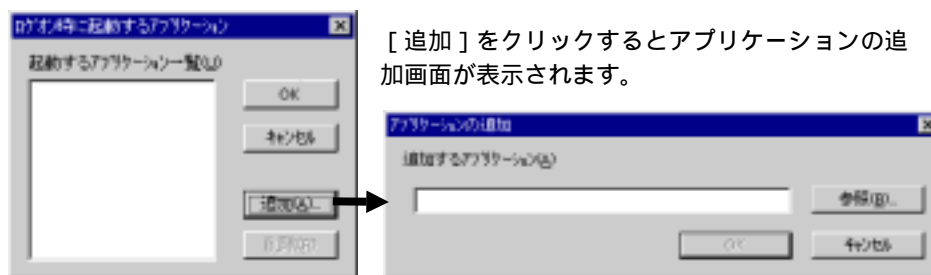
デスクトップ操作性タブ

デスクトップの操作性に関する制限を行います。

▶各項目の詳細説明 [ヘルプ] をクリック



[設定] をクリックすると、ログオン時に起動するアプリケーション画面が表示されますので、起動するアプリケーションを設定します。



[OK] をクリックすると、設定が有効になり、デスクトップ環境設定画面に戻ります。

Note

「タスクバーを隠す」をチェックすると、スタートメニューからのログオフ操作ができなくなります。この項目を設定する場合には、メニューにログオフの項目を追加するなど、ログオフを行う手段を必ず用意してください。

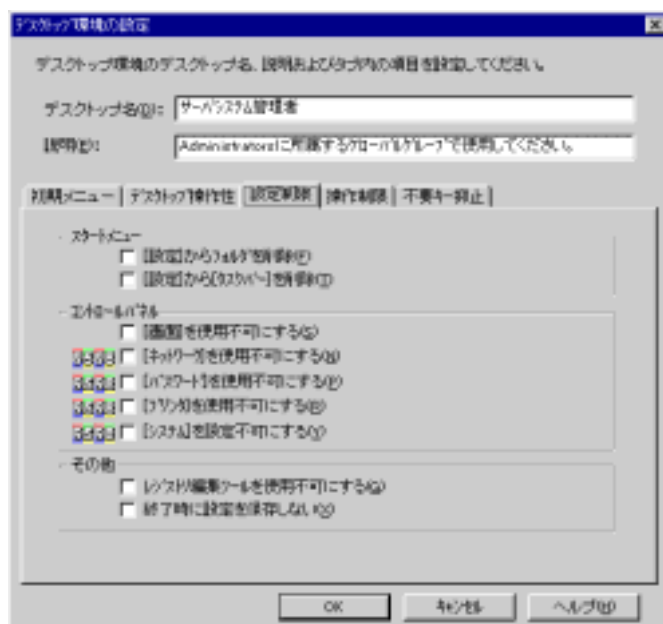
ログオフを行うには、「ExitWin.exe」コマンドを実行してください。

「ExitWin.exe」コマンドは、「C:\¥Symfocmn」ディレクトリに格納されています。

設定制限タブ

各種設定に関する制限を行います。

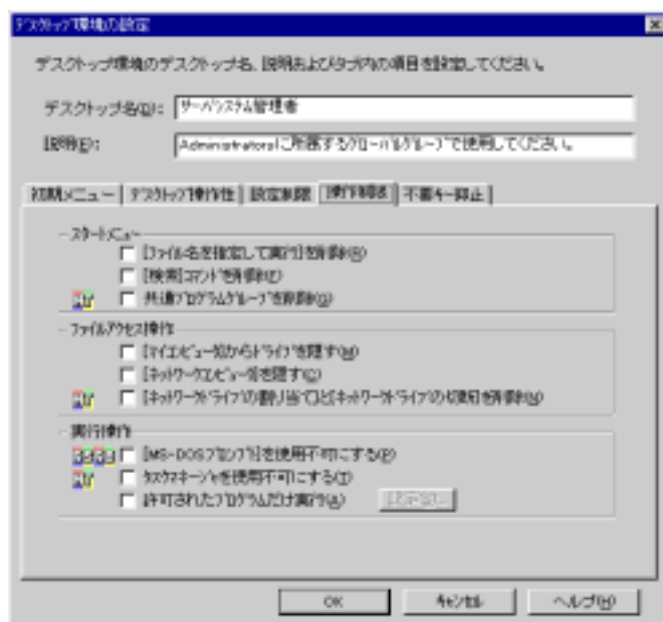
▶各項目の詳細説明 [ヘルプ] をクリック



操作制限タブ

ユーザの操作に関する制限を行います。

▶各項目の詳細説明 [ヘルプ] をクリック



不要キー抑止タブ

入力操作を無効にするキーの設定を行います。

▶各項目の詳細説明 [ヘルプ] をクリック



- 2) デスクトップ環境の設定をして [OK] をクリックします。
デスクトップ環境が変更、設定されます。

▶デスクトップ環境設定に関する詳細やトラブルシューティングについて [ヘルプ] を参照

2.7 設定情報の確認、登録

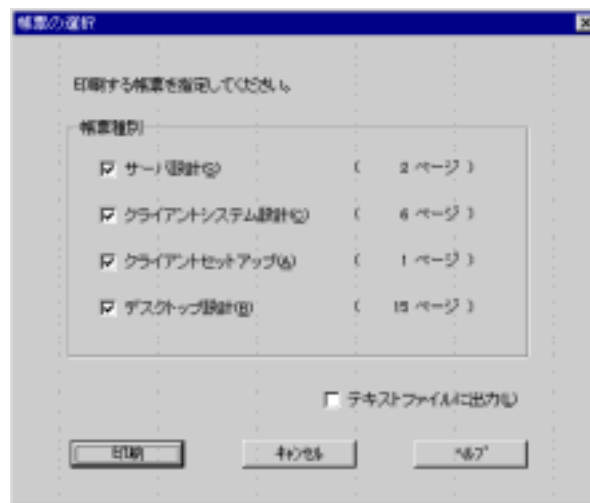
サーバ設計、クライアントシステム設計、クライアントセットアップ、デスクトップ設計で設定した内容をフロッピーディスクに保存します。これらの情報は、サーバ情報ファイルとして保存され、サーバのセットアップ時に使用します。

設定内容の確認（印刷）

サーバ設計、クライアントシステム設計、クライアントセットアップ、デスクトップ設計で設定した内容を、印刷して確認できます。

印刷するプリンタの設定は、あらかじめ [プリンタの設定] で行っておいってください。

- 1) DesignMagic 画面の [ファイル] メニューから [印刷] を選択します。
帳票の選択画面が表示されます。



- 2) 印刷したい項目を選択し、[印刷] をクリックします。
印刷の設定の確認画面が表示されます。
- 3) [OK] をクリックします。
設定されている内容が印刷されます。

Point

手順 2)で「テキストファイルに出力」を選択して [OK] をクリックすると、設定されている内容をテキストファイルで保存することができます。

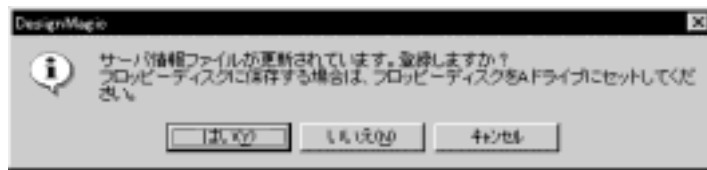
Note

スプールするデータ形式が EMF 形式の場合、印刷が正しく行われない場合があります。必ず RAW 形式に変更してください。変更方法は、各 OS のマニュアルを参照してください。

設定情報を登録して終了する

- 1) 「終了」をクリックします。

設定した内容が保存されていない場合は、メッセージが表示されます。



- 2) 初期化済みのフロッピーディスクをドライブ A にセットし、[はい] をクリックします。

保存の画面が表示されます。

- 3) ファイル名を入力して [OK] をクリックします。

拡張子は".SPD"です。

フロッピーディスクへの登録が終了すると、DesignMagic が終了します。

第 3 章 ServerWizard

～ サーバをセットアップする ～

ServerWizard では、サーバのインストール、セットアップが、画面の指示に従って操作するだけで簡単に行えます。また、設定した内容は、サーバ情報ファイルとしてフロッピーディスクに保存することができます。

ServerWizard を使うために必要な環境

- ・ ご使用になるサーバ機
- ・ ネットワーク環境
- ・ ServerWizard の CD-ROM
- ・ セットアップする OS の CD-ROM
- ・ サービスパックの CD-ROM (ServerWizard の CD-ROM に入っている Service Pack を使用する場合は不要です。▶「3.2 Service Pack について」参照)
- ・ サーバ情報ファイルが登録されているフロッピーディスク (DesignMagic を行っていない場合は、サーバ情報ファイルを作成するための未使用のフロッピーディスク) (1 枚)
- ・ 修復ディスクを作成するための未使用のフロッピーディスク (1 枚)

あらかじめサーバ情報ファイルが用意されている場合は、サーバ情報ファイルが登録されているフロッピーディスクをセットするだけで、自動的にサーバのセットアップが行えます。サーバ情報ファイルは DesignMagic で作成できます。

サーバ情報ファイルがない場合は、「3.4 サーバのセットアップ (新規) 」を、サーバ情報ファイルがある場合は、「3.5 サーバのセットアップ (読み込み) 」を参照し、セットアップを行ってください。

3.1 サーバ導入前の準備 / 注意

サーバを導入する前に、以下の内容を確認してください。

- ・ 本体添付マニュアルを参照し、ハードウェア装置の組み立てを正確に行ってください。
組み立て完了後、正しいスロットに正規のオプションカードが装着されていることを確認してください。
- ・ BIOS セットアップユーティリティを使用して、ハードウェア環境を設定してください。
- ・ カードを装着後は、必ずコンフィグレーションユーティリティ (ICU (ISA コンフィグレーションユーティリティ) または SSU (システムセットアップユーティリティ)) を実行しておいてください。詳しくは本体に添付のマニュアルを参照してください。

- ・オプションの SCSI カードを搭載して、外部 SCSI オプション装置（ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクユニットなど）を増設する場合は、Windows NT のセットアップが終了してから電源を切断し、接続を行ってください。
- ・サーバ導入時に搭載するメモリ容量は、2GB 以下にしてください。2GB を超えるメモリを搭載する場合は、サーバ導入後にメモリの増設を行ってください。
ただし、機種によっては 2GB より少ないメモリ容量に制限されている場合があります。サーバ機の取扱説明書でご確認ください。

3.2 Service Pack について

ServerWizard の CD-ROM には、Microsoft® Windows NT® Version 4.0 Service Pack が収められています。Service Pack の種類については CD-ROM のレーベルに記述されているので確認してください。

Service Pack の適用

事前設定で「Service Pack を適用する」を選択しなかった場合は、Service Pack は適用されません。「Service Pack を適用する」を選択した場合は、適用する Service Pack の種類を確認する画面が表示されます。ServerWizard の CD-ROM に収められている Service Pack を使用するときは、そのまま [OK] を選択してください。その他の Service Pack（Option Pack を含む）を使用するときは、画面の指示に従って CD-ROM をセットしてください。

適用可能な Service Pack に関しては、README を参照してください。

3.3 ServerWizard を起動する

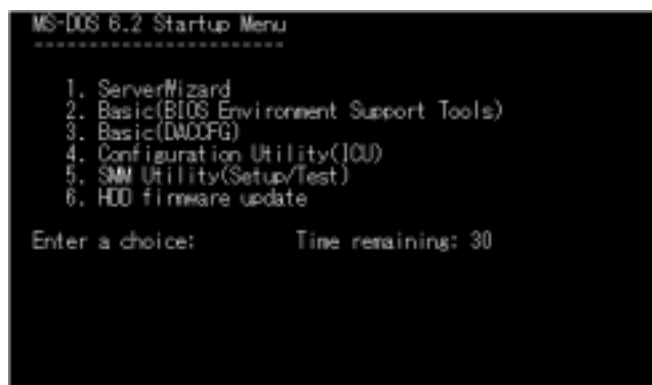
電源を入れる前に、CRT ディスプレイ / キーボード / マウス / 電源ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。

Note

Windows NT Server インストールタイプのセットアップを行うには、システムの開封作業を ServerWizard で行う必要があります。

ServerWizard V1.0 の CD-ROM をセットする前に、Windows NT のソフトウェア使用許諾契約同意画面が表示された場合には、導入種別に「インストールタイプ」を指定してインストールすることができません。[同意しません(D)] を選択し、シャットダウン操作をしてから、導入種別に「新規導入」を指定してインストール作業を行ってください。

- 1) 電源を入れます。
RAM モジュールの確認や POST 処理が開始されます。
- 2) CD-ROM ドライブに、ServerWizard V1.0 の CD-ROM をセットします。
次の画面が表示されます（GRANPOWER5000 モデル 180 の例です）。



3) ServerWizard を選択し【Enter】キーを押します。

ServerWizard が起動します。

ServerWizard を選択せずに、そのままの状態でも自動的に ServerWizard が起動します。



項目	説明
セットアップ	サーバのセットアップ、インストールを行います。
ユーティリティ	バックアップディスクの作成を行います。
ソフトウェア説明書	ServerWizard に関する説明を表示します。マニュアルに書かれていない注意事項や制限などが記述されています。ServerWizard をお使いになる前に必ずお読みください。
終了	ServerWizard を終了します。

Note

ServerWizard が起動できない場合は、サーバ本体に添付のマニュアルに従い、CD-ROM のブートが可能になっているか、項目の値が以下の順番になっているか確認してください。

1. CD-ROM
2. フロッピーディスク
3. ハードディスク

3.4 サーバのセットアップ (新規)

サーバのセットアップ情報を設定し、セットアップ、インストールを行います。ここで設定したセットアップ情報は、サーバ情報ファイルとしてフロッピーディスクに登録されます。

Note

セットアップ、インストール途中で、エラーや電源切断などで中断した場合は、必ず最初からセットアップをやり直してください。

3.4.1 サーバ情報設定画面での操作について

項目の移動について

- 1) 【 】【 】キーで前後の項目へ移動します。
選択途中、入力途中の場合は、【Enter】、【Esc】キーでカーソルを項目名に移動してから項目間の移動を行ってください。

Point

【Tab】、【Shift】+【Tab】キーでも同様の操作が行えます。
[次へ] [戻る] は【 】【 】キーでも移動できます。

項目内容の選択方法について

- 1) 項目名を選択し【Enter】キーを押します。
ドロップダウンリストが表示されます。

SCSIアレイコントローラカード	:	GP5-141A
RAIDレベル	:	GP5-141A
ハードディスク台数	:	GP5-142
ホットスワップディスクの作成	:	GP5-143
- 2) 【 】【 】キーでドロップダウンリストから選択します。
選択できない項目は、グレーの文字で表示されカーソルが移動できません。
- 3) 【Enter】キーを押します。
選択した内容が確定され、カーソルは次の項目へ移動します。

Point

ドロップダウンリストを表示しない状態でも項目内容の選択ができます。

- 1) 項目名を選択した状態で【 】【 】キーを押します。
項目内容部分が切り替わります。
- 2) 【 】キーで次項目へ移動します。

文字列、値の入力方法について

- 1) 文字列、値の入力のある項目にカーソルを移動します。
- 2) 【Enter】キーを押します。
入力部分にカーソルが移動します。
- 3) 文字列、数値を入力します。
半角文字入力の場合
テキストボックスに文字列を入力します。
【Enter】キーを押すと、入力内容が確定され、カーソルは次項目へ移動します。
【Esc】キーを押すと、入力内容が確定されず、元の内容のまま、カーソルは項目部分へ移動します。

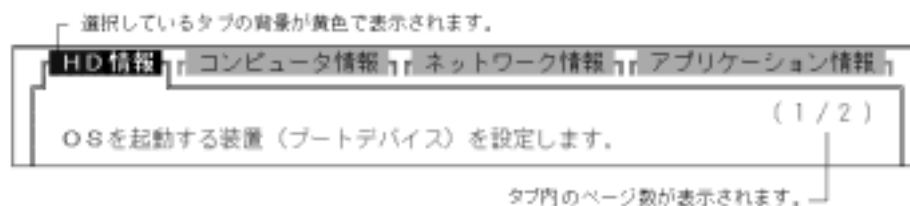
全角文字入力の場合

Point 全角文字を入力する場合は【Alt】キーを押しながら、【半角 / 全角】キーを押して日本語入力システムを起動してください。

文字列を入力すると、画面最下行に入力した文字列が表示されます。【Enter】キーを押して文字列を確定すると、テキストボックスに文字列が表示されます。
もう一度【Enter】キーを押すと入力内容が確定され、カーソルは次項目へ移動します。
途中、【Esc】キーを押すと入力文字列、内容とも確定されず、項目部分にカーソルが移動します。

ページの移動について

- 1) [次へ] [戻る] にカーソルを合わせ【Enter】キーを押します。
前後のページに移動します。



Point 【PageUp】、【PageDown】キーでもページ移動ができます。

3.4.2 サーバ情報の設定

- 1) ServerWizard を起動します。 ▶起動方法 「3.3 ServerWizard を起動する」を参照
- 2) [セットアップ] を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3) [新規] を選択し、【Enter】キーを押します。

機種情報と OS の設定画面が表示されます。

Point

サーバ情報ファイルが登録されているフロッピーディスクがある場合は、「読み込み」を選択します。詳しくは「3.5 サーバのセットアップ(読み込み)」を参照してください。

サーバ情報の設定を途中で終了する場合は、【Esc】キーを押します。

機種名を確認して、導入種別および導入OSを設定します。

機種名 : CRANPOVER3000 モデル180
ファイルバージョン : V1.0 L33
日付 : 1999/08/31

導入種別 : 新規インストール

導入OS : Microsoft(R) Windows NT(R) Server Version 4.0

[次 へ] [終 了]

↑↓:移動 ←→:選択 ENTER:動作 ESC:終了

使用するサーバの機種名を選択します。異なる機種名を選択した場合は、正しくインストールが行われません。最新の機種情報に変更したい場合は、「FDから機種情報ファイルを読み込む」を選択します。

- 4) 機種名、導入種別、インストールする OS を設定します。

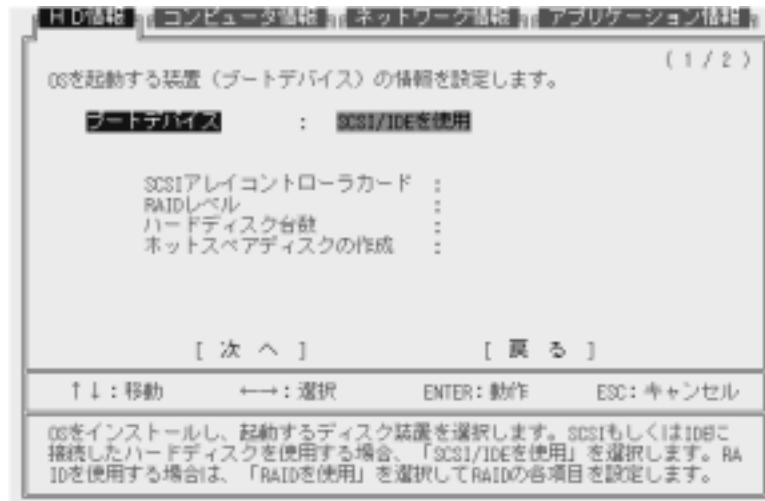
項目	説明
機種名	ご使用になる「機種名」が正しく表示されていることを確認してください。なお、異なる機種を指定した場合は、正常にインストールが行われません。
導入種別	サーバに OS がブレイインストールされている場合は「新規インストール」か「インストールタイプ」かを選択します。OS がブレイインストールされていない場合は「新規インストール」になります。
導入 OS	サーバで使用する OS を選択します。

Point

「機種名」で「FD から機種情報ファイルを読み込む」を選択して【Enter】キーを押すとフロッピーディスクから機種情報ファイルを読み込むことができます。

- 5) [次へ] を選択し【Enter】キーを押します。

HD 情報 - 1/2 の設定画面が表示されます。導入種別でインストールタイプを選択した場合は手順 9) へ進みます。

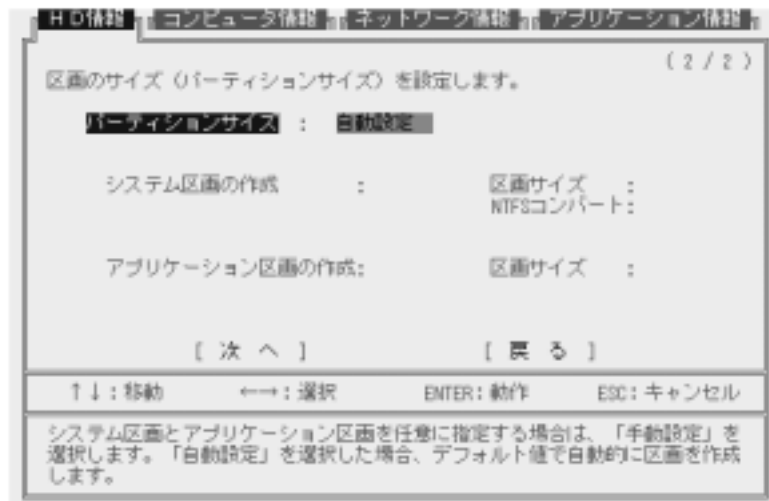


- 6) OS を起動する装置を設定します。

項目	説明
ブートデバイス	OS を起動する装置を RAID、SCSI/IDE から選択します。RAID を選択した場合は、RAID の各項目を設定します。
SCSI アレイ コントローラカード	使用する SCSI アレイコントローラカードを選択します。
RAID レベル	RAID のレベルを選択します。
ハードディスク台数	サーバで使用するハードディスクの台数を選択します。実際に装着している台数（ホットスペアディスクを除く）を指定してください。
ホットスペアディスク の作成	<p>ホットスペアディスクを作成するかどうかを選択します。</p> <p>「する」を選択した場合、実際に装着するディスク台数は「ハードディスク台数」で指定した台数 + 1 台となります。</p> <p>たとえば、台数を 3 台指定しホットスペアディスクを作成すると指定した場合は、サーバには必ず 4 台のハードディスクを装着してください。</p> <p>▶▶ハードディスクの台数について 「付録 A」の「Q. RAID を構築するときの注意点は？」参照</p>

7) [次へ] を選択し【Enter】キーを押します。

HD 情報 - 2/2 の設定画面が表示されます。



8) 区画を設定します。

項目	説明
パーティションサイズ	システム区画 (C:ドライブ) とアプリケーション区画 (D:ドライブ) の設定方法を選択します。「自動設定」を選択した場合はデフォルト値で設定されます。「手動設定」を選択した場合は、システム区画、アプリケーション区画のサイズを設定します。合計で 8192MB までの区画を作成できます。サイズについては下の <i>Point</i> を参照してください。
システム区画の作成	「区画サイズ」「NTFS コンバート」を設定します。 「区画サイズ」のサイズ範囲は 2048 ~ 4096MB です。 「NTFS コンバート」ではシステム区画のファイルシステムを NTFS に変換するかどうかを選択します。
アプリケーション区画の作成	アプリケーション区画を作成するかどうかを選択します。「する」を選択した場合は、「区画サイズ」を入力します。 「区画サイズ」のサイズ範囲は 1 ~ (8192MB - システム区画) です。

	サイズ [MB]	デフォルト値	ファイルシステム	ボリュームラベル
システム区画	2048 ~ 4096	(4096)	NTFS / FAT 選択	なし
アプリケーション区画	1 ~ 6144 (システム区画との合計が 8192 まで)	(4096)	NTFS 固定	Swapldrv

Point

区画を管理する領域があるサーバでは、実際の区画は指定した容量より小さくなる場合があります。

指定した容量より小さなハードディスクが装着されていた場合、区画 (D:ドライブ) が作成されなかったり、自動的にサイズが変更される場合があります。

アプリケーション区画は、NTFS で初期化します。システム区画に関しては、「NTFS コンバート」を「しない」に指定した場合は FAT で初期化します。

Point

使用する SCSI アレイコントローラカードによっては、RAID 6 はサポートされていない場合があります。

▶ハードディスクの台数について 「付録 A」の「Q.RAID を構築するときの注意点は?」参照

9) [次へ]を選択し【Enter】キーを押します。

コンピュータ情報 - 1/2 の設定画面が表示されます。導入 OS で SBS を選択した場合は手順 17)へ進みます。

OSをインストールする際のユーザの識別情報を設定します。 (1/2)

ユーザ名 :

組織名 :

キーの選択 : ☐ プロダクト ID ☐ CD キー

キーの値 :

クライアントライセンス : ☐ 同時使用ユーザ数 ☐ ライセンス数

ライセンス数 :

[次 へ] [戻 る]

↑↓ : 移動 ←→ : 選択 ENTER : 動作 ESC : キャンセル

登録するユーザ名を半角50文字（全角25文字）以内で入力します。
半角の「"」は使用できません。
全角で入力する場合は、Altキーと半角/全角キーを同時に押してください。

10) ユーザ情報、コンピュータ情報、クライアントライセンス情報を入力します。

項目	説明
ユーザ名	OS をインストールする際に登録するユーザ名を半角 50 文字（全角 25 文字）以内で入力します。 半角の "（ダブルクォーテーション）は使用できません。
組織名	OS をインストールする際に登録する組織名を半角 50 文字（全角 25 文字）以内で入力します。 半角の "（ダブルクォーテーション）は使用できません。
キーの選択	プロダクト ID と CD キーのどちらかを選択します。 キーの値：プロダクト ID または CD キーを入力します。プロダクト ID はファーストステップガイドの表紙、CD キーは CD ケースの裏を確認してください。
クライアントライセンス	NT クライアントのライセンスの形態を選択します。 ライセンス数：クライアントライセンスで「同時使用ユーザ数」を指定した場合に、同時に使用するユーザ数を入力します。

Point

ユーザ名、組織名に全角文字を入力する場合は【Alt】キーを押しながら、【半角 / 全角】キーを押して日本語入力システムを起動してください。

- 11) [次へ]を選択し【Enter】キーを押します。
コンピュータ情報 - 2/2 の設定画面が表示されます。

- 12) コンピュータ名、サーバ種別等を設定します。

項目	説明
コンピュータ名	サーバのコンピュータ名を半角 15 文字以内で入力します。 \"/\", ¥, +, <, >, *, ? [,] の 15 種類の文字は使用できません。
サーバ種別	サーバ種別を選択します。
プライマリ ドメインコントローラ	ドメインのすべてのコンピュータアカウントの変更情報を追跡するサーバです。プライマリドメインコントローラ（以降 PDC と表記します）を選択した場合のみ WizardConsole のインストールが行えます。
バックアップ ドメインコントローラ	PDC のディレクトリデータベースのコピーを保持するサーバです。
スタンドアロンサーバ	PDC、バックアップドメインコントローラのどちらでもないサーバです。ワークグループに参加する場合はスタンドアロンサーバを選択します。

Note

サーバ種別を「バックアップドメインコントローラ」に設定した場合は、あらかじめ PDC のサーバ側に、コンピュータアカウントを作成しておく必要があります。サーバ種別に「スタンドアロンサーバ」、メンバーに「ドメインに参加」を設定した場合も、同様にコンピュータアカウントの作成が必要です。

アカウントを作成していない場合は、PDC 側にアカウントを作成するため、管理者のユーザ名とパスワードを入力する必要があります。

項目	説明
次のメンバーに参加する	サーバ種別で「スタンドアロンサーバ」を選択した場合のみ、ドメインに参加するかワークグループに参加するかを選択します。

項目	説明
名称	ワークグループ名 / ドメイン名を入力します。半角 15 文字以内で入力してください。コンピュータ名と同じ名前は使用できません。空白および " / , ¥ = + < > ; * ? [:] の 16 種類の文字は使用できません。
インストールディレクトリ	OS をインストールするディレクトリを入力します。MS-DOS のファイル名の規約に従って入力してください。

Note

インストールディレクトリには以下のものは使用できません

リザーブされている文字列

AUX / COMx / LPTx / NUL / PRN / CON / TEMP / RECYCLER / RECYCLED

その他の不正なディレクトリ名

ABC.

- 13) [次へ] を選択し【Enter】キーを押します。
ネットワーク情報の設定画面が表示されます。

- 14) サーバのプロトコル情報を設定します。

項目	説明
DHCP を使用 (複数の LAN カードを使用)	ネットワーク上に他の DHCP サーバがある場合は「する」を選択します。「しない」を選択した場合は、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力します。デフォルトゲートウェイは省略可能です。

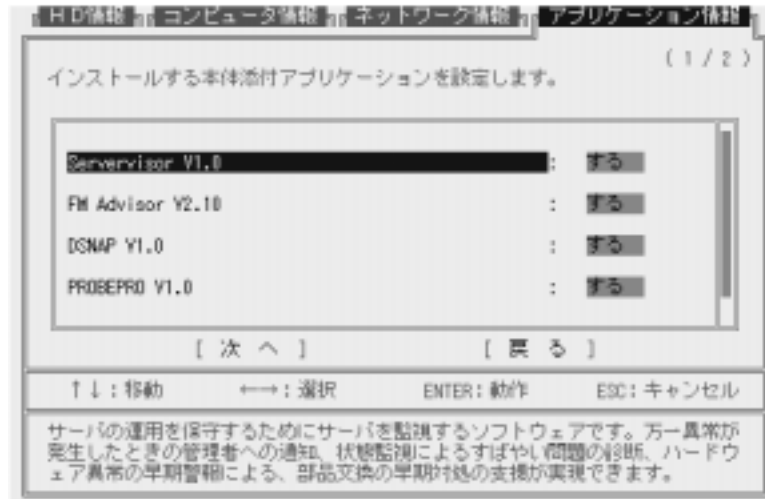
(続く)

Note

オプションの LAN カードを使用する場合は、カードごとに IP アドレスを指定することはできません。その場合は、「DHCP の使用 (複数の LAN カードを使用)」を「する」に設定し、このまま OS のセットアップを行ってください。インストール完了後に手動で IP アドレスの設定を行ってください。

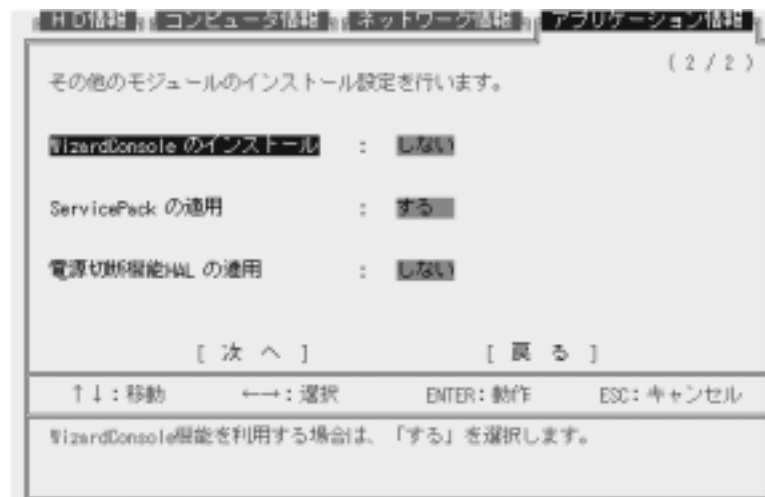
項目	説明
NetBEUI プロトコルの使用	NetBEUI プロトコルを使用するかしないかを選択します。
NWLink IPX/SPX 互換 トランスポートの使用	NWLink IPX/SPX 互換トランスポートを使用するかしないかを選択します。

- 15) [次へ] を選択し【Enter】キーを押します。
アプリケーション情報 - 1/2 の設定画面が表示されます。



- 16) 本体添付アプリケーションのインストール設定を行います。
画面右側にスクロールバーが表示されます。項目を移動すると、アプリケーションの一覧部分がスクロールされます。

- 17) [次へ] を選択し【Enter】キーを押します。
アプリケーション情報 - 2/2 の設定画面が表示されます。



- 18) その他のモジュールのインストール設定を行います。

項目	説明
WizardConsole のインストール	WizardConsole をインストールするかしないかを選択します。 なお、この設定は、サーバ種別に「プライマリドメインコントローラ」が設定されている場合のみ選択できます。 WizardConsole について詳しくは「第 4 章 WizardConsole」を参照してください。
ServicePack の適用	添付されている ServicePack を自動的に適用するかしないかを選択します。 なお、導入種別を「新規インストール」、かつ導入 OS を「Windows NT SV 4.0」に設定した場合のみ選択できます。
電源切断機能 HAL の適用	電源切断機能 HAL をインストールするかしないかを選択します。 電源切断機能 HAL について、詳しくは本体添付マニュアルを参照してください。なお、導入種別が「新規インストール」に設定されている場合のみ選択できます。ご使用の機種によっては、選択できません。

Note

- ・ 導入 OS に SBS を選択した場合は、「電源切断機能 HAL の適用」のみ表示されます。
- ・ 導入種別に「インストールタイプ」を指定した場合は、「WizardConsole のインストール」のみ表示されます。
- ・ サーバ監視ソフトウェア（LDSM または Servervisor）をインストールする場合は、必ず ServicePack を導入してください。

19) [次へ] を選択し【Enter】キーを押します。

設定項目の確認画面が表示されます。

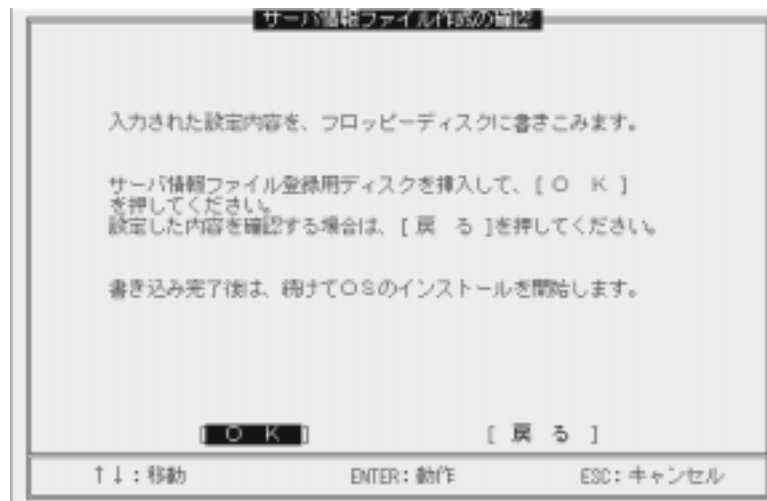
変更したい場合はその項目を選択し、【Enter】キーを押します。

各設定画面に移動し、変更できます。

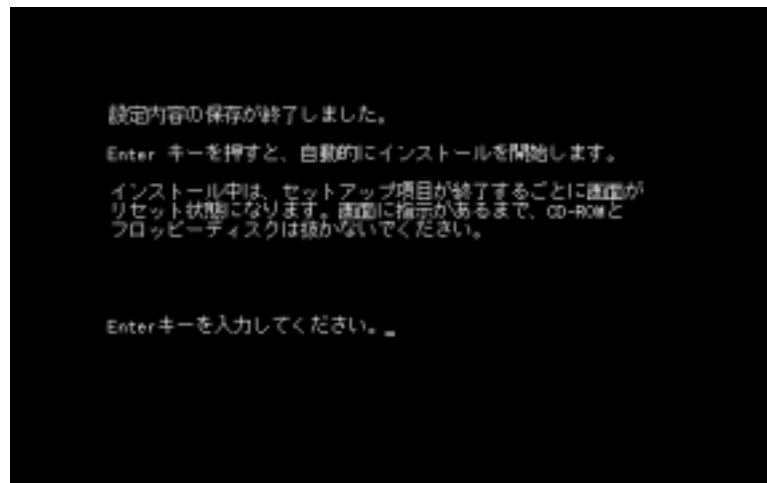
各設定画面で [次へ] [戻る] を選択し【Enter】キーを押すと、変更が反映され設定項目の確認画面に戻ります。

20) [次へ] を選択し【Enter】キーを押します。

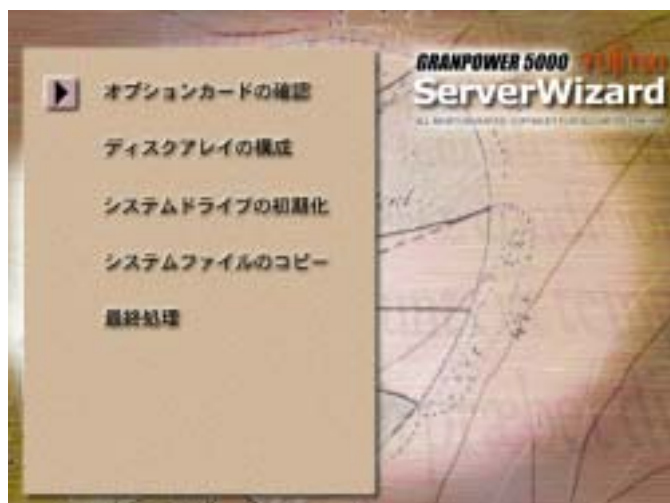
サーバ情報ファイル作成の確認の画面が表示されます。



- 21) 初期化してもよい2HDのフロッピーディスクをセットし、【OK】を選択し、【Enter】キーを押します。
 フロッピーディスクがフォーマットされ、サーバ情報が"DOSPTNR.SPD"のファイル名で登録されます。登録が終了すると、設定終了画面が表示されます。



- 22) 【Enter】キーを押します。
 セットアップ、およびインストールが開始されます。
 以降は、画面の指示に従って操作を行ってください。



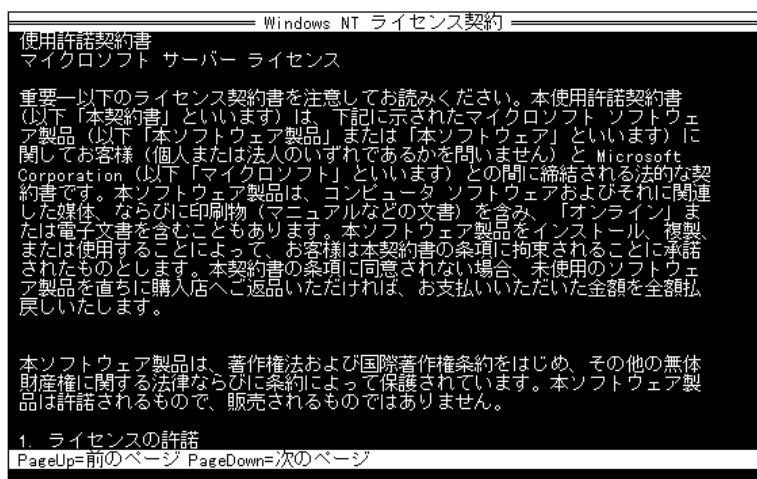
Note

セットアップ項目の処理が終了するごとに画面がリセット状態になります。すべての処理が終了するまでフロッピーディスクは絶対に抜かないでください。

Point

「ディスクアレイの構成」は、ブートデバイスに RAID を選択した場合のみ表示され、自動的に行われます。

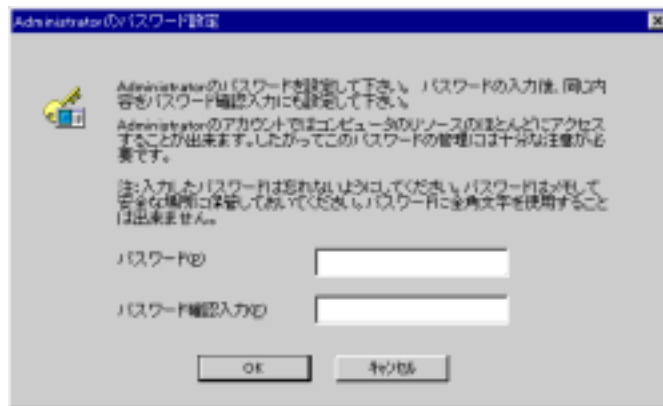
- 23) 「最終処理」でドライバのコピーが終了すると、Windows NT のライセンス契約の同意画面が表示されます。



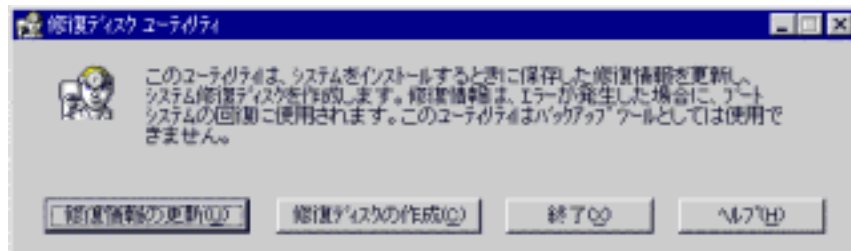
- 24) 内容を確認して同意する場合は【F8】キーを押してください。
Windows NT のインストールが開始されます。
以降は、画面の指示に従って操作してください。

- ・ライセンス契約に同意しない場合は【Esc】キーを押します。その場合、処理が終了し、インストールは行われません。
再び ServerWizard によりインストールを行う場合は、最初から読み込みを選択して操作しなおしてください。作成した.SPD ファイルはそのまま使用できます。
- ・インストール中、あらかじめ設定した内容（CD キーなど）に誤りがあるとエラー画面が表示されます。正しい値を直接インストール中の画面で入力して処理を続行してください。ただし、ここで修正した内容はサーバ情報ファイルには反映されません。

- 25) インストールが終了すると、パスワード設定の画面が表示されます。
管理者用パスワードを入力し、パスワード確認入力にも同じパスワードを入力します。
パスワードは半角 14 文字以内で入力します。パスワードは必ず設定してください。



- 26) [OK] をクリックします。
修復ディスクのユーティリティ画面が表示されます。
修復ディスクの作成を選択し、画面の指示に従って操作してください。
修復ディスクの作成には、新しいフロッピーディスクが 1 枚必要です。



Point

万一、Windows NT システムファイル、システム構成、およびスタートアップ時の環境変数などが損傷を受けた場合は、修復ディスク上に保存した情報を使ってこれらを再構築できます。システムの修復方法については、添付の『Windows NT Server コンセプトアンドプランニングガイド』等のマニュアルを参照してください。

- 27) すべての処理が終了すると、インストールした OS が起動します。



これでサーバのセットアップ、インストールは終了です。

3.5 サーバのセットアップ (読み込み)

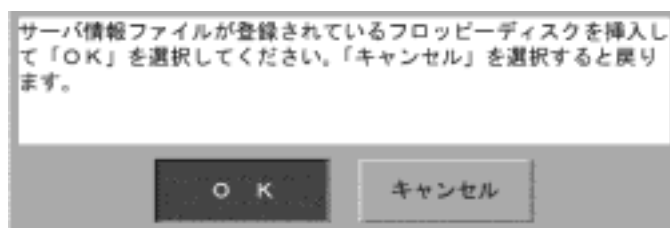
すでに DesignMagic で作成した、サーバ情報ファイルがある場合は、サーバ情報ファイルに登録されている設定に従って自動的にセットアップ、インストールが行われます。

Note

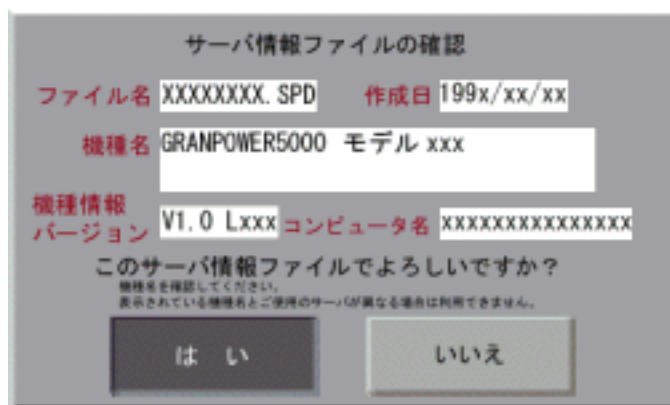
セットアップ、インストール途中で、エラーや電源切断などで中断した場合は、必ず最初からセットアップをやり直してください。

- 1) ServerWizard を起動します。 ▶起動方法 「3.3 ServerWizard を起動する」を参照
- 2) 「セットアップ」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3) 「読み込み」を選択し、【Enter】キーを押します。

指示に従ってサーバ情報ファイルの入ったフロッピーディスクを挿入します。



- 4) 【Enter】キーを押します。
サーバ情報ファイルの内容が表示されます。



- 5) 使用するサーバ情報ファイルと機種名を確認して【Enter】キーを押します。
サーバ情報ファイルの内容に従ってセットアップ、およびインストールが開始されます。
機種名が正しくない場合には、正常にインストールは行われません。
以降は、画面の指示に従って操作を行ってください。



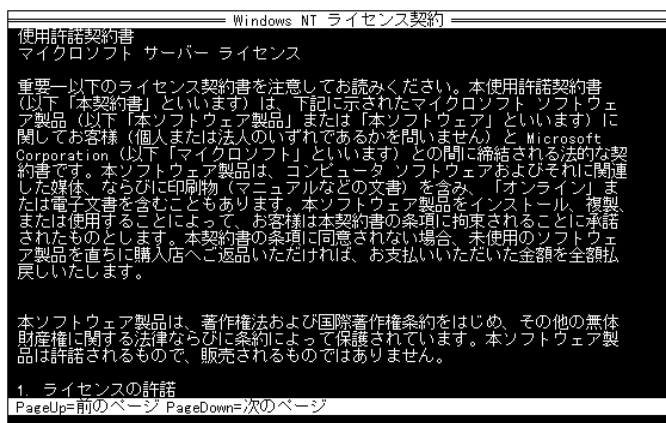
Note

セットアップ項目の処理が終了するごとに画面がリセット状態になります。すべての処理が終了するまでフロッピーディスクは絶対に抜かないでください。

Point

「ディスクアレイの構成」は、ブートデバイスに RAID を選択した場合のみ表示され、自動的に行われます。

- 6) 「最終処理」でファイルのコピーが終了すると、Windows NT のライセンス契約の同意画面が表示されます。以降の手順で引き続き操作を行ってください。

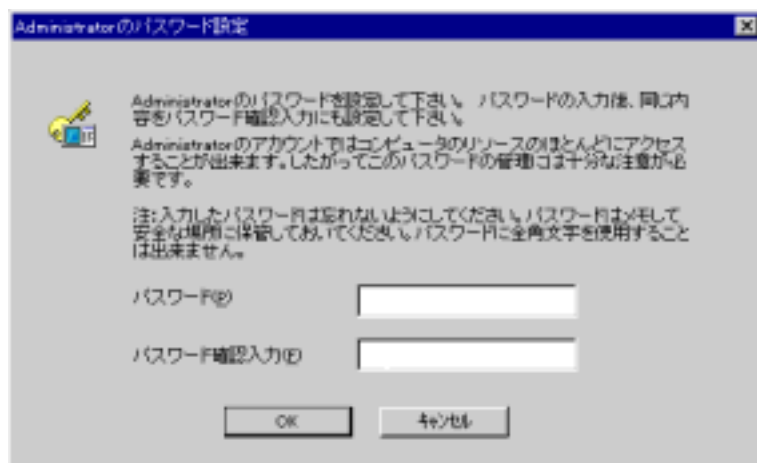


- 7) 内容を確認して同意する場合は【F8】キーを押してください。
Windows NT のインストールが開始されます。
画面の指示に従って操作してください。インストールには時間がかかります。

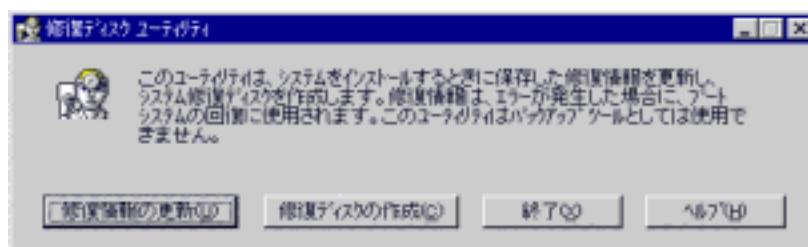
Note

- ・ライセンス契約に同意しない場合は【Esc】キーを押します。その場合、処理が終了し、インストールは行われません。
再び ServerWizard からインストールを行う場合は、最初から操作しなおしてください。
- ・インストール中、あらかじめ設定した内容（CD キーなど）に誤りがあるとエラー画面が表示されます。正しい値を直接インストール中の画面で入力して処理を続行してください。ただし、ここで修正した内容はサーバ情報ファイルには反映されません。

- 8) インストールが終了すると、パスワード設定の画面が表示されます。
管理者用パスワードを入力し、パスワード確認入力にも同じパスワードを入力します。
パスワードは半角 14 文字以内で入力します。パスワードは必ず設定してください。



- 9) [OK] をクリックします。
修復ディスクのユーティリティ画面が表示されます。
[修復ディスクの作成] をクリックし、画面の指示に従って操作してください。
修復ディスクの作成には、新しいフロッピーディスクが 1 枚必要です。



Point

万一、Windows NT システムファイル、システム構成、およびスタートアップ時の環境変数などが損傷を受けた場合は、修復ディスク上に保存した情報を使ってこれらを再構築できます。システムの修復方法については、添付の『Windows NT Server コンセプトアンドプランニングガイド』等のマニュアルを参照してください。

10) すべての処理が終了すると、インストールした OS が起動します。



これでサーバのセットアップ、インストールは終了です

Point

インストール時に、クライアントシステム設計やクライアントセットアップで登録した項目の設定に失敗した場合はエラーが記録され、表示されます。原因などを確認してください。

3.6 サーバインストール後の処理

3.6.1 インストール後の状態

ディスプレイの状態

セットアップが終了した時点での、サーバのディスプレイの設定は次のとおりです。
お使いのディスプレイにあわせて、設定を変更してください。

	解像度	リフレッシュレート
Windows NT の場合	640 * 480 ドット/65536 色	60Hz
SBS の場合	800 * 600 ドット/65536 色	60Hz

リフレッシュレートは、モニタにより最適値に変更されます。



電源切断機能 HAL または添付の Service Pack をインストールしない場合、AGP のディスプレイドライバは、自動的にインストールされません。OS のインストール後、手動でインストールする必要があります。

インストールディレクトリ

インストールタイプ（Windows NT® Server の場合）での OS のインストール環境は以下のとおりです。

項 目	説 明
システムドライブ	C ドライブ
ドライブの容量	2GB（機種によっては 4GB のものがあります）
アプリケーションドライブ	D ドライブ
ドライブの容量	残り容量にあわせて自動的に作成されます。
ファイルシステム	NTFS
ディレクトリ名	WINNT

3.6.2 Windows NT セットアップ後の処理

サーバの運用を始める前に、以下の設定を行ってください。

各設定については『Windows NT Server ファーストステップガイド』を参照してください。

- ・外部 SCSI オプション装置（ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクユニット等）を接続する場合、本体に添付の取扱説明書を参照して接続してください。
- ・インストールした添付アプリケーションの設定を、各アプリケーションの取扱説明書を参照して行ってください。

3.6.3 SBS インストール後の注意事項

- ・ Windows NT Service Pack について
SBS は Windows NT Service Pack が適用されています。SBS には、Windows NT Service Pack を絶対にインストールしないでください。誤動作の原因になります。
- ・ FAX モデムカードを使用する COM ポートの設定について
SBS インストール直後は、FAX モデムカードは指定した COM ポートを使用するように設定されています。それ以外の COM ポートを使用する場合は、いったん FAX モデムカードを削除し、使用する COM ポートを追加設定し、再度 FAX モデムカードを追加してください。また、FAX プリンタを使用する場合も、FAX モデムカードと同様に FAX プリンタを一度削除してから、追加してください。
以下に、COM ポートの追加設定方法を示します。
 1. 「コントロールパネル」から「シリアルポート」を選択します。
現在使用できるシリアルポートの一覧が表示されます。
 2. 「追加 (A)...」を選択します。
「新しいポートの詳細設定」画面が表示されます。
 3. I/O ポートアドレス、割り込み番号 (IRQ) を正しく設定し、[OK] をクリックします。
ICU で設定した値および FAX モデムカードに設定した値と合わせます。
 4. 再起動するかどうかのメッセージが表示されますので、「再起動する」を選択し、再起動します。

FAX モデムおよび FAX プリンタの追加 / 削除方法の詳細については、SBS 管理コンソールのオンラインガイドで、FAX の項目を参照してください。

3.6.4 管理ソフトウェアのインストール (アレイタイプのみ)

インストールタイプの SCSI アレイコントローラカードが搭載されているモデルで、導入種別を「インストールタイプ」に指定した場合は、SCSI アレイコントローラカードの管理ソフトウェアはインストールされません。サーバ本体または SCSI アレイコントローラカードに添付の取扱説明書を参照して、管理ソフトウェアをインストールしてください。

3.6.5 Windows NT Server の再インストール(インストールタイプの場合)

ServerWizard からサーバへのインストールを行っている途中に失敗があった場合は、再インストールを行う必要があります。

- ・ 「導入種別」で「インストールタイプ」を選択していた場合は、再インストール時には「新規インストール」を選択してください。
- ・ 先にインストールで使用していたサーバ情報ファイルは再インストール時は、使用できません。一度フロッピーディスクを初期化してから最初からやり直してください。

3.6.6 大容量メモリ搭載時の留意事項

Windows NT Server のインストール時に搭載可能なメモリ容量は 2GB までです。2GB を超えるメモリについては、Windows NT Server のセットアップが完了して ServicePack を適用した後に搭載してください。

ただし、機種によっては 2GB より少ないメモリ容量に制限されている場合があります。サーバ機の取扱説明書でご確認ください。

Note

Windows NT Server インストール時に、2GB を超えるメモリを搭載した場合、セットアップ起動時にエラーとなり、セットアップを継続することができなくなります。

3.6.7 LDSM / Servervisor インストール後の処理

LDSM または Servervisor をインストールする場合、Server Manager エージェントのみインストールされます。オプションのサーバモニタモジュール (SMM) を使用する場合には、LDSM / Servervisor のマニュアルに従ってドライバ、およびファームウェアをインストールしてください。

3.7 ユーティリティ

3.7.1 バックアップディスクの作成

ServerWizard V1.0 の CD-ROM には、サーバ本体に標準添付されているバックアップディスク、各種デバイスに添付されるドライバディスク、アプリケーションが収められており、バックアップディスクが簡単に作成できます。

新しいフロッピーディスク（2HD）が、作成するバックアップディスクの枚数分必要です。

添付アプリケーションは ServerWizard でインストールし、使用することができます。また、サーバのインストール後に手動で ServerWizard V1.0 の CD-ROM からインストールすることもできます。

▶▶ 添付アプリケーションのインストールについて

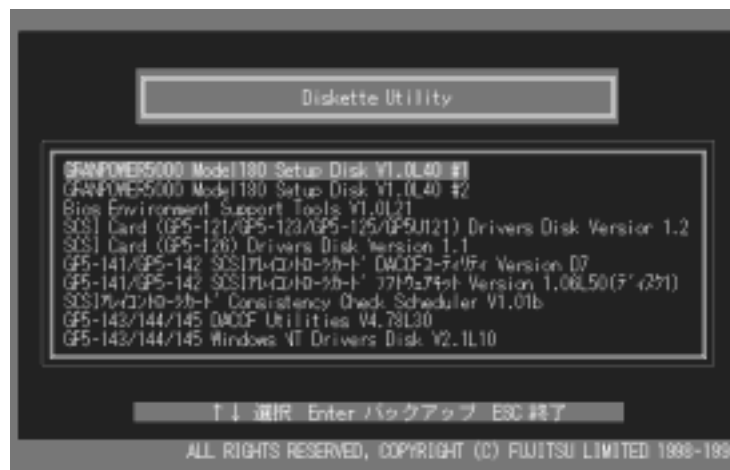
「付録 D 添付アプリケーションのインストール」参照

- 1) ServerWizard を起動します。
- 2) 「ユーティリティ」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3) 「FD 作成」を選択し、【Enter】キーを押します。

バックアップディスク作成ツールの画面が表示されます。

画面は機種ごとに異なります。

（GRANPOWER5000 モデル 180 の例）



- 4) 作成するバックアップディスクを選択し、【Enter】キーを押します。
メッセージに従ってフロッピーディスクをドライブ A に挿入してください。

5) 【Enter】キーを押します。

自動的にフォーマットされ、ファイルのコピーが開始されます。

バックアップディスクの作成が終了すると、バックアップディスクのラベル画面が表示されます。内容を確認して【Enter】キーを押すと、バックアップディスク作成ツールの画面に戻ります。

引き続きバックアップディスクを作成する場合は、手順4)、5)を繰り返してください。

【Esc】キーを押すとバックアップディスクの作成を終了し、ServerWizard 画面に戻ります。

Point

サーバ機種によって画面および作成できるバックアップディスクは異なります。

第 4 章 WizardConsole

～ クライアント情報を設定 / 変更する ～

WizardConsole は、ServerWizard によりサーバをセットアップ、インストールした後で、クライアントの情報を更新したり、クライアントセットアップ機能を設定するためのプログラムです。

WizardConsole を使うために必要な環境

- ・ 設定を変更するサーバ機
- ・ ネットワーク環境
- ・ クライアント導入フロッピーを作成するための未使用フロッピーディスク（必要枚数分）

4.1 WizardConsole の手順、機能

- 1) 「スタート」をクリックし、「プログラム」の「ServerWizard」から「WizardConsole」を選択します。

WizardConsole が起動します。

The screenshot shows the WizardConsole application window with a light blue background and a Fujitsu logo in the top right corner. The window title is 'WizardConsole'. The main area contains several icons and text labels for different functions. Callouts are connected to these icons by lines, providing detailed explanations of each function.

- アカウント情報（ユーザ、グループ、共有資源）の追加、変更を行います。** (Adds, changes account information (users, groups, shared resources).)
- クライアントコンピュータの追加、変更を行います。追加、変更後はフロッピーを作成し、ClientWizard の起動に使用します。** (Adds, changes client computer information. After adding or changing, a floppy disk is created and used to start ClientWizard.)
- クライアントをセットアップするためのフロッピーを作成します。作成したフロッピーは ClientWizard の起動に使用します。** (Creates a floppy disk for client setup. The created floppy disk is used to start ClientWizard.)
- WizardConsole を終了します。** (Ends WizardConsole.)
- クライアントのデスクトップ環境を設定します。** (Sets the desktop environment for the client.)
- アプリケーションなどをクライアントにインストールするタイミングを設定します。** (Sets the timing for installing applications etc. on the client.)
- 運用中に増加したクライアントなどの情報をサーバ情報ファイルに保存します。** (Saves information on newly added clients etc. to the server information file during operation.)
- プリンタを追加します。** (Adds a printer.)
- クライアントに対して、アプリケーション、ファイルなどのインストールする資源の設定を行います。** (Sets resources for installing applications, files etc. on the client.)

WizardConsole の機能一覧

項目	説明
クライアント情報の追加 / 変更	ユーザ、グループ、共有資源に関する情報を追加、変更します。追加、変更した情報は、クライアントシステム設計画面で関連付けを行います。
コンピュータの追加 / 変更	クライアントとなるコンピュータの情報を追加、変更します。
クライアント導入フロッピーの作成	WizardConsole クライアントをインストールするためのフロッピーディスクを作成します。
終了	WizardConsole を終了します。
サーバ情報ファイルの作成	WizardConsole で変更した情報を、サーバ情報ファイルに登録、または更新します。
プリンタの追加	システムにプリンタを追加します。
クライアントセットアップ	クライアントにインストールする資源の設定 / 情報確認を行います。 この項目は、DesignMagic の [サーバ設計] で「クライアントセットアップを使用する」を指定した場合のみ表示されます。
クライアントセットアップ動作環境	クライアントセットアップの動作環境を設定します。ただし、DesignMagic の [サーバ設計] で「クライアントセットアップを使用する」を指定した場合のみ表示されます。
デスクトップ環境設定	サーバ側で一括管理するクライアントのデスクトップ環境を設定します。 クライアントのデスクトップに Web ベースで簡単に作成できる WizardMenu を表示させることもできます。 この項目は、DesignMagic の [サーバ設計] で「デスクトップ設計を使用する」を指定した場合のみ表示されます。

WizardConsole のメニュー

項目	説明
[ヘルプ] メニュー	
トピックの検索	WizardConsole のヘルプが表示されます。ヘルプには、各設定画面の説明がかけられています。
バージョン情報	WizardConsole のバージョン情報が表示されます。

4.2 クライアント情報の追加 / 変更



WizardConsole では、現在登録されているクライアント情報を表示します。ここでの変更内容は即時に反映されるので、情報を変更する場合は十分注意してください。

- 1) [クライアント情報の追加 / 変更] を選択します。
クライアント情報の追加 / 変更画面が表示され、[ユーザの設定] タブ画面が表示されます。各タブをクリックすると [グループの設定] タブ、[共有資源の設定] タブ画面に切り替わります。
- 2) 各タブをクリックして設定します。 ▶設定方法 「4.2.1 ユーザ情報の追加 / 変更」参照
「4.2.2 グループ情報の追加 / 変更」参照
「4.2.3 共有資源フォルダの追加 / 変更」参照



Point

[次へ] をクリックすると、クライアントシステム設計画面が表示され、クライアントシステムの関連付けを変更することができます。

4.2.1 ユーザ情報の追加 / 変更

[ユーザの設定] タブが表示されていることを確認してください。

- 1) ユーザの情報を設定します。
新規にユーザを追加する場合は、[追加] をクリックします。
ユーザの追加画面が表示されます。

- 2) 追加するユーザの情報を設定します。

項目	説明
ユーザ名	コンピュータ上のユーザ名を入力します。半角 20 文字以内で入力してください。 "/, ¥ = + < > ; * ? [:] の 15 種類の文字は使用できません。また、すでに入力されているグループ名およびユーザ名と同じ名前は使用できません。
フルネーム	ユーザのフルネームを入力します。半角 64 文字以内で入力してください。省略できます。
説明	ユーザに対する説明を入力します。半角 48 文字以内で入力してください。省略できます。
パスワード	ログオン時のパスワードを設定します。半角 14 文字以内で入力してください。全角文字は入力できません。ここで設定したパスワードは、ユーザがサーバログオン時に任意に変更できます。
確認入力	「パスワード」で入力した文字列を、確認のために再度入力します。
次回ログイン時に変更する	設定したパスワードをユーザが次回サーバ接続時に変更する場合にチェックします。
パスワードを変更できない	ここで設定したパスワードを固定し、変更できないようにする場合にチェックします。
パスワードを無期限にする	ここで設定したパスワードを、無期限に利用できる場合にチェックします。
アカウントを無効にする	アカウントを無効にする場合にチェックします。

- 3) [追加] をクリックします。
ユーザの情報が追加されます。追加するユーザの情報を続けて設定できます。
- 4) すべてのユーザの追加が終わったら [閉じる] をクリックします。
クライアント情報の追加 / 変更画面に戻ります。

Point

ユーザ情報の変更

変更するユーザを選択して [変更] をクリックするか、変更するユーザをダブルクリックします。
ユーザの変更画面が表示されます。設定を変更し [OK] をクリックします。

ユーザの削除

削除するユーザを右クリックし、[削除] を選択します。

Note

256 件を超えてユーザを登録した場合、操作は続行できますが、サーバ情報ファイルには、256 件までしか登録されません。

4.2.2 グループ情報の追加 / 変更

- 1) [グループの設定] タブをクリックします。
[グループの設定] タブ画面が表示されます。



2) グループの情報を設定します。

新規にグループを追加する場合は、[追加] をクリックします。
グループの追加画面が表示されます。



3) 追加するグループの情報を設定します。

項目	説明
グループ名	ユーザグループ名を入力します。 半角 20 文字以内で入力してください。 "/, ¥ = + < > ; * ? [:] の 15 種類の文字は使用できません。すでに入力されているグループ名およびユーザ名と同じグループ名は使用できません。Windows NT であらかじめ予約されているグループ (Domain Admins、Domain Guests、Domain Users) は作成できません。
説明	作成したグループに対する説明を入力します。半角 64 文字以内で入力してください。省略できます。

4) [追加] をクリックします。

グループの情報が追加されます。追加するグループを続けて設定できます。

5) すべてのグループの追加が終わったら [閉じる] をクリックします。

クライアント情報の追加 / 変更画面に戻ります。

グループ情報の変更

変更するグループを選択して [変更] をクリックするか、変更するグループをダブルクリ

ックします。

グループの変更画面が表示されます。設定を変更し [OK] をクリックします。

グループの削除

削除するグループを右クリックし、[削除] を選択します。

Note

- ・ 256 件を超えてグループを登録した場合、操作は続行できますが、サーバ情報ファイルには、256 件までしか登録されません。
- ・ Windows NT の「スタート」 - 「管理ツール」の「ユーザマネージャ」および「サーバマネージャ」を使用して変更したユーザ、グループ、共有資源の情報は、正常に反映されない場合があります。

4.2.3 共有資源フォルダの追加 / 変更

1) [共有資源の設定] タブをクリックします。

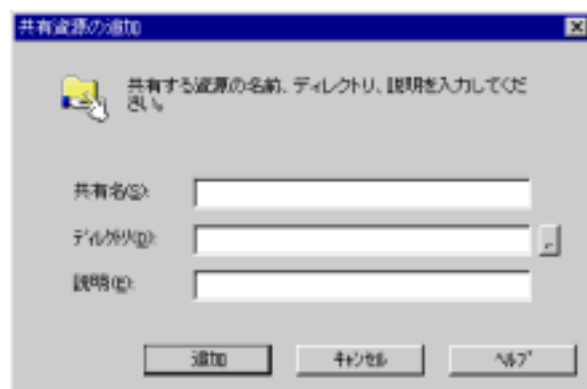
[共有資源の設定] タブ画面が表示されます。



2) 共有資源の情報を設定します。

新規にグループを追加する場合は、[追加] をクリックします。

共有資源の追加画面が表示されます。



3) 追加する共有資源の情報を設定します。

項目	説明
共有名	共有するディスク資源を入力します。半角 80 文字以内で入力してください。 " / , ¥ = + < > ; * ? [:] の 15 種類の文字は使用できません。 ServerWizard であらかじめ予約されている共有名(SVWIZARD)は使用できません。 8.3 形式(xxxxxxxx.xxx)以上の長さで入力した場合は、MS-DOS のワークステーションから共有できない可能性があります。
ディレクトリ	共有する資源のディレクトリ名を入力します。半角 246 文字まで入力できます。 " / : ? < > * ¥ の 9 種類の文字は使用できません。 絶対パスで入力してください。[...] ボタンをクリックして、ディレクトリ一覧から選択することもできます。
説明	共有資源に対する説明を入力します。半角 48 文字以内で入力してください。 省略できます。

4) [追加] をクリックします。

共有資源の情報が追加されます。続けて追加する共有資源を設定できます。

5) すべての共有資源の追加が終わったら [閉じる] をクリックします。

項目の追加 / 変更画面に戻ります。

共有資源情報の変更

変更する共有資源を選択して [変更] をクリックするか、変更する共有資源をダブルクリックします。

共有資源の変更画面が表示されます。設定を変更し [OK] をクリックします。

共有資源の削除

削除する共有資源を右クリックし、[削除] を選択します。

Note

- 32 件を超えて共有資源を登録した場合、操作は続行できますが、サーバ情報ファイルには、32 件までしか登録されません。
- 共有資源の"SVWIZARD"とユーザ名の"SWClientSetupUser"は、ServerWizard でクライアントコンピュータの登録に使用するために作成されます。
インターネット等の他のネットワークに接続しているサーバでは、セキュリティ確保のため、ClientWizard ですべてのクライアントに登録が終了したら削除してください。
- デスクトップ設計をお使いになる場合は、共有資源を削除しないでください。

4.2.4 クライアントシステム設計

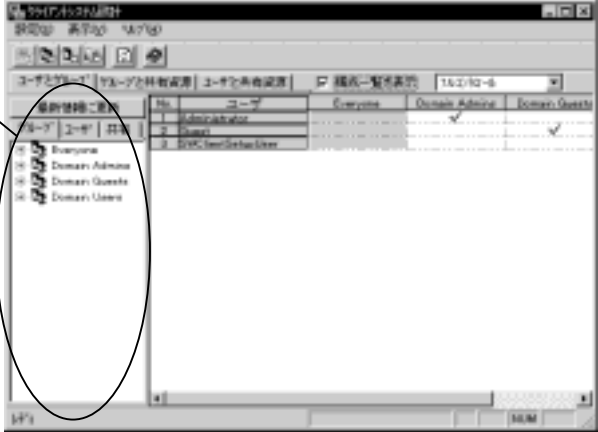



- 1) クライアント情報の追加 / 変更画面で [次へ] をクリックします。
クライアントシステム設計画面が表示されます。



「表示」メニューの「ツールバー」表示が有効の場合、以下のアイコンが表示されます。



- 2) 現在のサーバの設定情報が表示されます。
各タブをクリックし、追加、変更したユーザ、グループ、共有資源に対して、関連付けを設定してください。

項目	説明
[ユーザとグループ] タブ	グループごとに所属するユーザを設定します。横項目にユーザグループの作成画面で作成したグループ名が表示されます。
ユーザ	ユーザ欄にユーザ名が表示されます。ユーザごとに、所属するグループを設定します。欄をクリックするとチェックマークが付き、グループに設定されます。各欄をクリックして右下隅をドラッグすると、ドラッグした範囲内を一度に設定できます。
[グループと共有資源] タブ	グループで利用できる共有資源を設定します。横項目に共有資源の作成画面で作成した共有資源名が表示されます。
グループ	グループ欄にグループ名が表示されます。グループごとに、使用する共有資源を設定します。欄をクリックすると選択されているアクセス権が設定されます。各欄をクリックして右下隅をドラッグすると、ドラッグした範囲内を一度に設定できます。
[ユーザと共有資源] タブ	ユーザが利用できる共有資源を設定します。横項目に共有資源の作成画面で作成した共有資源名が表示されます。
ユーザ	ユーザ欄にユーザ名が表示されます。ユーザごとに、使用する共有資源を設定します。欄をクリックすると選択されているアクセス権が設定されます。各欄をクリックして右下隅をドラッグすると、ドラッグした範囲内を一度に設定できます。
構成一覧を表示	<p>グループ、ユーザ、共有資源を構成する一覧を表示する場合にチェックします。共有資源に対するアクセス権を選択します。</p>  <p>構成一覧は、「グループ」タブ、「ユーザ」タブ、「共有」タブを切り替えることで、一覧の内容が切り替わります。</p> <p>構成一覧表に表示されているアイコンは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">  作成したグループを表しています。  作成したユーザを表しています。  作成した共有資源を表しています。
[最新情報に更新] ボタン	構成一覧の表示内容を設定されている最新の情報に更新します。このボタンをクリックすると設定を追加、変更した内容が構成一覧に反映されます。
アクセス権	共有資源に対して設定するアクセス権の種類が表示されます。[]をクリックして設定するアクセス権を変更できます。 フルコントロール：すべての操作が行えます。 変更のみ：変更のみ行えます。 読み込みのみ：読み込みのみ行えます。書き込みはできません。 アクセス権なし：アクセスすることはできません。

クライアントシステム設計画面のメニュー

クライアントシステム設計画面には、次のメニューがあります。

項目	説明
[設定] メニュー	
追加 / 変更	追加変更には、次のサブメニューがあります。 グループ：グループ情報を追加、または変更します。 ユーザ：ユーザ情報を追加、または変更します。 共有資源：共有資源情報を追加、または変更します。
アクセス権選択	表示されたサブメニューからアクセス権を選択します。 フルコントロール：すべての操作が行えます。 変更のみ：変更のみ行えます。 読込みのみ：読込みのみ行えます。書き込みはできません。 アクセス権なし：アクセスすることはできません。
適用	クライアントシステム設計で設定した内容を反映します。
終了	クライアントシステム設計を終了します。
[表示] メニュー	
ツールバー	ツールバーの表示、非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示、非表示を切り替えます。
構成一覧	構成一覧の表示、非表示を切り替えます。
構成一覧のキー	構成一覧を表示にした場合に有効になります。次のサブメニューが表示されます。 グループ：構成一覧を登録されているグループで表示します。 ユーザ：構成一覧を登録されているユーザで表示します。 共有資源：構成一覧を登録されている共有資源で表示します。
構成一覧の更新	構成一覧の表示内容を設定されている最新の情報に更新します。
設定	関連付けを行う項目を切り替えます。次のサブメニューが表示されます。 ユーザとグループ：ユーザが所属するグループを設定します。 グループと共有資源：グループが使用する共有資源を設定します。 ユーザと共有資源：ユーザが使用する共有資源を設定します。

Note

クライアントシステム設計での設定を反映するには、[適用] をクリックするか、「設定」メニューの「適用」を選択してください。

「終了」のみ行った場合は、ユーザ、グループ、共有資源の追加 / 変更は反映されますが、クライアントシステム設計で設定した関連付けは反映されません。

- 3) 「設定」メニューから「終了」を選択します。

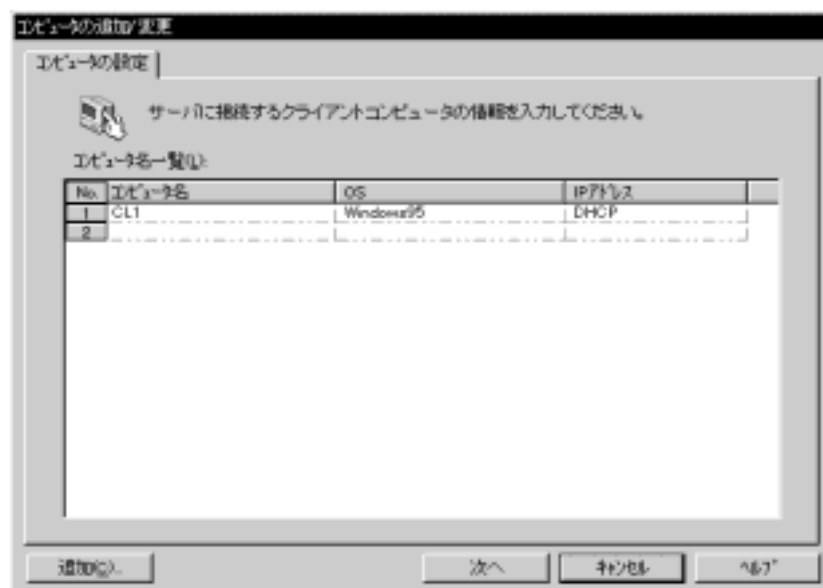
WizardConsole 画面に戻ります。

4.3 クライアントコンピュータの追加 / 変更

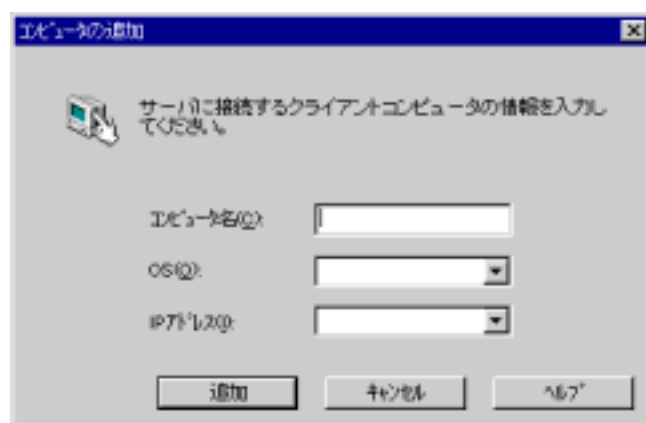
Note

WizardConsole では、現在登録されているクライアント情報を表示します。ここでの変更内容は即時に反映されるので、情報を変更する場合は十分注意してください。

- 1) [コンピュータの追加 / 変更] を選択します。
コンピュータの設定画面が表示されます。



- 2) コンピュータの情報を設定します。
新規にコンピュータを追加する場合は、[追加] をクリックします。
コンピュータの追加画面が表示されます。



- 3) 追加するコンピュータの情報を設定します。

項目	説明
コンピュータ名	クライアントのコンピュータ名を入力してください。 半角 15 文字以内で入力してください。 "/ , ¥ = + < > ; * ? [:] の 15 種類の文字は使用できません。サーバと同じコンピュータ名は使用できません。
OS	クライアントのコンピュータで使用する OS を選択します。
IP アドレス	クライアントコンピュータの IP アドレスの設定方法を選択します。 「手動設定」の場合、IP アドレスをコントロールパネルで手動で設定してください。 「DHCP」の場合、DHCP サーバが IP アドレスを自動的に割り当てます。

- 4) [追加] をクリックします。
コンピュータの情報が追加されます。続けて追加するコンピュータを設定できます。
- 5) すべてのコンピュータの追加が終わったら [閉じる] をクリックします。
コンピュータアカウントの画面に戻ります。

コンピュータの変更

変更するコンピュータをクリックして [変更] をクリックするか、変更するコンピュータをダブルクリックします。

コンピュータの変更画面が表示されます。設定を変更し [OK] をクリックします。

コンピュータの削除

削除するコンピュータを右クリックし、 [削除] を選択します。

Note

- ・ 256 件を超えてクライアントコンピュータを登録した場合、操作は続行できますが、サーバ情報ファイルには、256 件までしか登録されません。
- ・ Windows NT の「スタート」 - 「管理ツール」の「サーバマネージャ」から追加したコンピュータは、サーバ情報ファイルには登録されない場合があります。

- 6) [次へ] をクリックします。
クライアント導入フロッピーディスクの作成画面が表示されます。



- 7) クライアント導入フロッピーを作成します。
作成方法については、「4.4 クライアント導入フロッピーの作成」を参照してください。
クライアント導入フロッピーを作成しない場合は、 [キャンセル] をクリックします。
WizardConsole 画面に戻ります。

Point

デフォルトではフロッピーに登録していない全クライアントが対象となります。
一度クライアント導入フロッピーに登録したクライアントの OS の種別を変更した場合(たとえば、Windows 95 から Windows 98 に変更)も、フロッピーに登録していないコンピュータとして表示されます。クライアントで OS をアップグレードインストールではなく、新規インストールした場合は、再度クライアント導入フロッピーを作成し、ClientWizard によりセットアップし直すこともできます。クライアント導入フロッピーは、[クライアント導入フロッピーの作成]でも作成できます。

Note

クライアントコンピュータの追加を行った場合、追加したクライアントにアプリケーションやファイルをインストールする際に、クライアントセットアップ画面から次の操作を行ってください。

- ・ セットアップ資源がまだ取り込まれていない場合は、セットアップ資源の取り込み画面からセットアップ資源の取り込みを行ってください。
- ・ セットアップ資源がすでに取り込まれている場合は、セットアップ指示の追加画面からセットアップ資源と追加クライアントを選択して、追加処理を行ってください。

4.4 クライアント導入フロップピーの作成

クライアントをセットアップするためのクライアント導入フロップピーを作成します。

クライアント導入フロップピーの利用方法には、次の2つの方法があります。

- ・ 1枚のクライアント導入フロップピーに、全クライアントの導入ファイルを作成し、順次クライアントをセットアップしていきます。
- ・ クライアントごとに1枚のクライアント導入フロップピーを作成し、各クライアントを同時にセットアップします。

ご利用形態にあわせてクライアント導入フロップピーを作成してください。

作成したフロップピーディスクを使用して、クライアントコンピュータの登録が行えます。




クライアント導入フロップピーの作成手順

- 1) [クライアント導入フロップピーの作成]を選択します。

クライアント導入フロップピーディスクの作成ダイアログが表示されます。



2) クライアント導入フロッピーに登録するコンピュータを選択します。

項目	説明
登録していないコンピュータをすべて選択	クライアント情報ファイルを作成していないコンピュータをすべて選択し、フロッピーディスクに登録します。
一覧から選択	表示されているコンピューター一覧から、クライアントとして登録するコンピュータ名を選択します。複数のコンピュータを選択できます。表示されている項目は次のとおりです。
コンピュータ名	<p>クライアントコンピュータ名が表示されます。</p> <p>コンピュータ名の先頭のアイコンは以下の意味を表しています。</p> <p> 登録用フロッピーディスクがまだ作成されていません。</p> <p> 登録用フロッピーディスクが作成済みです。</p> <p> すでにコンピュータの登録が完了している可能性があります。</p>
OS	クライアントコンピュータの OS が表示されます。
IP アドレス	<p>クライアントコンピュータの IP アドレスが表示されます。</p> <p>「手動設定」の場合、IP アドレスをコントロールパネルで手動で設定します。</p> <p>「DHCP」の場合、IP アドレスを DHCP サーバが自動的に設定します。</p>
登録済みのコンピュータも表示する	チェックすると、すでに登録用フロッピーディスクを作成したコンピュータもすべて表示されます。

3) [OK] をクリックします。

クライアント情報ファイルの作成ダイアログが表示されます。

4) フロッピーディスクをセットし、[OK] をクリックします。

クライアント情報ファイルが作成され、フロッピーディスクに登録されます。登録が終了すると WizardConsole 画面に戻ります。

Point

初期化されていないフロッピーディスクの場合は [初期化する] をクリックし、フロッピーディスクを初期化します。ただし、初期化を実行しても不良セクタがある場合は、そのフロッピーディスクは使用しないでください。

5) 作成したフロッピーディスクを使用して、クライアントコンピュータの登録を行います。

「第 5 章 ClientWizard」を参照してください。

4.5 サーバ情報ファイルの作成

WizardConsole で追加、変更したサーバ情報ファイルをフロッピーディスク、またはハードディスクに保存します。

サーバ情報ファイルは、別のサーバ構築時に使用できます。

Note

パスワード、サーバの IP アドレス、添付アプリケーションの設定等、運用中に更新・変更されたサーバの情報は、サーバ情報ファイルに保存されません。そのため、システムのバックアップには使用できません。

システムのバックアップは、専用のソフトウェアを使用して定期的に行ってください。

- 1) [サーバ情報ファイルの作成] を選択します。
ファイル名を付けて保存画面が表示されます。
- 2) サーバ情報ファイルの保存先を指定し、MS-DOS のファイル名の規約に従ってファイル名を入力します。拡張子は".SPD"です。
- 3) [保存] をクリックします。
サーバ情報ファイルが作成され、WizardConsole 画面に戻ります。

Note

- ・ WizardConsole で作成したサーバ情報ファイルは、ServerWizard のセットアップ（読み込み）では使用できません。必ず DesignMagic を起動し、「ファイル」メニューの「開く」で、作成したサーバ情報ファイルの内容を確認し、適切に修正して保存しなおしてご使用ください。
- ・ Windows NT および ServerWizard で予約されているグループ（Domain Admins、Domain Guests、Domain Users）、ユーザ（Administrator、Guest、SWClientSetupUser）、共有資源（SVWIZARD）の設定を変更した場合、サーバを再インストールしても設定は変更されません。再インストール後、WizardConsole で設定しなおしてください。

4.6 プリンタの追加

システムにプリンタを追加します。

- 1) [プリンタの追加] を選択します。
Windows 標準のプリンタの追加ウィザード画面が表示されます。
- 2) 画面に従って必要な項目を設定します。
プリンタが追加されます。

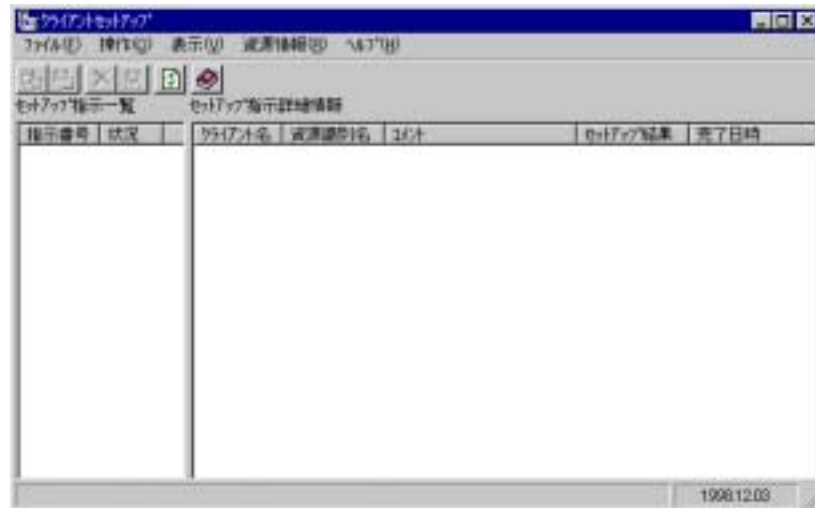
4.7 クライアントセットアップ

クライアントにインストールする資源の設定、状況確認を行います。

サーバでクライアントセットアップ関連の機能が動作中の場合、クライアントセットアップサービス（Client Setup Server）を停止しないでください。
資源の取り込み処理中にサービスを停止した場合、ハードディスク上に処理中の資源が残ることがあります。

4.7.1 クライアントセットアップ情報の設定

- 1) [クライアントセットアップ]を選択します。
クライアントセットアップ画面が表示されます。







クライアントセットアップ画面のツールバー



クライアントセットアップ画面の説明

項目	説明
セットアップ指示一覧	セットアップの状況が表示されます。
指示番号	セットアップ単位で自動的に採番された指示番号が表示されます。指示番号の先頭に表示されるアイコンは以下の状態を表しています。 <input type="checkbox"/> 指示が未完了である。 <input checked="" type="checkbox"/> 指示は完了している。
状況	セットアップの状況が表示されます。セットアップの実行が、完了している場合は「完了」、完了していない場合は「未完了」と表示されます。

(続く)

項目	説明
セットアップ指示詳細情報	クライアントに対するセットアップの状況が表示されます。
クライアント名	セットアップ先のクライアント名が表示されます。クライアント名の先頭に表示されるアイコンは以下の状態を表しています。  セットアップの実行が完了しています。  セットアップの実行が完了していません。  セットアップの実行中です。  セットアップの実行が異常終了しています。
資源識別名	セットアップ資源の識別名が表示されます。
コメント	セットアップ指示における任意の付加情報が表示されます。
セットアップ結果	各クライアントへのセットアップの状況が表示されます。 完了：セットアップの実行が完了しています。 未完了：セットアップの実行が完了していません。 実施中：セットアップの実行中です。 異常：セットアップの実行が異常終了しています。
完了日時	セットアップの実施の完了日が表示されます。

クライアントセットアップ画面のメニュー

項目	説明
[ファイル] メニュー	
終了	クライアントセットアップを終了します。
[操作メニュー]	
セットアップ資源の取り込み	クライアントにインストールする資源を取り込みます。
セットアップ資源の削除	セットアップ資源を削除します。
セットアップ指示の削除	セットアップ指示を削除します。
セットアップ指示の追加	セットアップ資源を、どのクライアントにインストールするかを指示を追加します。
[表示] メニュー	
ツールバー	ツールバーの表示、非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示、非表示を切り替えます。
最新の情報に更新	表示中のデータを、最新の情報で表示します。
[資源情報] メニュー	
セットアップ資源情報の設定	セットアップ資源情報の追加、変更、削除を行います。

4.7.2 セットアップ資源の編集操作

セットアップ資源の取り込み

- 1) ツールバーの[セットアップ資源の取り込み]アイコンをクリックするか、「操作」メニューから「セットアップ資源の取り込み」を選択します。
セットアップ資源の取り込み画面が表示されます。



- 2) 取り込み方法を指定します。

項目	説明
すべての資源を取り込む	セットアップ資源情報一覧に表示されているセットアップ資源を、一度にすべて取り込みます。
一覧から選択して取り込む	セットアップ資源情報一覧に表示されているセットアップ資源を選択して取り込みます。

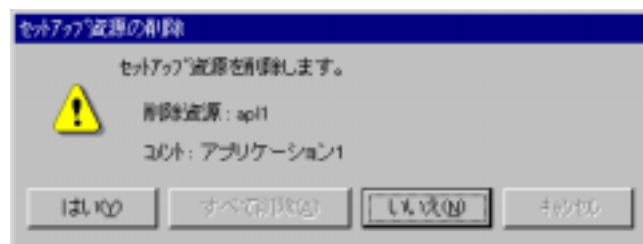
- 3) [取り込み]をクリックします。
クライアントにセットアップする資源の取り込み画面が表示されます。
- 4) [取り込み開始]をクリックします。
セットアップ資源の取り込みが開始されます。
セットアップ資源の取り込みが終了すると、クライアントセットアップ画面に戻ります。

セットアップ資源の削除

- 1) ツールバーの[セットアップ資源の削除]アイコンをクリックするか、「操作」メニューから「セットアップ資源の削除」を選択します。
セットアップ資源の削除画面が表示されます。



- 2) 削除する資源識別名を選択し、[削除]をクリックします。
確認の画面が表示されます。



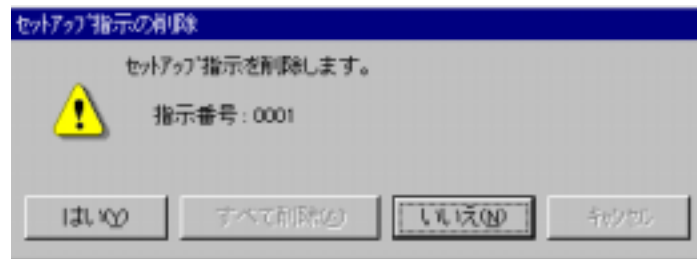
- 3) [はい]をクリックします。
資源が削除され、セットアップ資源の削除画面に戻ります。
続けてセットアップ資源を削除できます。
- 4) [キャンセル]をクリックします。
クライアントセットアップ画面に戻ります。

4.7.3 セットアップ指示の編集操作

セットアップ指示を削除する

- 1) セットアップ指示一覧の指示番号から、削除する番号を選択します。
- 2) ツールバーの[セットアップ指示の削除]アイコンをクリックするか、「操作」メニューから「セットアップ指示の削除」を選択します。

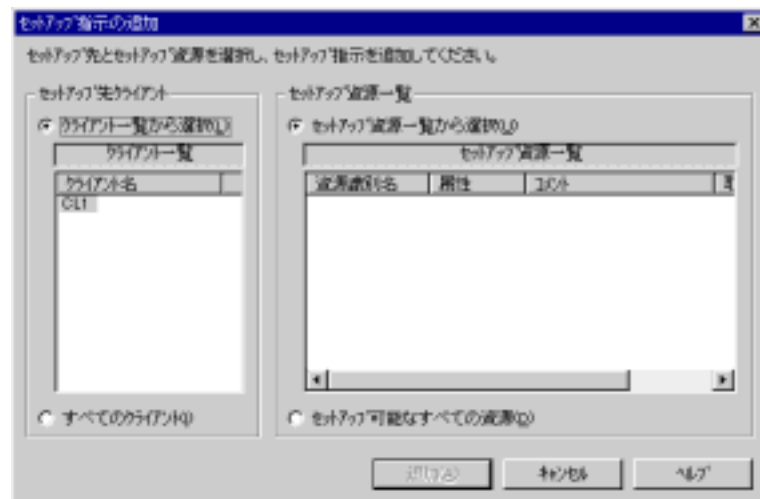
確認の画面が表示されます。



- 3) [はい]をクリックします。
セットアップ指示が削除され、クライアントセットアップ画面に戻ります。

セットアップ指示を追加する

- 1) ツールバーの[セットアップ指示の追加]アイコンをクリックするか、「操作」メニューから「セットアップ指示の追加」を選択します。
セットアップ指示の追加画面が表示されます。



- 2) セットアップ先クライアントを指定します。
クライアント一覧から選択を指定した場合は、表示されているクライアント一覧から、セットアップ先のクライアントを選択してください。
複数のクライアントを選択できます。
- 3) セットアップする資源を選択します。
セットアップ資源一覧から選択を指定した場合は、表示されているセットアップ資源一覧から、セットアップする資源を選択します。
複数の資源を選択できます。
- 4) [追加]をクリックします。
セットアップ情報が登録され、メッセージが表示されます。
- 5) [OK]をクリックします。
クライアントセットアップ画面に戻ります。

4.7.4 セットアップ資源情報の設定

- 1) 「資源情報」メニューから「セットアップ資源情報の設定」を選択します。
セットアップ資源情報の設定画面が表示されます。



操作については、「2.5 クライアントセットアップ」と同様です。

4.7.5 クライアントセットアップの終了

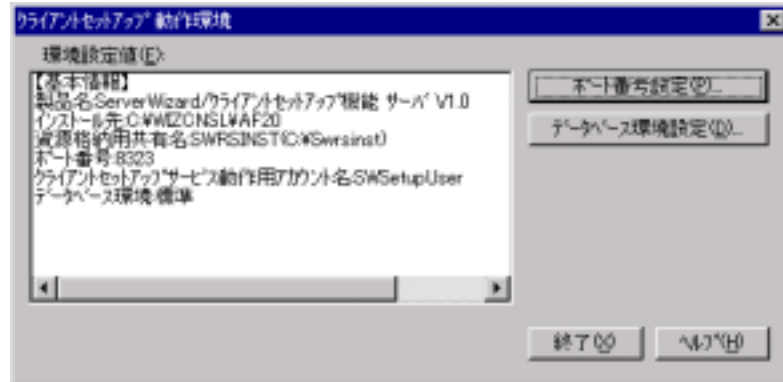
クライアントセットアップを終了する

- 1) 「ファイル」メニューから「終了」を選択します。
WizardConsole 画面に戻ります。

4.8 クライアントセットアップ動作環境

クライアントセットアップ機能の動作環境を設定します。

- 1) [クライアントセットアップ動作環境] を選択します。クライアントセットアップ動作環境画面が表示されます。



- 2) 環境を設定します。

ポート番号の設定

[ポート番号設定] をクリックします。

ポート番号設定画面が表示されます。



使用するポート番号を 1 ～ 65535 の範囲内で指定します。通常、ポート番号を変更する必要はありません。

変更を行った場合は、各クライアントのクライアントセットアップの動作環境でサーバで変更したものと同一のポート番号を設定する必要があります。また、変更を行った場合は、「コントロールパネル」の「サービス」で「Client Setup Server」サービスの再起動を行うか、システムを再起動してください。

[OK] をクリックします。

データベース種別の設定

[データベース環境設定] をクリックします。

データベース環境設定画面が表示されます。



使用するデータベース種別を選択します。ただし、当バージョンでサポートするデータベースは「標準（CSV 形式）」のみです。

[初期化] ボタンをクリックすると、データベース種別で指定されているデータを、クライアントセットアップサーバが使用できるように初期化します。

[終了] をクリックします。

- 3) [終了] をクリックします。

WizardConsole 画面に戻ります。

4.9 デスクトップ環境設定

クライアントのデスクトップ環境を設定します。

- 1) [デスクトップ環境設定] を選択します。

デスクトップ環境設定画面が表示されます。

操作については「2.6 デスクトップ環境設定」を参照してください。

4.10 WizardConsole のアンインストール

WizardConsole 機能を削除する場合は、「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」で行ってください。

Note

WizardConsole のアンインストールを行う前に、起動しているすべてのプログラムを終了させてください。

- 1) コントロールパネルから「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。
- 2) 「ServerWizard WizardConsole」を選択し、[追加と削除] をクリックします。
アンインストールするコンポーネントの選択画面が表示されます。



- 3) アンインストールするコンポーネントを選択し、[次へ] をクリックします。
 なお、基本部（必須コンポーネント）のみを削除することはできません。
 アンインストールの確認画面が表示されます。

- 4) [次へ] をクリックします。
 選択した機能のアンインストールが行われ、以下の画面が表示されます。



- 5) コンピュータを再起動するかを選択し、[終了] をクリックします。

Note

「いいえ、後でコンピュータを再起動します。」を選択した場合は、手動で再起動してください。

第 5 章 ClientWizard

～ クライアントをセットアップする ～

ClientWizard では、各クライアントコンピュータのセットアップを行います。

ClientWizard を使うために必要な環境

- ・ Windows 95/98 または、Windows NT WS 4.0 が動作する環境
- ・ ネットワーク環境
- ・ WizardConsole で作成したクライアント導入フロッピー

5.1 セットアップ前の準備

ClientWizard を行う前に、次の準備が必要です。

5.1.1 サーバ側の準備

クライアントコンピュータの情報を登録する

クライアントコンピュータの情報を登録するには次の 2 つの方法があります。

- ・ DesignMagic の「クライアントシステム設計」で行う。
- ・ WizardConsole の「コンピュータの追加」を行い、「クライアント情報の追加 / 変更」でクライアント情報を設定する。

すでに ServerWizard でサーバのセットアップ、インストールが完了している場合は、WizardConsole で操作を行ってください。

クライアントへセットアップする資源の取り込み

DesignMagic のクライアントセットアップで定義したアプリケーションやファイルなどの資源をクライアントにインストールするには、サーバ上にアプリケーションやファイルを取り込んでおく必要があります。サーバ上にこれらの資源を取り込むには、WizardConsole の「クライアントセットアップ」で「セットアップ資源の取り込み」を行ってください。詳しくは「4.7.2 セットアップ資源の編集操作」を参照してください。

クライアント導入フロッピーを作成する

ClientWizard でセットアップを行うには、セットアップを行うクライアントコンピュータの情報が登録されたクライアント導入フロッピーが必要です。クライアント導入フロッピーは、WizardConsole の「クライアント導入フロッピーの作成」で作成します。詳しくは「4.4 クライアント導入フロッピーの作成」を参照してください。

5.1.2 クライアント側の準備

OS のインストール

使用する OS がまだインストールされていない場合は、あらかじめ使用する OS をインストールしておいてください。

ネットワーク環境の設定

- ・ LAN カードを装着し、LAN ドライバをインストールします。
LAN カードの装着方法、LAN ドライバのインストール方法については、それぞれ添付のマニュアルを参照してください。
- ・ 「コントロールパネル」の [ネットワーク] で、Microsoft ネットワーククライアントサービスをインストール、セットアップしておきます。
- ・ クライアントコンピュータに複数の LAN カードが装着されていた場合、サーバに正常に接続できない場合があります。1 つの LAN カードのみに変更してください。

TCP/IP プロトコルの設定

あらかじめセットアップを行うクライアントコンピュータにおいて、TCP/IP プロトコルを設定しておいてください。

IP アドレスの種別を「手動」に設定する場合も、「DHCP」に設定する場合も、TCP/IP を設定しておく必要があります。ただし、「DHCP」に設定した場合は、自動的に IP アドレスの種別が DHCP に設定しなおされます。

5.1.3 ネットワーク環境の準備

LAN ケーブルを接続し、サーバと接続できる状態にしておきます。

接続方法など、詳しくはご使用の各装置に添付のマニュアルを参照してください。

5.2 クライアントコンピュータのセットアップ

ClientWizard を起動する前に、起動中のアプリケーションをすべて終了しておいてください。
Windows NT WS 4.0 を使用している場合は、管理者アカウントでログオンしてください。

- 1) セットアップを行うクライアントコンピュータに、クライアント導入フロッピーを挿入します。フロッピーディスクは、書き込み可能な状態にしておいてください。
- 2) エクスプローラなどでフロッピーディスクドライブをクリックします。



- 3) [CWizard] をダブルクリックします。
ClientWizard が起動します。



- 4) [クライアントの登録] をクリックします。
コンピュータ選択画面が表示されます。

接続するサーバ情報が表示されます。
サーバ名、IP アドレス、ドメイン名は変更できません。

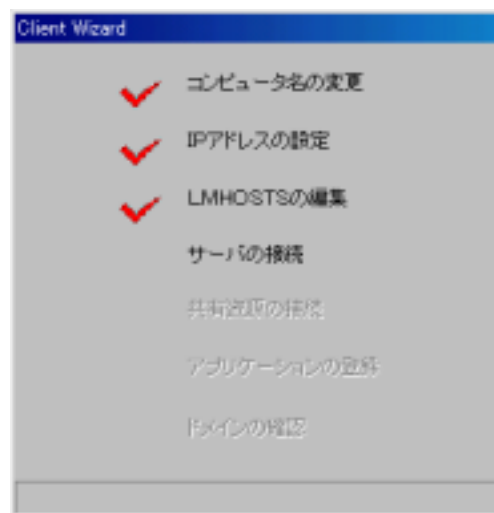
- 5) セットアップするコンピュータを選択します。

項目	説明
コンピュータの選択	[] をクリックし、コンピュータ名の一覧からセットアップするコンピュータ名を選択します。ご使用のコンピュータと同じ OS が設定されているコンピュータ名のみ表示されます。
IP アドレス	IP アドレスの種別が表示されます。変更はできません。

- 6) [次へ]をクリックします。
設定の確認画面が表示されます。



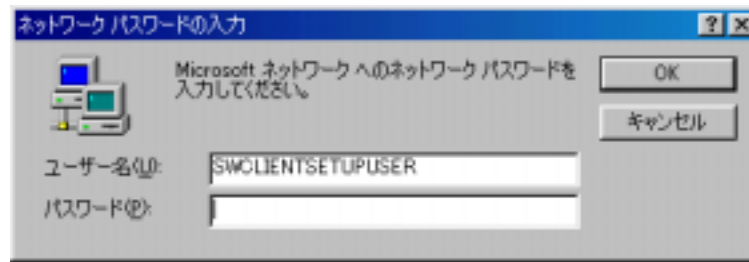
- 7) [実行]をクリックします。
セットアップが開始されます。



セットアップが終了した項目にはチェックマークが付きます。

- 8) LMHOSTS の編集が終了すると、再起動のメッセージが表示される場合があります。
その場合は、フロッピーディスクを取り出して [OK] をクリックします。
再起動され、ログオン画面が表示されます。

9) Windows 95 / 98 の場合



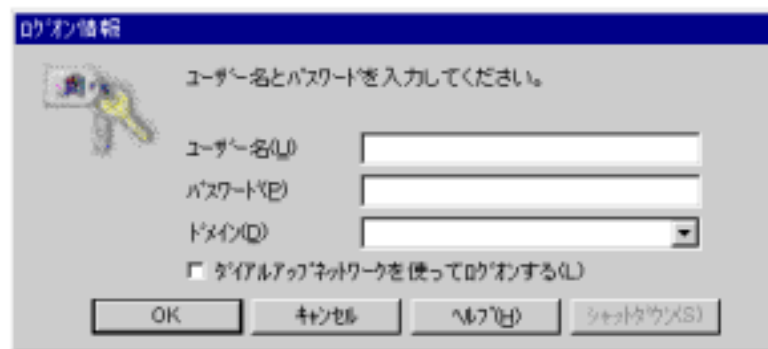
ユーザ名はデフォルトで表示されます。

ユーザ名を変更せず、パスワードを入力しないで [OK] をクリックします。

Point

はじめてサーバにログオンする場合、パスワードの確認画面が表示されますが、何も入力せずに [OK] をクリックしてください。

Windows NT の場合



管理者アカウントでログオンしてください。

以前に別のドメインに参加していた場合、そのドメイン名が表示されますが、「ドメイン」には、ご使用のドメイン名を入力してください。

引き続きセットアップの処理が行われます。

10) アプリケーションの登録が終了すると、途中再起動を行っていた場合は次の画面が表示されます。

フロッピーディスクを再度挿入して [OK] をクリックします。



11) Windows 95 / 98 の場合

セットアップが終了すると、システムが再起動されます。

フロッピーディスクを取り出して [OK] をクリックします。

Windows NT の場合

ドメインを変更する必要があります。変更要求の画面が表示されたら [OK] をクリックします。ネットワークパネルが表示されますのでドメイン名を指定どおり変更し、再起動してください。

再起動後、ログオン画面が表示されます。



- 12) 実際にログオンするユーザ名、パスワードを入力して [OK] をクリックします。パスワードの確認画面 (変更) が表示されます。

Point

ユーザ名とパスワードはサーバの管理者に確認しておいてください。

- 13) パスワード、パスワード確認にパスワードを入力して [OK] をクリックします。ログオン画面が表示されます。

- 14) パスワードを入力して [OK] をクリックします。

OS の起動画面が表示されます。

クライアントセットアップの設定が行われていた場合は、サーバで設定したセットアップ指示に従い、アプリケーションやファイルがインストールされます。

Note

クライアントセットアップによるクライアントへの資源自動インストールは、ClientWizard 起動後の初回ログオン時に一度だけ行われます。ただし、この時にセットアップ指示がない場合は、セットアップ指示が設定された後の最初のログオン時に一度だけ行われます。

自動インストール終了後、サーバ側でセットアップ指示の追加などを行った場合は、「スタート」の「プログラム」 - [ServerWizard_クライアントセットアップ機能] - [クライアントセットアップ インストールコマンド] を起動してください。これにより、クライアントへのインストールを開始できます。

Point

一度セットアップしたコンピュータ名は、クライアント導入フロッピーから削除されます。セットアップ後のクライアントコンピュータにおいて、OS を再インストールし、前回のセットアップ時と同じコンピュータ名でセットアップを行う場合は、WizardConsole で一度コンピュータ名を削除してください。その後、新しくコンピュータを追加し、クライアント導入フロッピーを作成し、セットアップを行ってください。

Windows 95 / 98 でデスクトップ設計を使用する場合は、自動的にユーザプロファイルを有効とする環境に設定されます。ユーザプロファイルが有効になると、それぞれのユーザが独自のデスクトップ環境を保持できるようになります。

この設定は、「コントロールパネル」の「パスワード」画面の「ユーザ別の設定」タブで確認することができます。

5.3 ClientWizard のアンインストール

ClientWizard 機能を削除する場合は、「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」で行ってください。

Note

ClientWizard のアンインストールを行う前に、起動しているすべてのプログラムを終了させてください。

- 1) コントロールパネルから「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。
- 2) 「ServerWizard (XXXX クライアント)」() を選択し、[追加と削除] をクリックします。
() Windows NT クライアントの場合 : 「ServerWizard (NT クライアント)」
Windows 95 / 98 クライアントの場合 : 「ServerWizard (95 / 98 クライアント)」
アンインストールするコンポーネントの選択画面が表示されます。



- 3) アンインストールするコンポーネントを選択し、[次へ] をクリックします。
なお、基本部 (必須コンポーネント) のみを削除することはできません。
アンインストールの確認画面が表示されます。
- 4) [次へ] をクリックします。
選択した機能のアンインストールが行われ、次の画面が表示されます。



5) コンピュータを再起動するかを選択し、[終了] をクリックします。



「いいえ、後でコンピュータを再起動します。」を選択した場合は、手動で再起動してください。

付録

付録 A こんなときは (Q&A)

Q. モデムを追加するには?

A. 次の手順で追加してください。

- 1) Windows NT を起動し、管理者権限を持ったユーザアカウントでログオンします。
- 2) 「スタート」-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 3) [モデム] アイコンをダブルクリックします。
新しいモデムのインストール画面が表示されます。
- 4) 「モデムを一覧から選択するので検出しない」をチェックし、[次へ]をクリックします。
- 5) 「製造元」からモデムメーカーを、「モデル」から該当するモデムを選択し、[次へ]をクリックします。

Point

モデムにデバイスドライバが添付されている場合は、A ドライブに挿入して「ディスク使用」をクリックし、該当するモデムを選択します。また、一覧表にモデム名が表示されず、モデムにもドライバが添付されていない場合は、「Windows NT Server Version 4.0 Disc1」を CD-ROM ドライブにセットして、該当するモデムを選択します。

- 6) 「選択したポート」をクリックし、表示されている [COMn] をクリックして [次へ] をクリックします。
- 7) 所在地の設定を行い、[次へ] をクリックします。

項目	説明
国名	現在パソコンを使用している国を入力します (例: 日本)。
市外局番	現在パソコンを使用している場所の市外局番を入力します (例: 03)。
外線発信番号	内線を使用している場合、外線にかけるときに必要な番号を入力します (例: 0)。
ダイヤル方法	電話の契約がプッシュ回線の場合は「トーン」、ダイヤル回線の場合は「パルス」を選択します。

- 8) [完了]をクリックします。
- 9) [閉じる]をクリックします。

Q. プリンタを追加するには?

A. 次の手順で追加してください。

- 1) 「スタート」-「設定」-「プリンタ」をクリックします。
- 2) [プリンタの追加]アイコンをダブルクリックします。
プリンタの追加ウィザード画面が表示されます。
- 3) 「このコンピュータ」を選択して、[次へ]をクリックします。
- 4) 「利用可能なポート」を選択して、「LPT:1」をチェックして、[次へ]をクリックします(通常はLPT1ですが、使用プリンタによっては別のポートを選択します)。
- 5) 「製造元」からプリンタメーカーを、「プリンタ」から該当するプリンタを選択して、[次へ]をクリックします。

Point

プリンタにデバイスドライバが添付されている場合はAドライブにフロッピーを挿入して「ディスク使用」をクリックし、該当するプリンタを選択します。また、一覧表にもプリンタ名が表示されず、プリンタにもドライバが添付されていない場合は、「WindowsNT Server Version 4.0 Disc1」をCD-ROMドライブに挿入して、該当するプリンタを選択します。

- 6) 「プリンタ」でプリンタ名を入力し、[次へ]をクリックします。
すでに他のプリンタドライバがインストールされている場合は、Windowsアプリケーションで選択したプリンタを通常使うかどうかを選択し、[次へ]をクリックします。
- 7) プリンタを共有しない場合は「共有しない」を、共有する場合は「共有する」を選択してから「共有名」を付けて[次へ]をクリックします。
- 8) テストページを印刷するかどうかを指定して、[完了]をクリックします。

FMLBP シリーズ、FMPR シリーズをお使いの場合

デバイスフォントの白色を使用した場合、印刷結果が画面と異なることがあります。白色で印刷する場合は、デバイスフォント以外で印刷してください。

FMLBP225PS、FMLBP211PS をお使いの場合

- ・ドキュメント画面ボックス - [ドキュメントのオプション] の [プリンタの機能] の [標準に戻す] ボタンをクリックしても、変更前の設定状態には戻りません。
- ・ドキュメント画面ボックス - [ハーフトーンカラーの調整] で「明るさ」や「コントラスト」などを調整しても、印刷には反映されません。
- ・用紙の種類で「A4 横」のような「××横」の用紙では正しく印刷できません。
このようなデータを印刷する場合は、用紙の種類で「A4」印刷の向きを「横」に指定して印刷してください。

富士通プリンタ増設カードに FUJITSU Printia XL シリーズプリンタおよび他社プリンタを接続する場合

富士通プリンタ増設カードに FUJITSU Printia XL シリーズプリンタおよび他社プリンタを接続する場合は、REGEDT32.EXE コマンドを使って、レジストリの以下のキーの値を変更し、システムを再起動してください(この例ではプリンタが接続されているポートが"LPT4"とします)。

キー：¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥PARALLEL SETUP INFO¥LPT4

値：Escp：REG_BINARY：01 00 00 00

ここを 00 から 01 に変更

任意の用紙サイズを設定する場合

富士通 FM シリーズ用シリアルプリンタでフォームを使用する場合、使用できるフォームのサイズはそれぞれのドライバによって以下の範囲となっています。この範囲外のものはありません。

用紙サイズの設定

プリンタの [ファイル] メニューから [サーバのプロパティ] をクリックし、[用紙] タブの [新しい用紙を作成する] をチェックして作成します。任意の用紙サイズを設定できます。

詳細については、Windows NT のマニュアルおよびオンラインヘルプを参照してください。

幅：50～345.4mm (1.79～13.6 インチ) 高さ：50～420.0mm (1.79～16.5 インチ) のドライバ
[136 桁プリンタ]

"FUJITSU FMPR 180"

"FUJITSU FMPR 180 (Color) "

"FUJITSU FMPR -353G2"

"FUJITSU FMPR -353A2"

"FUJITSU FMPR -361"

"FUJITSU FMPR -372"

"FUJITSU FMPR -671"

"FUJITSU FMPR -654"

"FUJITSU FMPR -359F1"

"FUJITSU FMPR -455"

"FUJITSU FMPR -456"

"FUJITSU FMPR -371A"

"FUJITSU FMPR -374"

"FUJITSU FMPR -366 (Monochrome) "

"FUJITSU FMPR -373 (Color) "
"FUJITSU FMPR -366 (Color) "
"FUJITSU FMLP -351"
"FUJITSU FMPR -373 (Monochrome) "
"FUJITSU FMPR -672"

幅：50～203.2mm (1.79～8 インチ) 高さ：50～420.0mm (1.79～16.5 インチ) のドライバ
[80 桁プリンタ]

"FUJITSU FMPR -302G2"
"FUJITSU FMPR -302A2"
"FUJITSU FMPR -204B"
"FUJITSU FMPR -204W"
"FUJITSU FMPR -101W"
"FUJITSU FMPR -101B"
"FUJITSU FMPR -102G"
"FUJITSU FMPR -601"
"FUJITSU FMPR -303G"
"FUJITSU FMJP -101G"
"FUJITSU FMPR -221G"

幅：50～420.0mm (1.79～16.5 インチ) 高さ：50～420.0mm (1.79～16.5 インチ) のドライバ
"FUJITSU FMPR -360"
"FUJITSU FMPR -360 (Color) "
"FUJITSU FMJP -211"

幅：25.4～345.4mm (1～13.6 インチ) 高さ：25.4～558.8mm (1～22 インチ) のドライバ
[ESC/P シーケンス]
"FUJITSU ESC/P"
"FUJITSU FMPR -375E"
"FUJITSU FMPR -371E"
"FUJITSU FMP -PR121G"

Q . 区画(パーティション)はどのように作成されますか?

A.区画(パーティション)の作成方法には、手動 / 自動の 2 種類の方法があり、次のように作成されます。

手動設定の場合

実際のサーバに接続されているハードディスクの容量が指定した容量より大きい場合は、指定した容量でシステム区画とアプリケーション区画が作成されます。残りの領域は未使用領域となります。

実際のサーバに接続されているハードディスクの容量が、指定した容量より小さい場合は、指定された容量でシステム区画を作成した後、残りをアプリケーション区画として作成します。ただし、指定した容量でシステム区画が作成できた場合は、残りがアプリケーション区画となります。また、残り未使用領域が 1GB 未満の場合、アプリケーション区画は作成されません。

自動設定の場合

実際のサーバに接続されているハードディスクの容量によって、作成される区画の容量が異なります。

実際のサーバに接続されているハードディスクの容量が 4096MB より小さい場合は、全領域がシステム区画となり、アプリケーション区画は作成されません。

実際のサーバに接続されているハードディスクの容量が 4096MB より大きい場合は、4096MB のシステム区画を作成し、残りがアプリケーション区画となります。ただし、残り未使用領域が 1GB 未満の場合、アプリケーション区画は作成されません。

Note

- ・実際には、区画を管理するための領域があるため、指定された容量より若干少なくなることがあります。
- ・8GB よりも容量の大きなハードディスクを接続している場合でも、BIOS のジオメトリ変換によって、8GB より若干少ない領域の区画が作成されます。

Q . RAID を構築するときの注意点は？

A. 次の点に留意してください。

ハード構成

- ・ サポートする SCSI アレイコントローラカード枚数 1 枚
- ・ SCSI アレイコントローラカードとして使用できる条件
本体マニュアルに記述してある所定のスロット位置に装着されていること
- ・ ハードディスクの条件
 - (1) 本体内蔵のみ
 - (2) 必ず同形式および同容量のハードディスクを使用すること
 - (3) RAID レベルにより設定できる台数は以下のとおりです。

RAID レベル 0	- 2 ~ 8 台
RAID レベル 1	- 2 台
RAID レベル 5 (推奨)	- 3 ~ 8 台
RAID レベル 6	- 3 ~ 8 台

ただし、本体の最大搭載数を超過して設定しないでください。
本体の最大搭載数は本体マニュアルを参照してください。
 - (4) ホットスワップ (スタンバイディスク)
なし / あり (1 台まで、RAID レベル 0 を除く)

Note

ホットスワップを「あり」に指定した場合は、実際に搭載するハードディスク台数は上記 (3) の設定台数 + 1 台としてください。

アレイ構成

- ・ フィジカルバック数 1
- ・ システムドライブ数 1
- ・ 最大システムドライブ容量 1 TB
- ・ ハードディスクのバック順

ハードディスクに設定された SCSI ID の小さい順で Channel 0 と Channel 1 を 交互にバックする。(2 チャンネルの場合)

例 (2 チャンネルの場合)

バック A-1 Channel 0 SCSI ID 0
バック A-2 Channel 1 SCSI ID 0
バック A-3 Channel 0 SCSI ID 1
バック A-4 Channel 1 SCSI ID 1
バック A-5 Channel 0 SCSI ID 2

ホットスワップを指定した場合は、ホットスワップのハードディスクは一番小さいチャンネル番号で SCSI ID が最小のハードディスクとなります。

(通常は Channel 0 で SCSI ID 0 のハードディスク)

ディスク台数

- ・ 設定した台数（ホットスペアありの場合は+1台）より実際に装着されている台数が少ない場合
ServerWizard はエラーとなり、セットアップは中断されます。
- ・ 設定した台数（ホットスペアありの場合は+1台）より実際に装着されている台数が多い場合
設定どおりになり、余ったディスクはスタンバイディスクとなります。また、後からフィジカルバックを追加することもできます。詳しくは SCSI アレイコントローラカードに添付の取扱説明書を参照してください。

Q . スーパーフロッピー形式の光磁気ディスクは使用できますか？

A. 以下の方法でフォーマットしてください。

SCSI カードなどに添付されているフォーマッタを使用して、光磁気ディスクをスーパーフロッピー形式でフォーマットした場合、Windows NT で認識できないことがあります。

光磁気ディスクをスーパーフロッピー形式でフォーマットする場合には、光磁気ディスクユニット添付のデバイスドライバ内の「MO フォーマッタ」を使用してください。

詳しくは、光磁気ディスクユニットのマニュアルを参照してください。

付録 B クライアントセットアップ機能について

B-1 クライアントセットアップ機能とは

クライアントセットアップ機能は、サーバ上に取り込まれたアプリケーションやファイルなどの資源を、複数のクライアントコンピュータに自動的にインストールする機能です。

クライアントセットアップ機能を利用するには、「1.6.1 クライアントセットアップの使用条件」を参照して設定を行い、以下の流れで操作を行います。

1. セットアップ情報を定義する

DesignMagic の「クライアントセットアップ」、または WizardConsole の「クライアントセットアップ」画面の「セットアップ資源情報の設定」から、クライアントコンピュータにインストールする資源の情報を設定します。

2. サーバに資源を取り込む

WizardConsole の「クライアントセットアップ」で、DesignMagic で定義したセットアップ資源をサーバに取り込みます。

3. クライアントコンピュータをセットアップする

クライアント導入フロッピーを使用して ClientWizard で、クライアントコンピュータをセットアップします。

4. クライアントコンピュータに資源をインストールする

クライアントコンピュータの次回ログオン時に、自動的にサーバに取り込まれている資源がクライアントコンピュータにインストールされます。

B-2 クライアントに資源をインストールするための設計

クライアントに各種資源をインストールするには、セットアップ情報の設計を行う必要があります。セットアップ情報の設計は、DesignMagic の「クライアントセットアップ」、または WizardConsole の「クライアントセットアップ」画面の「セットアップ情報の設定」で行います。

資源の種類

クライアントには次の3種類の資源がインストールできます。

アプリケーション

アプリケーションソフト（複数のファイルで構成された、SETUP コマンドなどのインストーラが使われるもの）をインストールします。アプリケーションでは、スクリプトを同時にインストールすることができます。これにより、自動インストールできない対話型のアプリケーションも、スクリプトを使用することで自動インストールが可能になります。スクリプトはアプリケーションごとに別途作成してください。なお、スクリプトの作成については「B-4 留意事項」の「アプリケーションインストール用のスクリプト作成時の注意事項」を参照してください。

ファイル

SETUP コマンドを使わず、ファイルをコピーすることでインストールします。ディレクトリを指定することで、複数のファイルを一度にコピーできます。

実行コマンド

クライアント側でコマンドを実行します。実際にクライアントへファイルのコピーは行われず、コマンドの実行のみを行います。

B-3 クライアントコンピュータの追加 / 変更時

クライアントセットアップ機能で定義された資源は、DesignMagic または WizardConsole で指定したクライアントコンピュータに対してインストールされます。

WizardConsole の「コンピュータの追加 / 変更」を行った場合は、次の操作を行う必要があります。それぞれの操作について、詳細は「4.7 クライアントセットアップ」を参照してください。

コンピュータの追加時

WizardConsole の「コンピュータの追加 / 変更」でコンピュータの追加を行い、追加したクライアントコンピュータに対してセットアップ資源のインストールを行う場合は、WizardConsole の「クライアントセットアップ」から、「セットアップ指示の追加」を行ってください。

コンピュータの削除時

WizardConsole の「コンピュータの追加 / 変更」でコンピュータの削除を行い、削除したクライアントにインストール未完了資源がある場合は、WizardConsole の「クライアントセットアップ」から「セットアップ指示の削除」を行ってください。

Note

セットアップ指示には、複数のコンピュータへのセットアップ指示が登録されている場合があります。セットアップ指示の削除を行う場合は、削除対象外コンピュータへのセットアップがすべて完了してからセットアップ指示の削除を行ってください。

B-4 留意事項

同時にインストールできる台数

クライアントセットアップで、同時にインストールできるクライアントコンピュータの台数は15台です。

15台以上インストールする場合は、一度にインストールするクライアント台数を15台単位で行ってください。15台以上の同時インストールを行った場合、タイムアウトのエラーが表示される場合があります。その場合は、次の「クライアントコンピュータへのインストールする失敗時の対応」を参照してください。

クライアントコンピュータへのインストール失敗時の対応

クライアントコンピュータへのインストール中にタイムアウトが発生した場合

サーバのサービスで"Client Setup Server"が開始されているか確認してください。

"Client Setup Server"が開始されている場合、サーバの「クライアントセットアップ」を起動し、セットアップ指示詳細情報で対象クライアントコンピュータのセットアップ結果を確認してください。

セットアップ結果が異常の場合は、「セットアップ指示の追加」から対象資源とクライアント名を指定して、指示の追加を行ってください。

セットアップ結果が未完了の場合は、しばらく待ってからクライアントコンピュータで再度ログオン処理を行うか、「スタート」 - 「プログラム」から「ServerWizard_クライアントセットアップ機能」 - 「クライアントセットアップ インストールコマンド」を実行してください。

クライアントコンピュータへのインストール中にタイムアウト以外のエラーが発生した場合

サーバの「クライアントセットアップ」を起動し、セットアップ指示詳細情報で対象クライアントコンピュータのセットアップ結果を確認してください。

セットアップ結果が異常の場合は、「セットアップ指示の追加」から対象資源とクライアント名を指定して、指示の追加を行ってください。

セットアップ結果が実施中、または未完了の場合は、しばらく待ってからクライアントコンピュータで再度ログオン処理を行うか、「スタート」 - 「プログラム」から「ServerWizard_クライアントセットアップ機能」 - 「クライアントセットアップ インストールコマンド」を実行してください。

クライアントセットアップ機能でインストールしたアプリケーションの削除

クライアントセットアップ機能でインストールしたアプリケーションを削除する際、「コントロールパネル」から「アプリケーションの追加と削除」で行うとエラーになる場合があります。この場合は、アプリケーションが表示するメッセージに従ってアンインストールを行ってください。

クライアントセットアップ機能サーバインストーラのエラーについて

クライアントセットアップ機能サーバインストーラが出力するエラーメッセージログファイル (swumsgsv.log) に以下のメッセージが出力されていた場合、サーバのインストールに関しては正常に終了していますので、それぞれの対応を行ってください。

メッセージ

SWSV-0019 クライアント用環境定義ファイルが作成できません。

対処方法

サーバ上で、メモ帳などのテキスト文書編集ツールを起動し、以下のテキストを入力して、C:\¥Svwizard¥Setup¥Ntserver¥Disk1 にファイル名を "afrcsclnt.inf" として保存してください。

[Server] PortNum=8323

"PortNum=" の後ろの数字は、「WizardConsole」-「クライアントセットアップ動作環境」で表示されるポート番号を入力してください。

アプリケーションインストール用のスクリプト作成時の注意事項

クライアントセットアップ機能で使用するアプリケーションインストール用スクリプトは、以下の手順で作成してください。なお、スクリプト作成を簡単にするには、アプリケーションをインストールするマシンと同一環境でスクリプト採取することを推奨します。

- 1) クライアントコンピュータへインストールするアプリケーションのインストールコマンドを起動します。
- 2) 上記インストールコマンドの初期画面が表示されたら、Windows 上で動作する自動化ツール(注 1)を使用し、インストール操作のイベント採取を開始します。
- 3) インストール処理が終了したら、自動化ツールのイベント採取を終了します。
- 4) 採取したスクリプトを、配付先のクライアントの環境に合わせ編集し(注 2)、必要に応じてコンパイルします。なお、コンパイルが必要かどうかは使用する自動化ツールのマニュアルを参照してください。
- 5) インストールする製品の機能上、システムに対してリブートを要求してくる場合はリブートを実行せずにインストールが終了するようにスクリプトを採取してください。

注 1)

Windows 上で動作する自動化ツールとは、Windows 上で利用者が行った操作をファイルにスクリプト形式で格納し、そのスクリプトを実行して操作を再現するツールです。

例) 米国ラショナルソフトウェア社の Visual Test

注 2)

採取したスクリプトはイベント採取したマシンに密着したものになっているため、複数のマシンで共通に使用するためには下記の点をカスタイズする必要があります。

不要関数の削除

イベント採取で不要なイベントを採取した場合は不要な処理や関数を削除します。

画面待ち合わせ

採取したスクリプトを実行する際、実行マシンの性能により処理速度が異なるため、スクリプト内で時間を指定して処理の待ち合わせを行うと動作が不安定になります。時間指定で待ち合わせている箇所は、待ち合わせ時間を長くするか、次に表示される画面で待ち合わせを行うようにカスタマイズします。

画面の切り分け

インストール時に表示される画面が局面によって異なる場合は、同一ループ内で複数の画面の待ち合わせを行い、どちらの画面が表示されても対処できるようにカスタマイズします。

付録 C サービスの詳細設定

DHCP の詳細画面

DHCPの詳細

DHCPサーバの詳細を設定してください。

開始アドレス:

終了アドレス:

サブネットマスク:

OK キャンセル ヘルプ

項目	説明
開始アドレス	クライアントに配布する TCP/IP の開始アドレスを入力します。
終了アドレス	クライアントに配布する TCP/IP の終了アドレスを入力します。
サブネットマスク	クライアントに配布する TCP/IP のサブネットマスクを入力します。
[OK] ボタン	設定を有効にし、サービスの設定画面に戻ります。

RAS の設定画面

RASの設定

RASに使うポートとその使用方法を設定してください。

ポート:

追加(A) 削除(R) 決定(O)

クライアントに配布する

☐ TCP/IP ☐ IPX ☐ NetBEUI ☒ すべて

クライアントに接続する

☐ TCP/IP ☐ IPX ☐ NetBEUI ☐ すべて

OK キャンセル ヘルプ

項目	説明
ポート	ポートの詳細画面で追加したポートが表示されます。
[追加] ボタン	ポートの詳細画面が表示されます。
[削除] ボタン	選択したポートを削除する場合にクリックします。

(続く)

項目	説明
[変更] ボタン	選択したポートを変更する場合にクリックします。ポートの詳細画面が表示されます。
ダイヤルアウト プロトコル	ダイヤルアウト時のプロトコルを選択します。着信用に設定されているポートがない場合は設定できません。
ダイヤルイン プロトコル	ダイヤルイン時のプロトコルを選択します。ダイヤルインとして設定されているポートがない場合は設定できません。 [詳細 (T)] ボタン : TCP/IP の詳細画面が表示されます。 [詳細 (X)] ボタン : IPX の詳細画面が表示されます。 [詳細 (N)] ボタン : NetBEUI の詳細画面が表示されます。



ここで選択するプロトコルは、ネットワークの詳細画面で、使用するよう設定されている必要があります。

ポートの詳細画面

項目	説明
ポート	使用するポートを選択します。
ポートの使い方	ポートの使用方法を選択します。
モデム	ポートの詳細画面で設定したポートについては、モデムを選択する必要があります。
製造元	選択したモデムの製造元に関する情報が表示されます。情報がない場合は表示されません。
プロバイダ	選択したモデムの提供元に関する情報が表示されます。情報がない場合は表示されません。

TCP/IP の詳細画面

TCP/IPの詳細

TCP/IPクライアントのアクセス方法を設定してください。

TCP/IP クライアントアクセス

☒ ネットワーク全体 ☐ このコンピュータのみ

☒ DHCPを使用する

開始アドレス 終了アドレス

☐ クライアントに事前に定めたIPアドレスでの要求を許可する

OK キャンセル ヘルプ

項目	説明
TCP/IP クライアントアクセス	TCP/IP クライアントのアクセス方法を選択します。
DHCP を使用する	DHCP を使用する場合にチェックします。チェックしない場合は、開始アドレス、終了アドレスを必ず入力してください。終了アドレスは開始アドレスより大きい値を設定してください。アドレスの値は最低でも「ダイヤルインポート数 + 1」が必要です。
クライアントに事前に定めた IP アドレスでの要求を許可する	クライアントに事前に指定された IP アドレスでの接続を許可する場合にチェックします。

IPX の詳細画面

IPXの詳細

IPXクライアントのアクセス方法を設定してください。

IPX クライアントアクセス

☒ ネットワーク全体 ☐ このコンピュータのみ

☒ 自動でネットワーク番号を設定する

開始ネットワーク番号

☒ すべてのIPXクライアントに同じネットワーク番号を割り当てる

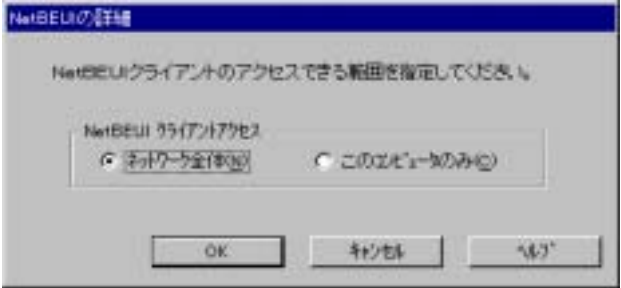
☐ リモートクライアントにIPXポート番号での接続を許可する

OK キャンセル ヘルプ

項目	説明
IPX クライアントアクセス	IPX クライアントのアクセス方法を選択します。
自動でネットワーク番号を設定する	自動でネットワーク番号を設定する場合にチェックします。チェックしない場合は開始ネットワーク番号を 1 ~ FFFFFFFE の範囲の値で入力します。

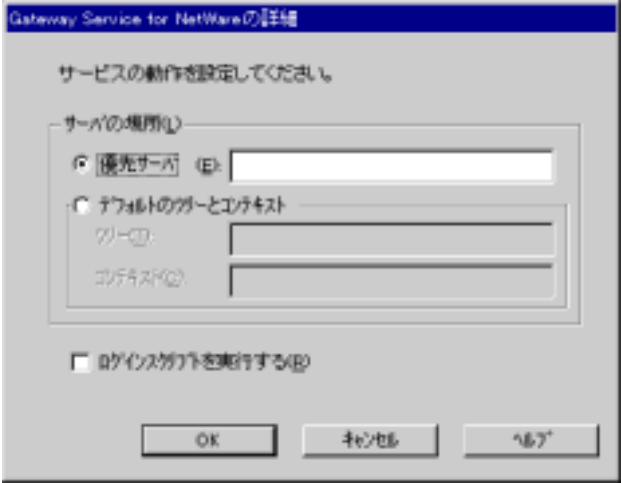
すべてのIPXクライアントに同じネットワーク番号を割り当てる	すべてのIPXクライアントに同じネットワーク番号を割り当てる場合にチェックします。
リモートクライアントにIPX ノード番号での接続を許可する	リモートクライアントにIPX ノード番号での接続を許可する場合にチェックします。

NetBEUI の詳細画面



項目	説明
NetBEUI クライアントアクセス	NetBEUI クライアントのアクセス方法を選択します。

Gateway Service for NetWare の詳細画面



項目	説明
優先サーバ	優先サーバ選択時には優先サーバの場所を半角 47 文字以内で入力します。この項目は省略できます。「.」「_」「-」の 3 文字および英数字のみ使用できます。ただし先頭に「.」を使用することはできません。
デフォルトのツリーとコンテキスト	デフォルトのツリーとコンテキスト選択時には必ず入力してください。ツリーは半角 15 文字以内で入力し、コンテキストと合わせて 127 文字以内にしてください。ツリーには「_」「-」の 2 文字および英数字のみ使用できます。コンテキストには「"」「+」「.」「=」「¥」の 5 文字以外の文字が使用できます。
ログインスクリプトを実行する	スクリプトを実行する場合にチェックします。

SNMP の詳細（エージェント）

A screenshot of the 'SNMPの詳細' (SNMP Details) dialog box, specifically the 'エージェント' (Agent) tab. The dialog has a title bar with 'SNMPの詳細' and a close button. Below the title bar, there are two tabs: 'エージェント' (selected) and 'トラップ' (Trap). The main area contains the text 'SNMPサービスのエージェント情報を設定してください。' (Please set the agent information for the SNMP service.). There are two text input fields: '連絡先' (Contact) and '場所' (Location). Below these is a 'サービス' (Service) section with a list of services and checkboxes: '物理層' (Physical layer), 'データリンク層' (Data link layer), 'ネットワーク層' (Network layer), 'トランスポート層' (Transport layer), 'セッション層' (Session layer), and 'アプリケーション層' (Application layer). At the bottom are 'OK', 'キャンセル' (Cancel), and 'ヘルプ' (Help) buttons.

項目	説明
連絡先	連絡先を半角 128 文字以内で入力します。この項目は省略できます。「.」「_」「-」「@」の 4 文字および英数字のみ使用できます。
場所	場所を半角 128 文字以内で入力します。この項目は省略できます。「.」「_」「-」「@」の 4 文字および英数字のみ使用できます。
サービス	利用したいサービスを選択します。

SNMP の詳細（トラップ）

A screenshot of the 'SNMPの詳細' (SNMP Details) dialog box, specifically the 'トラップ' (Trap) tab. The dialog has a title bar with 'SNMPの詳細' and a close button. Below the title bar, there are two tabs: 'エージェント' (Agent) and 'トラップ' (selected). The main area contains the text 'SNMPサービスのトラップが必要な場合は、以下のトラップ情報を設定してください。' (If you need traps for the SNMP service, please set the trap information below.). There is a text input field for 'コミュニティ名' (Community name). Below this is a 'トラップ送信先' (Trap destination) section with three text input fields labeled '1', '2', and '3'. At the bottom are 'OK', 'キャンセル' (Cancel), and 'ヘルプ' (Help) buttons.

項目	説明
コミュニティ名	コミュニティ名を半角 128 文字以内で入力します。この項目は省略できます。「.」「_」「-」の 3 文字および英数字のみ使用できます。
トラップ送信先	トラップ送信先を半角 80 文字以内で入力します。この項目は省略できます。「.」「_」「-」の 3 文字および英数字のみ使用できます。ただし先頭、末尾には「.」「_」「-」の 3 文字は使用できません。

SNMP の詳細（セキュリティ）



項目	説明
認証トラップを送信する	認証トラップを送信する場合にチェックします。
受け付けるコミュニティ名	受け付けるコミュニティ名を入力します。半角 80 文字以内で入力してください。この項目は省略できます。「.」「_」「-」の 3 文字および英数字のみ使用できます。
すべてのホストから SNMP パケットを受け入れる	すべてのホストから SNMP パケットを受け入れる場合にチェックします。
SNMP パケットの発信ホスト	「すべてのホストからの SNMP パケットを受け入れる」をチェックしていない場合は、半角 80 文字以内で必ず入力してください。「.」「_」「-」の 3 文字および英数字のみは使用できます。ただし先頭、末尾には「.」「_」「-」の 3 文字は使用できません。

付録 D 添付アプリケーションのインストール

ServerWizard V1.0 の CD-ROM には、以下のアプリケーションが収められています。

アプリケーション名	概要	格納フォルダ
DSNAP V1.0	障害調査資料の取得ツール	¥DSNAP
PROBEPRO V1.0	トラブル解決支援ツール	¥PROBEPRO
Power MANagement for Windows 電源制御エージェント V1.1	リモートからサーバの電源 制御を行うツール	¥PMAN¥AGENT
SystemWalker/LiveHelp® Client V4.0	リモートからサーバを操作 するツール	¥LIVEHELP
FM Advisor V2.10	動作環境取得ツール	¥FMADV

ServerWizard でサーバをセットアップ、インストールする際に同時にインストールすることもできますが、インストール後に ServerWizard V1.0 の CD-ROM から必要なアプリケーションをインストールできます。ただし、Power MANagement for Windows は同時インストールはできません。ご使用になる場合は、サーバインストール後 ServerWizard V1.0 の CD-ROM からインストールしてください。

アプリケーションの概要と、インストール方法については以下のとおりです。なお、アプリケーションは Windows NT 用です。詳細については各アプリケーションの"README.TXT"を参照してください。

D-1 DSNAP

DSNAP は、障害調査用資料を一括して採取するコマンドラインユーティリティです。Windows NT システムファイルの構成情報や主要なレジストリの設定、イベントログをコマンドライン操作で容易に採取できます。

DSNAP は、お客様の Windows NT システムに問題が発生した際に、弊社サポート技術者がお客様のシステム・ソフトウェア構成および設定状況を正確に把握し、調査を円滑に進めるために使用します。メモリダンプと共に弊社サポート技術者にお渡しください。

インストール方法

¥DSNAP には、以下のファイルが含まれています。

ハードディスク内のフォルダに複写してください。

DSNAP.EXE

README.TXT

D-2 PROBEPRO

PROBEPRO は、お客様の Windows NT システムでトラブルが発生した際に、弊社サポート技術者がトラブル発生前後のシステム環境の変更点や特異点を客観的に特定し、トラブル解決をより迅速に行うことを目的としたトラブル解決支援プログラムです。

PROBEPRO は、Windows NT システムのトラブル発生に備えて、システム稼動中に、システム情報（モジュール情報、レジストリ情報、パフォーマンス情報）を採取します。

インストール方法

- 1) 管理者権限を持つアカウントでサーバにログオンします。
- 2) CD-ROM ドライブに ServerWizard V1.0 の CD-ROM を挿入します。
- 3) 「スタート」をクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
ファイル名を指定して実行画面が表示されます。
- 4) 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
(CD-ROM ドライブを D に設定している場合)
D:\PROBEPRO\SETUP.EXE
- 5) インストーラが起動します。
画面のメッセージに従ってインストールを行ってください。
- 6) インストール終了後、システムを再起動します。

D-3 Power MANagement for Windows 電源制御エージェント

コンソール側のソフトウェア（電源制御）から Wakeup On LAN 対応機のエージェントの電源を投入および切断（自動シャットダウン）します。

インストール方法

- 1) 管理者権限を持つアカウントでサーバにログオンします。
- 2) CD-ROM ドライブに ServerWizard V1.0 の CD-ROM を挿入します。
- 3) 「スタート」をクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
ファイル名を指定して実行の画面が表示されます。
- 4) 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
(CD-ROM ドライブを D に設定している場合)
D:\PPMAN\AGENT\SETUP.EXE
- 5) インストーラが起動します。
画面のメッセージに従ってインストールを行ってください。
- 6) インストール終了後、システムを再起動します。

D-4 LiveHelp

SystemWalker / LiveHelp@Client V4.0（以下 LiveHelp Client と略します）は、離れた場所に設置された Windows NT サーバをリモート操作するためのソフトウェアです。LiveHelp Client を使うことにより、サーバの管理者は自席に居ながら、離れた場所に設置された Windows NT サーバを自由に操作できます。

操作など、詳しくは「付録 E System Walker / LiveHelp@Client V4.0」を参照してください。

インストール方法

- 1) 管理者権限を持つアカウントでサーバにログオンします。
- 2) CD-ROM ドライブに ServerWizard V1.0 の CD-ROM を挿入します。
- 3) 「スタート」をクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
ファイル名を指定して実行の画面が表示されます。
- 4) 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
(CD-ROM ドライブを D に設定している場合)
D:\LIVEHELP\INSTALL または D:\LIVEHELP\INSTALL /admin
- 5) インストーラが起動します。
画面のメッセージに従ってインストールを行ってください。
- 6) インストール終了後、システムを再起動します。

D-5 FM Advisor

FM Advisor は、お使いのコンピュータの動作環境を調査し、アドバイスするべき情報がないかをチェックするアプリケーションです。また、コンピュータの動作環境取得ツールとしてもお使いいただくことができ、これらの情報を利用して、問題の解決に役立てることができます。

インストール方法

- 1) 管理者権限を持つアカウントでサーバにログオンします。
- 2) CD-ROM ドライブに ServerWizard V1.0 の CD-ROM を挿入します。
- 3) 「スタート」をクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
ファイル名を指定して実行の画面が表示されます。
- 4) 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
(CD-ROM ドライブを D に設定している場合)
D:\FMADV\SETUP.EXE
- 5) インストーラが起動します。
画面のメッセージに従ってインストールを行ってください。
- 6) インストール終了後、システムを再起動します。

付録 E SystemWalker/LiveHelp® Client V4.0

ServerWizard では、サーバに LiveHelp Client ソフトウェアがインストールされますので、サーバをリモート操作する側のパソコンに、LiveHelp Expert ソフトウェア*¹ または SystemWalker/CentricMGR*² を購入してインストールする必要があります。

E-1 操作概要

LiveHelp では、リモート操作されるサーバをクライアント (Client) と呼びます。サーバをリモート操作する人をエキスパート (Expert) と呼びます。クライアントとエキスパートが通信している状態をセッションと呼びます。



[Client] プログラムの起動

操作対象のサーバで [Client] プログラムを起動します。[Client セットアップ] プログラムで [Client] プログラムを Windows NT のサービスとして自動起動するように設定すると、Windows NT へのログオン前からリモート操作が行えます。[Expert] プログラムとの通信方式も [Client セットアップ] プログラムで選択します。



[Expert] プログラムの起動

リモート操作しようとするエキスパートは、LiveHelp の [Expert] アイコンをダブルクリックして、[Expert] プログラムを起動します。エキスパートは、次に示す、[Expert] ツールバーを使ってセッションを管理します。



サーバへの接続

エキスパートは、[セッションへの参加] ボタンをクリックします。エキスパートは、クライアントを選択してサーバに接続します。これでセッションが始まります。



画面受信、



リモート操作

セッションが始まるとすぐに、これらのボタンが自動的にクリックされ、エキスパートはサーバの画面内容を見たり、サーバをリモート操作することができます。

セッション中はツールバーやメニューコマンドを使って LiveHelp のさまざまな機能を利用できます。



画面を全体に表示

画面を全体に表示すると、操作が楽になります。この場合、ツールバーは画面にフロート化されて常に他の画面より手前に表示されます。



特殊キーの送信

[Client]プログラムを Windows NT のサービスとして自動起動するように設定すると、ここで、[特殊キーの送信] ボタンをクリックし、[Ctrl+Alt+Del] キーを送信、Windows NT へのログイン操作が行えます。

[特殊キーの送信] ボタンでは、[Ctrl+Alt+Del]、[Ctrl+Esc]、[Print Screen]、[Alt+Print Screen] キーをサーバに送信します。[Ctrl+Alt+Del] キーを送信すれば、サーバへリモートログイン、ログアウト、シャットダウンもできます。



クリップボード受信

サーバのクリップボードの内容は、[クリップボード受信] ボタンをクリックし、エキスパートのパソコンにコピーできます。



ファイル転送

複数のファイルをエキスパートのパソコンとサーバの間で一括転送。問題解析情報の取得やシステム修復が簡単にできます。



Client の終了

サポートが終了したら、[Client の終了] ボタンをクリックして、動作中の LiveHelp Client を終了することができます。



サーバをリモート操作する場合、LiveHelp Client を終了すると [Client] プログラムを Windows NT のサービスとして自動起動するように設定していない限り、再度接続することができなくなります。



Expert の終了

すべてのサポートが終了したら、[Expert の終了] ボタンをクリックして、LiveHelp Expert を終了します。

Note

[Client の終了] ボタンをクリックせずに LiveHelp Expert を終了すると、LiveHelp Client はサーバで動作を続け、接続待ちの状態になります。

E-2 その他の機能

LiveHelp には前述の操作概要で説明した機能のほか、次のような機能を備えています。

複数人のエキスパートによるリモート操作

サーバの画面やマウスの動きを、複数人のエキスパートがリアルタイムで受信し、同時に状況を把握できます。また、複数人のエキスパートが交代で、自分のキーボードとマウスでサーバを操作、非定型的な操作も自由に行えます。

接続のパスワード

LiveHelp Client の起動時にパスワードを設定できます。この場合、サポート部門の専門家がサーバへ接続する時に同じパスワードの入力が必要になります。[Client] プログラムを Windows NT のサービスとして自動起動するように設定してあれば、この後、Windows NT へのログオンを行うことになります。

エンドユーザのサポート

LiveHelp Client ソフトウェア^{*3}をエンドユーザのパソコンにインストールすると、サーバのリモート操作と同様に、同じ LiveHelp Expert を使って、エンドユーザサポートのためにパソコンをリモート操作できます。

^{*1} 製品名称: SystemWalker/LiveHelp Expert V4.0、製品型名: B2884972

^{*2} 製品名称:

SystemWalker/CentricMGR EE V4.0、製品型名: B293C4490

SystemWalker/CentricMGR SE V4.0、製品型名: B293C1514

SystemWalker/CentricMGR WE 1 サーバ 10 クライアントライセンス付き V4.0、製品型名: B293C4470

^{*3} 製品名称: SystemWalker/LiveHelp Client V4.0、製品型名: B2884962

付録 F 各種情報ファイル

ServerWizard V1.0 では、機種情報ファイル、サーバ情報ファイル、クライアント情報ファイルの 3 つのファイルを使用します。

機種情報ファイル (.MPD)

機種情報には、本体装置固有のハードウェア情報、OS 情報、インストールアプリケーション情報が記述されています。ServerWizard V1.0 の CD-ROM には、あらかじめ機種情報ファイルが登録されていますが、ハードウェア情報が更新されたり、追加された場合には、最新の機種情報でサーバのセットアップを行ってください。

最新の機種情報は、インターネットの弊社ホームページ (GRANPOWER/OPEN WORLD) に掲載されています。内容を確認の上、フロッピーディスクなどにダウンロードしてご使用ください。

ファイル名は、8 文字以内、拡張子は必ず ".MPD" にしてください。

サーバ情報ファイル (.SPD)

サーバ情報ファイルには、DesignMagic で設定した、サーバの情報およびクライアントの情報が登録されます。

ServerWizard でサーバを新規にセットアップするときに直接作成することもできます。ただし、この場合はサーバ設計情報のみとなります。

サーバ情報ファイルは、1 枚のフロッピーディスクに 1 ファイルのみ登録できます。

クライアント情報ファイル (.CPD)

クライアントをセットアップするためのファイルです。ServerWizard でサーバをインストールしたあとに、WizardConsole 機能を使用して作成します。

クライアント情報ファイルを登録したフロッピーディスクを使うと、クライアントのセットアップが自動的に行えます。また、あらかじめクライアントに配布するアプリケーションなどの資源が登録されている場合は、セットアップ時にアプリケーションなどのインストールも自動的に行われます。

クライアントごとに 1 つのフロッピーディスクを作成した場合は、クライアントごとにセットアップが行えます。

全クライアントを 1 つのフロッピーディスクに作成した場合は、順番にセットアップが行えます。

索引

記号/アルファベット

8.3 形式.....	25
BIOS セットアップユーティリティ	7
ClientWizard.....	99
DesignMagic 画面のメニュー	14
DesignMagic の流れ.....	11
DHCP の詳細	121
DSNAP.....	127
EMF 形式	44
FM Advisor	129
FMLBP211PS.....	111
FMLBP225PS.....	111
FMLBP シリーズ	110
FMPR シリーズ.....	110
Gateway Service for NetWare の詳細	124
IPX の詳細.....	123
IP アドレス.....	83
LiveHelp.....	129
NetBEUI の詳細.....	124
NTFS.....	16
Power MANagement for Windows 電源制御 エージェント	128
PROBEPRO	128
RAID を構築するときの注意点は?	114
RAS の設定.....	121
RAW 形式	44
SBS インストール後の注意事項.....	69
ServerWizard.....	47
ServerWizard V1.0 の概要.....	1
ServicePack の適用	59

SNMP の詳細	125
TCP/IP の詳細.....	123
TCP/IP プロトコル.....	18
Windows NT Server の再インストール	69
WizardConsole.....	73

ア

アプリケーションインストール用のスクリプト 作成時の注意事項	119
アプリケーションの削除	118
インストール	50, 64
インストールディレクトリ.....	68

カ

起動 (DesignMagic)	13
起動 (WizardConsole)	73
共有フォルダ	22
共有フォルダの設定	25
区画 (パーティション) はどのように作成され ますか?	113
区画のサイズ	16
クライアントコンピュータの追加/変更	82
クライアントセットアップ.....	29,88
クライアント導入フロッピーの作成	86
クライアントのデスクトップ環境.....	38
グループ	22
グループの設定.....	23
コンピュータの設定	22
コンピュータ名.....	83

サ

サーバ情報設定画面での操作	50
サーバ情報ファイルの作成	88

サーバ設計	15
サーバをセットアップする	47
スーパーフロッピー形式の光磁気ディスク	115
スタンドアロンサーバ	56
セットアップ	50
セットアップ手順	8
セットアップ前の準備	99

タ

大容量メモリ搭載時の留意事項	70
ディスプレイの状態	68
データベース種別の設定	95
デスクトップ環境設定画面の説明	39
デスクトップ環境設定画面のメニュー	39
同時にインストールできる台数	118

ナ

内蔵オプション取り付け時の注意	7
-----------------------	---

任意の用紙サイズを設定する	111
ネットワークの設定	18

ハ

バックアップディスク	71
バックアップドメインコントローラ	56
必要なシステム	6
プライマリドメインコントローラ	56
プリンタ増設カード	111
プリンタを追加するには？	110
ページ移動	51
ポートの詳細	122
ポート番号の設定	95

マ～

モデムを追加するには？	109
ユーザの設定	24
ロック機能	13

GRANPOWER5000シリーズ
ServerWizard V1.0 ソフトウェアガイド
B1FH-4561-04-01
発行日 1999年 11月
発行責任 富士通株式会社
Printed in Japan

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権および
その他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
無断転載を禁じます。
落丁、乱丁本はお取り替えいたします。